

山口県立美術館年報

平成19～20年

ANNUAL REPORT
2007～2008
YAMAGUCHI PREFECTURAL ART MUSEUM



山口県立美術館年報

平成19～20年

ANNUAL REPORT

2007～2008

YAMAGUCHI PREFECTURAL ART MUSEUM

目 次

山口県立美術館概要	4
1) 事業	
I 展覧会事業	5
(1) 特別展	6
(2) 常設展	26
II 教育普及事業	49
(1) HEART	50
(2) 山口県美術展覧会	56
(3) 美術館ニュース「天花」	60
(4) 博物館実習	61
(5) 美術館ボランティア	62
(6) 美術館学校地域連携推進事業	65
(7) その他の事業	70
III 調査研究事業	71
雪舟研究会	72
IV 収集事業	75
(1) 館蔵品貸出利用状況	76
(2) コレクション	81
(3) 山口県立萩美術館・浦上記念館 陶芸展示施設整備に伴う陶芸作品の移管	84
(4) 美術図書	88
2) 入館者数一覧	89
3) 組織等	93

山口県立美術館概要

所在地	山口市亀山町3番1号
敷地面積	11,618.330平方メートル
建物概要	構 造 鉄筋コンクリート造／地下1階・地上2階／一部鉄骨造 建物面積 4,077.168平方メートル 建物延面積 5,477.880平方メートル
工 期	1977(昭和52)年8月～1979(昭和54)年3月
設 計	鬼頭梓建築設計事務所
管 理	山口県建築課 鬼頭梓建築設計事務所
施 工	鹿島建設株式会社／日本電設工業株式会社／株式会社大気社／塩田工業株式会社
総工費	17億円

展覧会事業

常設展

館蔵品を通じて本県の美術文化の歴史や郷土が生んだ代表的作家の全貌、郷土の風土と生活のなかに育まれた代表的な工芸などをわかり易く常設展示する。

企画展

館の調査研究にもとづき、テーマを設定し、内外のすぐれた作品を借用するなどしてユニークな自主企画展示をする。

その他の展示

新聞社や他館との共催展や美術団体展などすぐれた内容の展覧会を誘致し公開する。

教育普及事業

公募展等

県美術展覧会などの公募展を開催し、県民に作品創作の場を提供する。

講演会・講座

実技講座、美術講座、美術講演会などを実施し、県民が美術への理解を深める場を提供する。

ボランティア

美術館活動をサポートする組織としてボランティア制度を設け、ボランティアの知識や経験を生かした活動を通じて県民の美術館活動への理解を広めるとともに、その活動が県民にとって美術により深く接する場となることをねらいとする。

美術館学校連携

児童生徒、教員が芸術文化にふれあい、ともに学ぶ場としての美術館の普及をはかる。

調査研究および収集事業

本県の美術に関する調査研究を実施し、基礎資料や作品の収集を充実させるとともに、これを整理保管し有効な活用をはかる。

事業

I. 展覧会事業

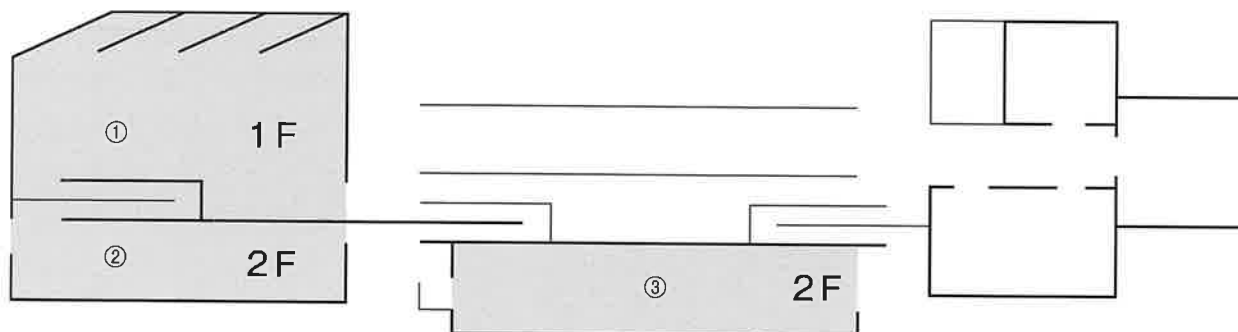
(1) 特別展

当館では、館主催による大型企画展ではおもに個人作家展やテーマ展などを、小型企画展では現代美術をそれぞれ取り上げてきた。会場は原則的には企画展示室Ⅰ・Ⅱ（①・②）の2室を使用してきたが、近年は展覧会規模の大型化にともない、この2室に加え常設展示室Ⅱ（③）をこの延長スペースに使う状況が定着してきている。

いわゆる共催展は、新聞社等の企画による巡回展が主なものであった。原則として年に2～3本程度開催してきた。展示室は原則的には企画展示室Ⅰ・Ⅱ（①・②）を使用しているが、自主企画展と同様に近年では展覧会規模の大型化により共催展についてもその延長スペースとして常設展示室Ⅱ（③）を併用するケースが多い。

近年では、新聞社等との共同出資による実行委員会方式の共催展が主流になるとともに、共催展そのものに当館の学芸スタッフが参画するケースが増えている。さらに、当館単独で開催される大型企画展も実行委員会方式で運営されるようになる傾向にあるため、企画展、共催展は区別せず特別展として扱っている。

なお、館内案内と美術館ニュース「天花」での展示室表記は、平成20年度より、企画展示室Ⅰを展示室D、企画展示室Ⅱを展示室C、常設展示室Ⅱを展示室Bとしている。



企画展示室Ⅰ	①	583.298㎡
企画展示室Ⅱ	②	304.695㎡
常設展示室Ⅱ	③	471.825㎡

* 凡例

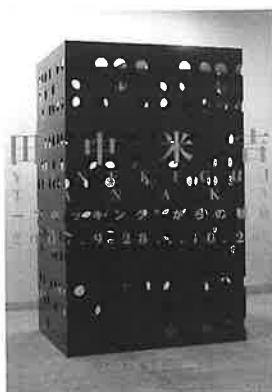
以下の展覧会は名称（会期・主催等）・(1) 趣旨・(2) 会場構成・(3) カタログ・(4) 出品作品リスト (5) 講演会等の順で編集した。

田中米吉 — “ドッキング” からの視線

2007(平成19)年9月28日(金)～10月28日(日) 月曜日休館 (ただし10月8日は開館、9日休館)

主 催 山口県立美術館、朝日新聞社、yab山口朝日放送

会 場 常設展示室Ⅱ、企画展示室Ⅰ・Ⅱ、ロビーほか



チラシ



ポスター

(1) 趣旨

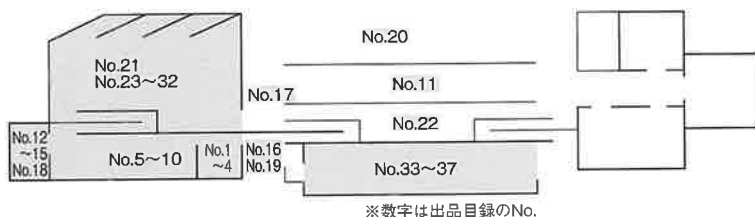
山口を制作の拠点とする田中米吉(1925-)の美術館での初の個展である。新作のインスタレーションによる現在の作家の紹介から始まり、1960年代の作品から1990年代初めの作品まで計37点で作品の変化とその根底に流れる作家の変わらぬ思想をたどる展示とした。

力強い新作、点字からヒントを得たという1960年代の作品、同心円が重なる作品、鉄の直方体がまるで重力から解き放たれたかのようにユラユラと動く作品、美術館の床がそのまま立体に立ち上がったサイトスペシフィックな作品など、部屋を移るたびにガラリと変わる作風に、来館者はみな驚き、楽しんでいる様子が見て取られた。

「難しい」と思われがちな抽象彫刻であるが、とても楽しんで見てもらうことができたようである。その理由には、遠くから作品に近づくなど鑑賞者の立ち位置が変わるにつれて作品の見え方が変わることや、「鉄は重い」という常識を覆すような動きを見せるなど、驚きを生み、どうしてそうなるのかという好奇心を刺激するような作品であったことがあげられるだろう。腕組みをし、難しい顔をして見るのではなく、来館者もリラックスして抽象彫刻を見ている姿が多くみられた。来館者を引きつけたのは作品の魅力に加えて、これだけの迫力の作品を作っている作家が、実は自分たちと同じ山口という地で制作を続けている人なのだということにもあったように思う。東京や海外といった我々の日常とは離れた場で制作されたものではなく、いわば「隣のおじさん」的な作家の手によるものだが、親近感を与えたのかもしれない。児童・生徒に配布する展覧会紹介チラシでは、田中米吉氏に親近感を持ってもらおうと、氏の子どもの頃についてインタビューを収録した。

田中米吉氏は会期中毎日会場に滞在し、積極的に来館者に作品について語ってくださった。作家から直に作品の話聞く機会があったのも、来館者が作品を楽しむことができた要因であろう。会期中に実施した作家によるギャラリートークも大盛況で、1時間強のギャラリートークの間、作家の話に熱心に聞く来館者の姿が印象的であった。

(2) 会場構成



(3) カタログ

編集 山口県立美術館

内容

ごあいさつ

図版

資料

田中米吉の「立体」作品 中原佑介

田中米吉の視線 前田淳子

略歴



カタログ

展覧会歴
文献目録
出品リスト
* A4判 80ページ

(4) 出品目録

No.	タイトル	制作年	寸法 (mm)	素材	所蔵 (記載のないものは作家蔵)
1	機能性 (点字333333)	1965	1600×3200	アルミニウム	山口県立山口高等学校
2	点字 A	1965	2000×3000	アルミニウム 塗装 (白)	山口県立美術館
3	点字 (エッセイ)	1965	2000×5000	アルミニウム 塗装 (白)	
4	機能性 (点字333)	1966	1610×1818	アルミニウム	北九州市立美術館
5	Docking B・R 19	1968	1830×1550×1800	アルミニウム 塗装 (黒・赤・白)	
6	Docking B・W 20	1968	1830×1550×1800	アルミニウム 塗装 (黒・白)	山口県立美術館
7	Docking B・W 21	1968	1830×1550×1800	アルミニウム 塗装 (黒・白)	
8	Docking B・W 22	1968	1830×1550×1800	アルミニウム 塗装 (黒・白)	
9	Docking C4	1968	800×2645×840(3点)	アルミニウム 塗装 (多色)	
10	Docking C7	1968	1215×1280×1150	アルミニウム 塗装 (黒・白・青・赤)	
11	ドッキング (空間の無限の脱皮) No.3	1972	1700×1000×2200	プラスチック・アクリルラッカー、ステンレス、鉄	
12	ドッキング (空間の無限の脱皮) No.5	1974	500×678×1050	プラスチック・アクリルラッカー	
13	ドッキング (空間の無限の脱皮) No.14	1974	500×580×1290	プラスチック・アクリルラッカー	
14	ドッキング (空間の無限の脱皮) No.16	1974	555×750×670	プラスチック・アクリルラッカー	山口県立山口図書館
15	ドッキング (空間の無限の脱皮) No.17	1974	590×750×670	プラスチック・アクリルラッカー	山口県立山口図書館寄託
16	ドッキング (空間の無限の脱皮) No.20	1974	500×1055×840	プラスチック・アクリルラッカー	北九州市立美術館
17	ドッキング (空間の無限の脱皮) No.22	1975	145×1260×1260	プラスチック・アクリルラッカー、鏡	山口県立美術館
18	ドッキング (空間の無限の脱皮) No.55	1976	610×660×660	プラスチック・アクリルラッカー	
19	ドッキング No.29	1976	605×999×1500	アルミニウム合金・鉄	北九州市立美術館
20	ドッキング No.40	1977	940×4550×7000	アルミニウム合金・鉄	山口県立美術館
21	Docking (表面) No.56	1980	3000×300×300	木・石膏ボード	
22	Docking (表面) No.74	1982		木・タイル	
23	Untitled No.96-4・1985	1985	705×500×500	鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
24	Untitled No.114-1989	1989	950×1700×1220	鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
25	Untitled No.116-1989	1989	1210×1525×1117	コールドステンレス・鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
26	Untitled No.117-1989	1989	350×2250×1800	鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
27	Untitled No.119-1990	1990	2480×1230×950	コールドステンレス・鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
28	Untitled No.120-1990	1990	1005×1700×1220	コールドステンレス・鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
29	Untitled No.201-1991	1991	850×990×630	コールドステンレス・鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
30	Untitled No.202-1991	1991	895×1030×700	鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
31	Untitled No.203-1991	1991	895×600×600	ステンレス・鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
32	Untitled No.208-1993	1993	1390×2090×1587	コールドステンレス・鉄・ステンレスワイヤ・アクリルパイプ	
33	Universality (自己・非自己) No.820-2006	2006	2480×1500×1275	鉄	
34	Universality (自己・非自己) No.821-2007	2007	4350×696×540	鉄	
35	Universality (自己・非自己) No.822-2007	2007	2470×4820×1225	鉄	
36	Universality (自己・非自己) No.823-2007	2007	2400×1770×1485	鉄	
37	Universality (自己・非自己) No.824-2007	2007	2424×3735×2865	鉄	

(5) 講演会等

■ギャラリートーク

「田中米吉 作品を語る」 作家によるギャラリートーク

日時：10月7日(日) 14:00～

10月21日(日) 14:00～

参加者数：のべ150人

■キッズイベント

美術館ボランティアによるこどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」

日時：会期中毎週土曜日 11:00～

参加者数：のべ35人

モディリアーニと妻ジャンヌの物語展

2007(平成19)年11月10日(土)～12月16日(日) 会期中無休

主催 山口県立美術館、毎日新聞、tysテレビ山口

後援 フランス大使館、イタリア大使館、

特別協賛 エルクホームズ株式会社

協賛 大日本印刷、中国電力株式会社、山口県医師会

特別協力 山口銀行、エフエム山口

協力 全日本空輸

企画協力 イデア・ジャポン

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ、常設展示室Ⅱ



チラシ



ポスター

(1) 趣旨

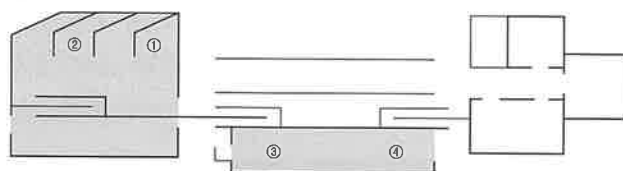
本展覧会は、エコール・ド・パリの代表的な画家であるアメデオ・モディリアーニの最後の恋人、ジャンヌ・エビュテルヌの画家としての活動を紹介し、これまで孤高の天才と彼のミューズとして語られてきた二人の関係性を脱神話化することをテーマに企画されたものである。出展作品の中核を占めるエビュテルヌ・コレクションは、長年ジャンヌ・エビュテルヌの遺族が秘蔵してきたコレクションであり、その芸術的、資料的価値はきわめて高い。本邦初公開となる同コレクションを中心に、モディリアーニとジャンヌそれぞれの油彩、水彩、デッサン124点に加えて、充実した資料を展示した本展は、2007(平成19)年4月7日に開幕したBunkamura ザ・ミュージアムでの展覧会を皮切りに、本館を含む全国5会場で開催された。

35歳という若さでこの世を去ったモディリアーニ。そしてその二日後に彼を追って自ら命を絶ったジャンヌは、その時妊娠8ヵ月であった。こうした事実から、二人の関係はこれまでその悲劇的な側面のみが強調されてきたが、近年発見されたエビュテルヌ・コレクションによって、ジャンヌの存在は従来彼女に課せられてきたイメージ、すなわち才能に溢れた画家を支える若く美しいモデルといった、いわば近代の芸術家像を補強する副次的な役割に留まるものではないことが明らかとなった。さらに画家としてのジャンヌ、そして二人の関係性を通して、モディリアーニ最晩年の作品群に対するより深い理解が可能となった。こうした最新の研究成果をもとに、二人の悲しくも美しき物語を作品と資料で紹介した。

展示構成に関しては、鑑賞者が二人の出会いから別れまでを時間軸に沿って迎えることができるように、本館独自の改変を積極的に行った。具体的には作家別、メディア別の展示ではなく、モディリアーニとジャンヌ二人の作品を年代順に4つのセクションに分けて並置した。この展示構成によって、モディリアーニとジャンヌそれぞれの芸術的展開が俯瞰できるとともに、二人のドラマティックな関係性を通して相互の影響関係をよりわかりやすく提示することが出来た。こうした展示空間の工夫に加えて、鑑賞者が二人の世界にスムーズに入っていけるように、広報を含めてさまざまな試みを行った。専門家による講演会、作品解説リーフレットの作成、学芸員によるギャラリー・トーク、ボランティアによる子供のためのギャラリー・トークなど作品解説の充実をはじめ、二人が歩いたパリの地図と関係人物の相関図を配した児童向けのリーフレットの作成、コンサートの開催、展覧会の世界観に合わせたカフェ「Cafe MODI」および関連グッズを扱ったミュージアムショップの営業、夜間特別開館「モディリアーニ夜話」の実施、山口情報芸術センターと連携しての関連映画の上映など、多角的な話題づくりを行った。これらに加えてポスターやチラシ、入場券などの印刷物に趣向を凝らし、タイトルに使われている「物語」という言葉から本をイメージしたデザインで統一することで、まとまりのある洗練された世界感を創出した。

(2) 会場構成

- ① CHAPITRE I. はじまりの前ー出会う前のふたり
- ② CHAPITRE II. モディとジャンヌー出会いと同棲の始まり
- ③ CHAPITRE III. 南仏へーニースへの旅立ち
- ④ CHAPITRE IV. 最後のパリー永遠の沈黙



(3) カタログ

監修 マルク・レストリーニ、木島俊介

編集 Bunkamura ザ・ミュージアム、札幌芸術の森美術館、島根県立美術館、山口県立美術館、東京新聞
内容

ごあいさつ 主催者

アメデオ・モディリアーニとジャンヌ・エビュテルヌー運命のカップル

マルク・レストリーニ

モディリアーニとモンパルナスの世界 木島俊介

図版

I. 出会う前の二人 宮澤政男

II. 出会いと同棲の始まり 宮澤政男

III. ニースへの旅立ち 河野通孝

IV. 永遠の沈黙 廣川暁生

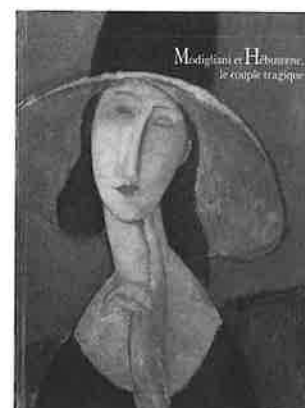
資料編

年譜

主要参考文献

出品リスト

* A4変形版 207ページ



カタログ

(4) 出品目録

作品の記載順序は本館独自の展示構成に従っているため、カタログ番号は順不同である。
また、カタログ番号1番の作品は山口会場には出展されていない。

Cat. No.	作品タイトル	作者名	制作年	素材	寸法 (cm)	所蔵
CHAPITRE I. はじまりの前ー出会う前のふたり						
2	ベアトリス・ヘイスティングス	アメデオ・モディリアーニ		青鉛筆・紙	22 × 14	個人蔵
3	ディエゴ・リベラ	アメデオ・モディリアーニ		青鉛筆・紙	35 × 23	個人蔵
7	顎髭のないレオポルド・ズボロフスキーの肖像	アメデオ・モディリアーニ	1917年	黒鉛・紙	42 × 26	個人蔵
8	マックス・ジャコブの肖像	アメデオ・モディリアーニ		鉛筆・紙	29.5 × 22.5	パリ、カゾー＝ペロディエール・ギャラリー
9	ポール・ギヨームの肖像	アメデオ・モディリアーニ		鉛筆・紙	42 × 25	パリ、カゾー＝ペロディエール・ギャラリー
10	ジャック・リブシツの肖像	アメデオ・モディリアーニ		鉛筆・紙	35 × 26	パリ、カゾー＝ペロディエール・ギャラリー
11	美しいギリシヤ人女性	アメデオ・モディリアーニ	1915年	鉛筆・紙	42.5 × 26.5	パリ、カゾー＝ペロディエール・ギャラリー
4	若い娘の肖像 (ルイズ)	アメデオ・モディリアーニ	1915年	油彩・厚紙	50 × 37	オランダ、トリトン財団
6	シャイム・スーチン	アメデオ・モディリアーニ	1916年	油彩・キャンヴァス	100 × 65	個人蔵
12	自画像	ジャンヌ・エビュテルヌ		グワッシュ・厚紙	29.7 × 18.9	個人蔵
13	ピアノを弾く人	ジャンヌ・エビュテルヌ		グワッシュ・厚紙	31.4 × 17.3	個人蔵
14	ラ・バヤデール	ジャンヌ・エビュテルヌ		グワッシュ・紙	37.5 × 26.3	個人蔵
15	ジャンヌ・エビュテルヌの父、アシル・カジミール・エビュテルヌ	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	41.7 × 26	個人蔵
17	鍋の横で読書するアシル・カジミール・エビュテルヌ	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	43.3 × 25.5	個人蔵
16	ジャンヌ・エビュテルヌの母、ウドクシ＝アナイス・テリエ	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	26.9 × 21.1	個人蔵
19	部屋にいるウドクシ＝アナイス・テリエ、ジャンヌ・エビュテルヌの母	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	39.8 × 24.9	個人蔵
18-表	キモノの女性 (母ウドクシの肖像)	ジャンヌ・エビュテルヌ		グワッシュ・厚紙	32.7 × 25	個人蔵
18-裏	果物と花	ジャンヌ・エビュテルヌ		グワッシュ・厚紙	32.7 × 25	個人蔵
20	たたずむ女	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	27 × 21.3	個人蔵
21	ウドクシ＝アナイス・テリエ、ジャンヌ・エビュテルヌの母とティーポット	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	33.5 × 26	個人蔵
22	コーヒーカップのある静物	ジャンヌ・エビュテルヌ		グワッシュ・紙	24.5 × 24.5	個人蔵
23	ピッチャー、瓶、フルーツ	ジャンヌ・エビュテルヌ		油彩・キャンヴァス	65 × 50	個人蔵
24	ナビ派風の習作	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	26.9 × 20.9	個人蔵

25-表	岸辺	ジャンヌ・エビュテルヌ	グワッシュ・厚紙	29.8 × 39.5	個人蔵
25-裏	黒い服を着たブルターニュ女性	ジャンヌ・エビュテルヌ	グワッシュ・厚紙	39.5 × 29.8	個人蔵
26	徴兵されたアンドレ・エビュテルヌ	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	43.1 × 25.9	個人蔵
27	軍服の友人の横顔	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.8 × 25.7	個人蔵
28	軍服の友人	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.8 × 25.8	個人蔵
29	ジャンヌ・エビュテルヌの母と軍服の友人を含む3人の人物	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.8 × 25.7	個人蔵
CHAPITRE II. モディとジャンヌ—出会いと同棲の始まり					
30	ジャンヌ・エビュテルヌ	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	42.5 × 25.5	個人蔵
31	ジャンヌ・エビュテルヌ	アメデオ・モディリアーニ 1916年	鉛筆・紙	43 × 26	個人蔵
32	コンスタン・ルブートル	アメデオ・モディリアーニ 1917年	油彩・キャンヴァス	92 × 65	個人蔵
33	ハンカ・ズボロフスカ	アメデオ・モディリアーニ 1917年	油彩・キャンヴァス	46.5 × 38.5	個人蔵
34	珊瑚の首飾りの女性 (マドレーヌ・ヴェルドゥ)	アメデオ・モディリアーニ 1918年	油彩・キャンヴァス	92.8 × 65.8	個人蔵 / ネヴィル・キーティング・ピクチャーズ
35	アメデオ・モディリアーニのモデルの「首飾りの女性」	ジャンヌ・エビュテルヌ	油彩・キャンヴァス	73 × 60.5	個人蔵
36	シャイム・スーチン	ジャンヌ・エビュテルヌ	油彩・キャンヴァス	73.1 × 54.3	個人蔵
37	ピエール・エドゥアール・バラノフスキー	ジャンヌ・エビュテルヌ	油彩・キャンヴァス	81 × 40.5	個人蔵
38	女性の肖像	アメデオ・モディリアーニ 1918年	油彩・キャンヴァス	81 × 54	個人蔵
39	読書	ジャンヌ・エビュテルヌ	油彩・キャンヴァス	78.5 × 54.5	個人蔵
40	中庭	ジャンヌ・エビュテルヌ	油彩・キャンヴァス	73 × 50.5	個人蔵
41	赤い屋根	ジャンヌ・エビュテルヌ	油彩・キャンヴァス	65 × 55.7	個人蔵
42	パリの屋根	ジャンヌ・エビュテルヌ	油彩・キャンヴァス	65.3 × 55	個人蔵
43	食器棚の静物	ジャンヌ・エビュテルヌ	油彩・キャンヴァス	65 × 54.5	個人蔵
44	静物	ジャンヌ・エビュテルヌ	油彩・キャンヴァス	55 × 39.5	個人蔵
45	パレットをもつベアトリス・ヘイスティングスの肖像	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	32 × 24	パリ、カゾー=ペロディエール・ギャラリー
46	帽子を被った肖像	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	47 × 28	パリ、カゾー=ペロディエール・ギャラリー
47	帽子を被った女の肖像	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	42 × 26	パリ、カゾー=ペロディエール・ギャラリー
48	自画像	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.9 × 25.8	個人蔵
49	パイプをくわえたアメデオ・モディリアーニ	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	33.7 × 25.9	個人蔵
50	自画像—習作	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.8 × 26	個人蔵
51	横顔のジャンヌ・エビュテルヌ—習作 I	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	33.6 × 26	個人蔵
52	横顔のジャンヌ・エビュテルヌ—習作 II	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	43.1 × 25.9	個人蔵
53	若い娘、2月6日	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.8 × 25.8	個人蔵
54	自画像	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	48 × 30	個人蔵
55	レオポルド・ズボロフスキー	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	48.3 × 30.3	個人蔵
56	帽子を被った肖像	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	41.8 × 25.8	個人蔵
57	男の肖像	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	48.3 × 29.9	個人蔵
58	顎髭のある男のエスキス	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	41.8 × 25.8	個人蔵
59	首飾りの裸婦	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	48.4 × 30.2	個人蔵
60	座る裸婦	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41 × 25.7	個人蔵
61	椅子に寄りかかる裸婦	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.9 × 26	個人蔵
62	踊る裸婦	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	46.4 × 29	個人蔵
63	座る裸婦	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	43.1 × 26.4	個人蔵
64	後ろ向きの裸婦	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	41.8 × 25.8	個人蔵
65	踊るジャンヌ・エビュテルヌ	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	43.4 × 26.4	個人蔵
66	アトリエの中庭	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	43.1 × 25.9	個人蔵
67	アトリエからの眺め (ラ・ボム・ド・パン商店)	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	22 × 17	個人蔵
68	ろうそく立てのある室内	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	43.1 × 25.7	個人蔵
69	裸婦	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.7 × 26	個人蔵
70	楽譜のあるキュビスム風の習作	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	33.7 × 25.9	個人蔵
71	デッサンをする人物の横顔	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	43.1 × 25.8	個人蔵
72	女の習作	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.8 × 25.8	個人蔵
73	ふたりの孤児	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	27 × 20.9	個人蔵
74	女の顔の習作	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	43 × 26	個人蔵
75	座る女	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	43.8 × 26.7	個人蔵
76	ヴェールの女	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	33.4 × 26.1	個人蔵
77	きつねの襟巻きの女	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.7 × 25.8	個人蔵
78	日傘の女	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.9 × 25.7	個人蔵
79	男の肖像	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	32 × 24	個人蔵
80	男の肖像	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	48.3 × 30.3	個人蔵
81	座る女の肖像 (ジャンヌ・エビュテルヌ)	アメデオ・モディリアーニ 1917年	鉛筆・紙	61 × 30.5	パリ、カゾー=ペロディエール・ギャラリー
82	デュソムラール通り	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	41.8 × 25.8	個人蔵
83	トック帽の女	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	43.1 × 25.8	個人蔵
84	ヴェールの女	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	33.7 × 25.9	個人蔵
85	帽子を被ったモディリアーニ	ジャンヌ・エビュテルヌ	鉛筆・紙	43.7 × 26.7	個人蔵
86	ジャンヌ・エビュテルヌ	アメデオ・モディリアーニ	鉛筆・紙	48.3 × 30.5	個人蔵

CHAPITRE III. 南仏ヘーニースへの旅立ち

87	大きな帽子を被ったジャンヌ・エビュテルヌ	アメデオ・モデリアーニ	1918年	油彩・キャンヴァス	55 × 38	個人蔵
88	赤毛の若い娘、ジャンヌ・エビュテルヌ	アメデオ・モデリアーニ	1918年	油彩・キャンヴァス	46 × 29	個人蔵
89	肩をあらわにしたジャンヌ・エビュテルヌ	アメデオ・モデリアーニ	1919年	油彩・キャンヴァス	66 × 47	個人蔵
90	レオポルド・ズボロフスキー	アメデオ・モデリアーニ	1918年	油彩・キャンヴァス	46 × 27	個人蔵
91	ズボロフスキー夫人の肖像	アメデオ・モデリアーニ	1918年	油彩・キャンヴァス	55 × 46	個人蔵
92	髪を丸く編んだ若い娘	アメデオ・モデリアーニ	1918年	油彩・キャンヴァス	46 × 33	個人蔵
93	ブロンドの若い娘の胸像	アメデオ・モデリアーニ	1919年	油彩・キャンヴァス	65 × 46	個人蔵
94	首飾りの老婦人	ジャンヌ・エビュテルヌ		油彩・キャンヴァス	92 × 54.2	個人蔵
95	クローシュ帽の女	ジャンヌ・エビュテルヌ		油彩・キャンヴァス	92 × 65.2	個人蔵
96	風景のなかの帽子の女	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	43.3 × 26	個人蔵
97	『ルーヴル』紙を読む女	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	43.1 × 25.7	個人蔵
98	列車の中で	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	43.3 × 25.5	個人蔵
99	帽子の男	アメデオ・モデリアーニ		鉛筆・紙	33.7 × 25.9	個人蔵
100	シャイム・スーチンの肖像	アメデオ・モデリアーニ		鉛筆・紙	26.9 × 20.6	個人蔵
101	パイプをくわえた男	アメデオ・モデリアーニ		鉛筆・紙	41.8 × 26.2	個人蔵
102	口髭の男	アメデオ・モデリアーニ		鉛筆・紙	41.9 × 26	個人蔵
103	前髪のある男	アメデオ・モデリアーニ		鉛筆・紙	48.6 × 30.1	個人蔵
104	風景	アメデオ・モデリアーニ		鉛筆・紙	42.5 × 25.5	個人蔵
105	私の窓からの眺め	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	43.1 × 25.7	個人蔵
106	柵	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	25.6 × 41.3	個人蔵
107	妊娠中のジャンヌ・エビュテルヌ	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	41.8 × 25.8	個人蔵
108	正面向きのジャンヌ・エビュテルヌのヌード	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	42 × 25.8	個人蔵
109	アメデオ・モデリアーニとジャンヌ・エビュテルヌ	アメデオ・モデリアーニと ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	21.9 × 16.8	個人蔵

CHAPITRE IV. 最後のパリー永遠の沈黙

110	ロジェ・デュティユール	アメデオ・モデリアーニ	1919年	油彩・キャンヴァス	100 × 65	個人蔵
111	トーラ・クリンコウストロム (ダルデル)	アメデオ・モデリアーニ	1919年	油彩・キャンヴァス	99.7 × 64.8	イヴリン・シャープ相続人
112	アニー・ビャーネ	アメデオ・モデリアーニ	1919年	油彩・キャンヴァス	100 × 65	個人蔵
113	自画像	アメデオ・モデリアーニ		鉛筆・紙	43 × 26	個人蔵
114	肘をつく男性裸像	アメデオ・モデリアーニ		鉛筆・紙	43 × 26	個人蔵
115	青の自画像	アメデオ・モデリアーニ		青インク・紙	49 × 31	個人蔵
116	アトリエの庭	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・インク、紙	27 × 21.1	個人蔵
117	眠るモデリアーニ	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	35.9 × 23.7	個人蔵
118	病床のモデリアーニ I	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	27.7 × 25.7	個人蔵
119	病床のモデリアーニ II	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	26.5 × 26	個人蔵
120	病床のモデリアーニ III	ジャンヌ・エビュテルヌ		鉛筆・紙	26.2 × 41.8	個人蔵
121	『レ・シャンソン』誌のある室内	ジャンヌ・エビュテルヌ		水彩・紙	27.8 × 21	個人蔵
122	アメデオ・モデリアーニとジャンヌ・エビュテルヌ、ニースにて	ジャンヌ・エビュテルヌ		水彩・紙	27.8 × 20.8	個人蔵
123	死	ジャンヌ・エビュテルヌ		水彩・紙	27.9 × 20.8	個人蔵
124	自殺	ジャンヌ・エビュテルヌ		水彩・紙	20.7 × 27.9	個人蔵

(5) 講演会等

■講演会

「顔をみる／かく／かながえる」 講師：鷺田清一(大阪大学教授)

日時：11月18日(日) 14:00～

会場：山口県立山口図書館レクチャールーム

参加者数：120人

「どうして首が長いの？美術史から見たモデリアーニ」 講師：宮下規久朗(神戸大学准教授)

日時：11月23日(祝) 14:00～

会場：美術館講座室

参加者数：80人

■学芸員によるギャラリー・トーク

日時：11月18日(日)、12月2日(日) および会期中毎週月曜日 11:00～

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリー・トーク

「みんなでみよう」

日時：会期中毎週土曜日 11:00～

参加者数：のべ25人

■イベント

夜間特別開館 11月22日(木)～25日(日)までの期間、20:00まで開館を延長。
特別鑑賞会「モディリアーニ夜話」 18:00～(夜間特別開館期間中)

「哀愁のパリ・シャンソンコンサート」 松永祐子
日時：11月23日(祝)、24日(土) 17:00～、18:30～
場所：山口県立美術館 玄関ロビー

映画上映会「モディリアーニ 真実の愛」
日時：会期中毎週土曜日 10:00～、13:30～
場所：美術館講座室

映画上映会「モンパルナスの灯」
日時：11月28日(水)、29日(木) 13:30～
11月30日(金) 13:30～、19:00～
12月1日(土)、2日(日) 13:30～、16:00～
場所：山口情報芸術センター

ミュージアム・コンサート(人美響町づくり推進会議主催)
日時：12月8日(土) 18:30～21:00 山口大学付属中学校弦楽合奏部、レ・カプリシュー、ピアノトリオ
15日(土) 18:30～21:00 山口アーバンナイツ
場所：山口県立美術館 玄関ロビー

■託児サービス「ちびっこルーム」(定員制・要予約)

日時：会期中毎週木曜日 10:00～13:00
会場：美術館講座室
利用者数：のべ48人

いわさきちひろ展 ようこそ！ちひろの家へ

2008(平成20)年4月17日(木)～5月25日(日) 4月21日、5月7日、5月12日、5月19日休館

主催 毎日新聞社、tysテレビ山口、ちひろ美術館

共催 山口県立美術館

後援 山口県、山口県教育委員会、山口市、
山口市教育委員会、山口県PTA連合会、
(財)山口県私立幼稚園協会、
山口県医師会、エフエム山口

協賛 株式会社原弘産

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ、常設展示室Ⅱ



チラシ



ポスター

(1) 趣旨

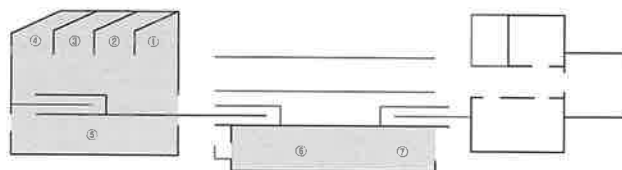
小さい頃から絵を描くことが好きで、14歳で画家の岡田三郎助に師事したいわさきちひろ（1918～1974）。敗戦の翌年、彼女は疎開先の松本から上京し、絵を学びながら、新聞記者として働き、1950年に結婚。翌年には最愛の一人息子をもうけるが生活は厳しく、やむなく一時、わが子を信州の両親のもとに預ける。1952年、家族3人が一緒に暮らせる小さな家を東京の練馬の上井草に建てる。以降22年間、ちひろはこの家に暮らし、母として、画家として生き、描き続けた。

本展では、この上井草の家における生活者としてのまなざし、母親としてのまなざしが感じられる代表作123点を展示し、1952年当時の家の一角にあったささやかなアトリエを復元・公開した。

当館では18年ぶりのちひろ展。今回の「家」をコンセプトとした展覧会に訪れた来館者からは、なつかしいとの声が多く聞かれた。

(2) 会場構成

- ①ちひろの庭 ②母のまなざし ③子どもたちの声
- ④ちひろの家、 ⑤ちひろのあゆみ ⑥絵本
- ⑦少女のころ、少年のころ



(3) カタログ

内容

ごあいさつ 主催者

ちひろの家 松本猛

図版

解説 いわさきちひろ展—ようこそ！ちひろの家へ 松方路子

いわさきちひろ年譜

作品リスト

ちひろ美術館・東京、安曇野ちひろ美術館（美術館紹介）

* 25×25cm 131ページ



カタログ

(4) 出品目録

1	五つぶのえんどう豆	1972年	水彩・クレヨン・鉛筆
2	チューリップと子ども	1970年頃	水彩・鉛筆
3	水仙の花畑のうさぎたち	1969年	水彩・鉛筆
4	春の花とこぎつね	1964年	水彩
5	花の国の子どもたち	1964年	水彩
6	きのこと傘をさした少年	1966年	水彩・鉛筆
7	小犬と雨の日の子どもたち	1967年	水彩・クレヨン・鉛筆
8	黄色い傘のふたり	1971年	水彩・鉛筆
9	夏の宵の白い花と子ども	1969年	水彩・鉛筆
10	緑の風のなかの少女	1972年	水彩
11	窓から手を振る子どもと犬	1972年	水彩
12	ききょうと子どもたち	1967年	水彩・鉛筆

13	十五夜の月	1965年	水彩・鉛筆
14	枯れ草と少女	1970年	水彩・鉛筆
15	「かわいいかくれんぼ」	1965年	水彩・鉛筆
16	木の葉の精	1973年	水彩
17	湯あかりのあかちゃん	1971年	水彩・鉛筆
18	母の日	1972年	水彩・鉛筆
19	おつむてんてん	1971年	水彩・鉛筆
20	ピンクのリボンのあかちゃん	1971年	水彩・鉛筆
21	お姉さんとあかちゃん	1971年	水彩・鉛筆
22	本を読んでもらうあかちゃん	1967年	インク
23	新聞紙で遊ぶあかちゃん	1967年	インク
24	ころがって指しゃぶりをするあかちゃん	1965年	インク
25	蝶と乳母車に乗ったあかちゃん	1971年	水彩
26	長男・猛	1951年7月5日	水彩・鉛筆
27	立てひざの少年	1970年	パステル・水彩
28	ランドセルをしょって並んで歩く一年生	1966年	水彩
29	はないちもんめ	1958年	水彩・クレヨン・鉛筆
30	ままごと	1963年	水彩・クレヨン・鉛筆
31	桜の花びらを見つめる子ども	1968年	水彩・鉛筆
32	身体測定	1966年	水彩・鉛筆
33	「ロンドン橋がおちる」	1966年	水彩・鉛筆
34	ストーブとふたりの子ども	1960年代後半	水彩・鉛筆
35	かけっこ	1970年	水彩・鉛筆
36	のほり棒	1970年	水彩・鉛筆
37	冷やし中華を食べる男の子	1960年代半ば	水彩・鉛筆
38	母親とお手伝いをする子ども	1962年	インク
39	水着の女の子	1970年	パステル
40	絵をかく女の子	1970年	パステル
41	顔を洗う男の子	1956年	水彩・鉛筆
42	そうじをする子ども	1956年	水彩・鉛筆
43	手紙をポストにいれる男の子	1956年	水彩
44	自画像（27歳）	1946年9月11日	鉛筆
45	屋根裏のアトリエで本を読む自画像	1947年頃	インク
46	昼寝をする夫 善明	1950年5月11日	鉛筆
47	犬と遊ぶ善明 猛 明子	1953年頃	鉛筆
48	車内で息子をスケッチするちひろ	1954年	鉛筆
49	神戸原より田園風景をのぞむ	1950年頃	鉛筆・水彩
50	信州の父母	1951年8月1日	鉛筆・水彩
51	子ども	1962年	キャンバスに油彩
52	モスクワ 赤の広場	1963年6月22日	鉛筆・水彩
53	キエフ 老人たち	1963年7月7日	鉛筆・水彩
54	レニングラード アイスクリーム屋	1963年6月20日	鉛筆・水彩
55	デンマーク 新聞を読む女	1966年3月29日	鉛筆・水彩
56	オーデンセ アンデルセンの家	1966年3月30日	鉛筆・水彩
57	ルーブル サモトラケのニケ	1966年4月3日	鉛筆・水彩
58	フィレンツェ ポンテ・ヴェッキオの夕日	1966年4月15日	鉛筆・水彩
59	花のなかのおやゆび姫	1965年	水彩・パステル・鉛筆
60	マッチをともす少女	1964年	水彩
61	五つぶのえんどう豆	1964年	水彩・鉛筆
62	空飛ぶトランク	1963年	水彩
63	すずめのへいたい	1964年	水彩
64	夕焼けのなかのつると娘	1966年	水彩・鉛筆
65	雪の日に訪ねてきた娘	1966年	水彩・鉛筆
66	雪道を歩くおじいさん	1966年	水彩・鉛筆
67	つるを助けるおじいさん	1966年	水彩・鉛筆
68	はたを織るつる	1966年	水彩・鉛筆
69	青い鳥を追いかけけるチルチルとミチル	1969年	水彩・鉛筆
70	未来の国の子どもたち	1969年	水彩
71	光のなかの妖精たち	1969年	水彩・鉛筆
72	思い出の国の入口に立つチルチルとミチル	1969年	水彩・鉛筆
73	冬の火のしあわせと喜びたち	1969年	水彩
74	光がさしこんできた森	1969年	水彩・鉛筆
75	見つめる少女	1967年	鉛筆
76	「そのときほくは」	1967年	鉛筆・墨

77	焼け跡を見つめる少年	1967年	鉛筆・墨
78	死んだ子どもを抱く目の見えなくなった母親	1967年	鉛筆・墨
79	防空ずきんにくるまるあかちゃん	1967年	鉛筆・墨
80	窓の外を見る少女	1970年	パステル
81	引越しのトラック	1970年	パステル
82	引越しのトラックを見つめる少女	1970年	パステル
83	垣根ごしにのぞく子ども	1970年	パステル
84	しずかなよる	1970年	パステル
85	外で朝ごはんを食べるふたり	1970年	パステル
86	怪獣ごっこをして遊ぶ子ども	1970年	パステル
87	汽車の窓から見える海	1973年	水彩
88	鏡のなかの少女	1973年	水彩
89	海辺で小犬と遊ぶ少女I	1973年	墨・鉛筆
90	海辺で小犬と遊ぶ少女II	1973年	墨・鉛筆
91	海辺で小犬と遊ぶ少女III	1973年	墨・鉛筆
92	海とふたりの子ども	1973年	水彩
93	小犬を抱く少女	1973年	水彩
94	帽子に入った小犬	1973年	水彩・パステル
95	うきぶくろで泳ぐ少女	1973年	水彩
96	タオルを持つあひる	1970年	水彩
97	セーターを脱ぐ子ども	1970年	水彩
98	ズボンを脱ぐ子ども	1970年	水彩
99	シャツを脱ぐ子ども	1970年	水彩
100	はだかんぼ	1970年	水彩・鉛筆
101	爆撃機	1973年	墨・鉛筆
102	シクラメンの花のなかの子どもたち	1973年	水彩・鉛筆
103	少年	1973年	鉛筆・水彩
104	焼け跡の姉弟	1973年	鉛筆・墨
105	たたずむ少年	1972年	鉛筆・水彩
106	「世界中の子どもみんなに平和としあわせを」	1970年	パステル
107	ぶどうを持つ少女	1973年	水彩・鉛筆
108	くじゃくと少女	1966年	水彩
109	カナリヤと青い帽子の子ども	1971年	水彩・鉛筆
110	白いマフラーをした緑の帽子の少女	1971年	水彩・鉛筆
111	こげ茶色の帽子の少女	1970年代前半	水彩・鉛筆
112	てるてるぼうずと少女	1971年	水彩・色鉛筆・鉛筆
113	本を抱える少女	1970年	パステル・水彩
114	横顔の少年	1970年	パステル・水彩
115	どろんこの少年	1970年	パステル・水彩
116	クリスマスの詩	1965年	水彩
117	かんらんしゃ	1967年	水彩・鉛筆
118	毛糸を編む少女	1972年	水彩
119	雪のなかを走る子ども	1970年	水彩・鉛筆
120	花の精	1970年頃	水彩・鉛筆
121	蝶と黄色い帽子の少年	1971年	水彩・鉛筆
122	貝がらと赤い帽子の少女	1967年	水彩
123	海辺の小鳥	1972年	水彩

(5) 講演会等

■特別講演会 「ちひろの絵の楽しみ方」

日時：4月17日（木） 14:00～

講師：松本猛（安曇野ちひろ美術館長）

美術館講座室

参加人数：70人

■ギャラリートーク

松方路子（ちひろ美術館学芸員）

日時：4月18日（金） 10:00～、14:00～、4月19日（土） 10:00～

斎藤郁夫

日時：4月28日（月）、5月17日（土）、5月24日（土） いずれも10:00～

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリートーク

「みんなでみよう」

日時：会期中毎週土曜日 11:00～

■こどもと本ジョイントネット21・山口による絵本の読み聞かせ

日時：会期中毎週土曜日 14:00～

■託児サービス「ちびっこルーム」(定員制・要予約)

日時：会期中毎週木曜日 10:00～13:00

利用者数：のべ18人

美がむすぶ絆 — ベルリン国立アジア美術館所蔵日本美術名品展

2008(平成20)年7月30日(水)～9月21日(日) 月曜休館 (9月15日は開館、翌16日休館)

主催 山口県立美術館、毎日新聞社、tysテレビ山口

後援 ドイツ連邦共和国大使館・総領事館

協賛 宇部興産株式会社、エルクホームズ株式会社、
中国電力株式会社

協力 ルフトハンザドイツ航空、ルフトハンザカーゴ、
財団法人地球環境財団

特別協力 山口銀行、エフエム山口

企画協力 ホワイトインターナショナル

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ、
常設展示室Ⅱ



チラシ



ポスター

◎夜間特別開館 8月中の毎週土曜日は20:00まで開館(入館は19:30まで)

(1) 趣旨

東西ドイツ統一から30年を迎えようとしているドイツの首都ベルリンでは、「博物館島」を中心に展開する国立博物館群の再編成が進められている。なかでも質の高いコレクションを誇る東洋美術の殿堂・ベルリン東洋美術館は2006年、その前身であるベルリン国立博物館東洋部門の設立から100周年を迎えるにあたってインド美術館と統合し、「ベルリン国立アジア美術館」としての新しいスタートを切った。本展覧会はこれらの記念をふまえ、同館コレクションと寄託作品より、日本の平安時代から昭和に至る絵画および浮世絵版画70件116点を紹介したものである。2008年4月の郡山市立美術館を皮切りに、当館を含む全国4会場の巡回展として開催された。旧ベルリン東洋美術館所蔵品の日本におけるまとまった展示は、1992年に開催されたドイツ東西統一記念展以来である。

ジャポニスムに沸く19世紀後半のヨーロッパ、なかでもドイツでは、東洋美術の総合的な研究と収集が開始され、包括的で優れた日本美術コレクションが形成された。これは激動の20世紀のあいだも変わることなく、日本文化への理解と親愛をもって多くの人々に支えられ今日まで伝えられてきたのである。

本展では、それら各々の美術品としての魅力はもちろんのこと、日本美術史の流れを見渡すことのできる入門的な要素を示し、100年以上にわたるコレクションと日独交流史を重ねながら鑑賞されることを意図したものとなった。このコレクションをつくりあげたドイツの研究者やコレクターたちを紹介するパネルも山口独自に制作し、作品を保存し次の世代へと繋いでいった人々の存在も紹介した。また、コンセプトを前面に打ち出すため、展示構成はもとより、多角的な関連イベントも試みた。学芸員による三種類のギャラリートーク(「入門トーク」、「夕涼みトーク」、「雪舟トーク」)、二回の講演会、ドイツ紅茶の講座、ドイツ絵本読み聞かせ、目玉作品《天稚彦草紙絵巻》をテーマとした子ども漫画の発行等を通じ、幅広い層の集客を図った。

さらに当館コレクション展との連動効果もねらい、《西湖図屏風》の展示に合わせた当館雲谷派《西湖図屏風》のコレクション展出陳、コレクション展セット券の販売などを行った。

入場者数は19226人。

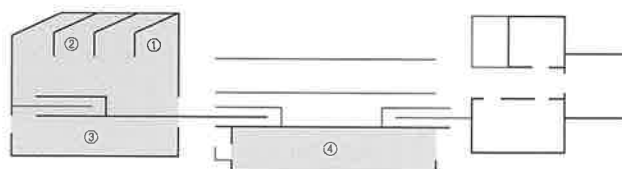
(2) 会場構成

①第1章：Willkommen! ようこそ、伯林日本画展覧会へ！

②第2章：Sammler 日本通たちとコレクション

③第3章：祈りと風雅—仏画と水墨画、狩野派—

④第4章：百花繚乱、江戸の粋と美—江戸絵画と浮世絵—



(3) カタログ

編集 郡山市立美術館、岩手県立美術館、山口県立美術館、愛媛県美術館

内容

あいさつ 主催者

美術品という“外交官” 小林忠

ベルリン国立アジア美術館所蔵「東洋美術コレクション」のなかの日本美術

Dr. ヴィリバルト・ファイト (翻訳 斎藤郁夫)

造形史上におけるベルリン本《地藏菩薩像》の独創性について 鈴木誠一

1885年収蔵のふたつのやまと絵—《天稚彦草紙絵巻》と《扇面 平家物語》— 杉野愛

《河内木綿製織図巻》をめぐる 長井健

カタログ

第一章 祈りと風雅—仏画と水墨画—

第二章 百花繚乱—近世絵画の魅力—

第三章 江戸の粋と美—浮世絵—

第四章 新しい絆—近代日本画とベルリン—

作品リスト

List of Works

関連年表

主要参考文献一覧

* A4版変形29cm 185ページ



カタログ

前期: 7/30~8/24
後期: 8/26~9/21
記載のないものは、全期間展示

(4) 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年代	具数	材質	法量	展示期間
1		大般若波羅蜜多經	平安時代	12世紀	五十巻のうち第二巻	紺紙金銀泥 縦4.4×横約200	後期
2		地藏菩薩像	鎌倉時代	13~14世紀	一幅	絹本着色 117.0×50.5	前期
3		文殊菩薩像	鎌倉時代	13~14世紀	一幅	絹本着色 105.0×44.5	前期
4		山越阿弥陀図	鎌倉時代	14世紀	一幅	絹本着色 102.0×49.7	後期
5		十一面観音菩薩像	鎌倉時代後期 ~南北朝時代	14世紀	一幅	絹本着色 108.8×52.5	後期
6		春日宮曼荼羅	南北朝時代~ 室町時代	14~15世紀	一幅	絹本着色 101.2×37.3	前期
7	土佐広周	天稚彦草紙絵巻	室町時代	15世紀	一卷	紙本着色 32.3×1082.9	7/30-8/10: 6・7段
8		羅漢図	室町時代	15世紀	一幅	絹本着色 85.5×57.0	後期
9	伝 吉山明兆	白衣観音図	室町時代	15世紀	一幅	絹本墨画 78.0×30.2	前期
10		三教図	室町時代	15世紀	一幅	紙本墨画淡彩 90.5×32.1	後期
11	守拙道人	山水図	室町時代	15世紀前半	一幅	紙本墨画 68.0×33.0	後期
12	長吉	山水図	室町時代	16世紀前半	一幅	紙本墨画淡彩 102.0×47.7	前期
13	前嶋宗祐	風雨山水図	室町時代	16世紀	一幅	紙本墨画淡彩 50.0×34.5	後期
14	藤原正吉	架鷹図	室町時代	16世紀	二幅	紙本着色 114.0×46.5	前期
15	狩野派	花鳥図屏風	室町時代~ 桃山時代	16世紀	六曲一隻	紙本着色 146.6×350.0	前期
16		西湖図屏風	江戸時代	17世紀前半	六曲一双	紙本墨画淡彩 金泥引 右隻 145.5×347.3 左隻 143.5×347.6	後期
17	俵屋宗達 下絵、 本阿弥光悦 書	四季草花下絵和歌 色紙帖	江戸時代	17世紀前半	三十六枚のうち十 枚	紙本金銀泥絵 墨書 18.3×16.2	前期: 6面 (1満月図+2梅竹図、9躑躅図+10山茶花図、17柳図+18竹図) 後期: 4面 (21菊図+22菖図、31鶴図+32水仙図)
18	狩野山雪	松に山鳥・杉に小 禽図屏風	江戸時代	17世紀前半	六曲一双	紙本金地著色 151.5×361.5	前期
19	狩野探幽	縮図画帖「筆圍 佚遊」	江戸時代	寛文年間 (1661~1673)	一帖	紙本墨画淡彩 39.6×58.6	7/30-8/10: 1~13頁 8/12-8/24: 14~31頁 後期: 32~56頁
20	伝 土佐光起	河内木綿製織図巻	江戸時代	17世紀	一卷	紙本着色 33.1×678.5	
21		花車図屏風	江戸時代	17世紀後半	八曲一双	紙本金地著色 168.5×504.0	後期

22	扇面 平家物語	江戸時代	17世紀	六十面のうち十五面	紙本金地著色	8.8×24.8	前期:7面(2祇王、7有王、8医師問答、10鮎の沙汰、12山門牒状、14月見、18早馬) 後期:8面(28還亡、32緒環、33太宰府落、38宇治川合戦、44落足、53先帝身投、54能登殿最期、60大原御幸)
23	絵所左近 烏芻沙摩明王図	江戸時代	17世紀後半	一幅	紙本著色	126.5×63.0	
24	伝 尾形光琳、尾形乾山、渡辺始興 宇知和画帖	江戸時代	18～19世紀	一帖	紙本著色	各約24×24	前期:1萩枯梗、2月下清流、3流れに鶯鶯、4雪下緑葉、5雁来紅、6萩 後期:7瓜、8半月、9紅芙蓉、10白藤、11寒山拾得、12岩に瀑布
25	柳沢淇園 百花百虫図	江戸時代	18世紀	一幅	絹本著色	125.0×40.2	
26	池大雅 山水図屏風	江戸時代	明和年間(1764～1772)	二曲一隻	紙本墨画	129.5×116.8	
27	宋紫石 南天に小禽図	江戸時代	明和年間(1764～1772)頃	一幅	絹本著色	88.0×33.3	
28	伊藤若冲 伏見人形図	江戸時代	18世紀	一幅	紙本著色	104.0×27.8	
29	伊藤若冲 素絢帖	江戸時代	明和5年(1768)	一帖	紙本拓版	29.8×35.2	2梅7/30-8/3、14芥子8/5-8/10、18仙人掌8/12-8/17、19蓮8/19-8/24、23鈍豆8/26-8/31、29瓢箪9/2-9/7、30葡萄9/9-9/15、31竹9/17-9/21
30	曾我籙白 牧童図	江戸時代	18世紀	一幅	紙本墨画	110.7×56.7	
31	長沢蘆雪 鶴図	江戸時代	寛政5年(1793)頃	一幅	絹本著色	96.0×36.1	
32	呉春 山水図屏風	江戸時代	天明年間(1781～1789)後半	六曲一双	紙本墨画	153.0×357.0	
33	紀操亭 群仙図屏風	江戸時代	18世紀後半	六曲一双	紙本墨画淡彩	171.0×384.0	後期
34	岡田米山人 江村春色図	江戸時代	文化9年(1812)	一幅	絹本墨画淡彩	126.4×40.3	
35	中村芳中 朝顔図	江戸時代	19世紀	一幅	絹本著色	100.3×35.0	
36	渡辺崋山 鹿図	江戸時代	文化10年(1813)	一幅	絹本著色	151.0×71.0	
37	菊池容斎 宇治川真景図	江戸時代	天保14年(1843)	一幅	絹本著色	41.0×56.3	
38	菱川派 四季草花美人絵巻	江戸時代	元禄年間(1688～1704)頃	一卷	絹本著色	34.5×700.8	
39	宮川長春 美人図	江戸時代	18世紀	一幅	絹本著色	167.0×93.5	
40	勝川春章 唐子図襖	江戸時代	18世紀	二面	絹本著色	25.2×73.0	
41	歌川豊広 夏冬江戸美人図	江戸時代	寛政年間(1789～1801)後期	双幅	絹本著色	100.0×39.4	
42	歌川国貞 夫婦肖像	江戸時代	天保元～10年(1830年代)か	双幅	絹本著色	91.0×34.0	
43	熙代勝覧 熙代勝覧	江戸時代	文化2年(1805)頃	一卷	紙本著色	43.7×1232.2	
44	鳥居清倍 市川団十郎と大谷広次	江戸時代	享保12～14年(1727～1729)頃	一面	細判墨摺絵	32.3×15.2	前期
45	奥村政信 鏡をみる美人	江戸時代	寛保・寛延年間(1740～1750)頃	一面	幅広柱絵判紅絵	60.6×21.9	後期
46	鳥居清満 枕相撲	江戸時代	宝暦年間後期(1760～1765)頃	一面	横大判紅摺絵	31.1×44.2	前期
47	鈴木春信 行燈と遊女	江戸時代	明和年間(1764～1772)頃	一面	中判錦絵	27.7×19.7	前期
48	鈴木春信 絵曆 見立為朝	江戸時代	明和2年(1765)	一面	中判錦絵摺物	27.5×20.6	後期
49	磯田湖龍斎 江戸町二丁目玉屋内しづか	江戸時代	安永年間(1772～1781)頃	一面	中判錦絵	26.0×19.0	後期
50	勝川春潮 三囲詣	江戸時代	天明年間中期～寛政年間中期(1781～1801)頃	一面	大判錦絵三枚続	37.5×75.6	後期
51	喜多川歌麿 錦織歌麿形新模様白うちかけ	江戸時代	寛政9年(1797)頃	一面	大判錦絵摺物	38.6×25.1	前期
52	喜多川歌麿 画本虫撰	江戸時代	天明8年(1788)	一冊	彩色摺大本	27.2×33.5	前期:馬追虫・百足 後期:蛇・蜥蜴
53	鳥文斎栄之 青楼美人六花仙扇屋花扇	江戸時代	寛政6～7年(1794～1795)頃	一面	大判錦絵摺物	38.2×25.4	後期
54	鳥文斎栄之 風流七小町 雨乞	江戸時代	天明年間中期～寛政年間初期(1785～1790)頃	一面	大判錦絵(紅嫌い)	37.9×25.5	前期
55	東洲斎写楽 三代目佐野川市松の祇園町白人おなよと市川富右衛門の蟹坂藤馬	江戸時代	寛政6年(1794)	一面	大判錦絵	37.7×25.4	前期
56	窪後満 里芋図	江戸時代	寛政年間中期～文化年間中期(1795～1810)頃	一面	横長判摺物	18.4×51.1	後期

57	溪斎英泉	化粧する芸者	江戸時代	文政3～5年 (1820～1822)頃	一面	大判錦絵	38.6×26.0	後期
58	魚屋北溪	初八声	江戸時代	文政8年(1825)	一面	色紙判錦絵摺物	21.1×18.2	前期
59	葛飾北斎	鷺 垂桜	江戸時代	天保5年(1834)頃	一面	中判錦絵揃物	25.3×18.8	後期
60	歌川広重	東都名所 日本橋 雪中	江戸時代	天保年間末期 (1840～1844)頃	一面	横大判錦絵揃物	21.5×35.0	後期
61	歌川国芳	魚の心	江戸時代	嘉永年間 (1848～1854)頃	一面	大判錦絵揃物	36.2×25.6	前期
62	松本楓湖	名和長年護帝・ 楠木正成迎撃図	明治時代	19～20世紀	双幅	絹本着色	102.3×41.8	
63	横山大観	叭々鳥	昭和5年(1930)		一幀	紙本墨画	80.2×117.0	
64	竹内栖鳳	魚菜	昭和5年(1930)		一幀	絹本着色	66.8×71.9	
65	結城素明	白雲出岫	昭和5年(1930)		一幀	絹本着色	116.5×100.2	
66	籾木清方	水聲	昭和5年(1930)		一幀	絹本着色	84.2×102.3	
67	川合玉堂	深山晚秋	昭和5年(1930)		一幀	絹本淡彩	62.3×87.5	
68	小室翠雲	昆虫図	昭和5年(1930)		二幅	紙本着色	41.4×59.5	
69	橋本関雪	雨後の朝	昭和5年(1930)		一幀	絹本着色	112.0×132.0	
70	名取春仙	ヴィルヘルム・ゾル フ肖像	昭和7年(1932)		一枚	紙本木版	37.7×25.6	

(5) 講演会等

■講演会

「日本の眼：日本美術を愉しむ」

講師：小林忠（学習院大学教授）

日時：8月17日(日) 14:00～

会場：美術館講座室

定員：80人

「ドイツの眼：我々という異人」

講師：ヒンターエーダー＝エムデ・フランツ（山口大学教授）

日時：9月14日(日) 14:00～

会場：美術館講座室

定員：80人 *講演は日本語

■学芸員によるギャラリートーク

「入門トーク」前期：7月31日(木)、8月1日(金)、2日(土)、3日(日)、5日(火) 10:00～

後期：8月26日(火)、27日(水)、28日(木)、29日(金)、30日(土) 10:00～

「夕涼みトーク」特別夜間開館日 8月2日(土)、9日(土)、16日(土)、23日(土)、30日(土) 18:00～

「雪舟トーク」9月7日(日)、14日(日)、21日(日) 11:00～

■ドイツ紅茶と日本美術を楽しむ会

講師：天野伸一（ゴールドティーマスター）

日時：9月1日(月) 13:00～15:00

会場：美術館ロビー他

定員：28人

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリートーク

「みんなでみよう」

日時：毎週土曜日 11:00～

■ボランティアによるワークショップ

「飛び出すJapanese Art」

展覧会出品作品中のモチーフを使い、紙を切る、折る、貼るという行為でポップアップカードを制作

日時：8月3日(日)、30日(土) 14:00～15:30

場所：美術館ロビー

■ボランティアによる展示企画

「作品記憶力クイズ」

展覧会出品作品の昆虫や動物などのモチーフの一部を消したパネルを制作して掲示。そこに何が描かれていたかを思い出すことで作品の印象を深め、展覧会会場の中での楽しいくつろぎのスペースをつくる。

掲示場所：2階休憩室

■こどもと本ジョイントネット21・山口によるドイツ絵本の読みきかせ

「おはなし広場」

日時：会期中毎週土曜日 11:30～

場所：美術館ロビー

■託児サービス「ちびっこルーム」

日時：会期中毎週木曜日 10:00～13:00

利用者：のべ8人

運慶流 —鎌倉・南北朝の仏像と蒙古襲来—

2008(平成20)年11月11日(火)～12月21日(日) 月曜休館 (ただし11月24日は開館、25日休館)

主催 山口県立美術館、NHK山口放送局、読売新聞西部本社、KRY山口放送

特別協力 エフエム山口

会場 山口県立美術館 企画展示室Ⅰ、Ⅱ、常設展示室Ⅱ



チラシ (A 4)

予告チラシ (A 4変形 4種類)

ポスター (B 2)

(1) 趣旨

本展覧会は、佐賀県立美術館（主催：佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県立美術館、佐賀新聞社／会期：2009(平成21)年1月1日～2月15日）との合同企画である。展示作品は一部を除き、当館と佐賀県美の二館で巡回したが、実行委員会は別々に組織した。

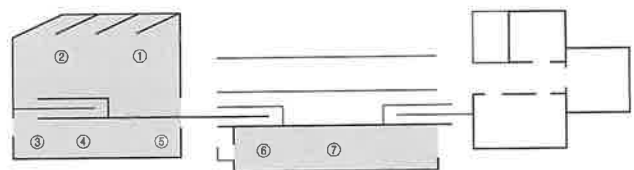
内容は、鎌倉時代から南北朝時代まで活躍した運慶 (?～1223) の門流の仏師たち活躍と、13世紀後半の蒙古襲来という歴史的イベントとの関わりを紹介するものである。西日本地域においては、蒙古襲来を契機に異国退散祈願のための寺院が多く建立され、運慶四代の湛康とその門流の仏師たちが活躍している。外敵を撃ち払う荒々しいほとけとして、運慶の流れをくむ仏像が求められたからである。この蒙古襲来に前後する時代に焦点をあて、鎌倉時代から南北朝時代に到る運慶門流の仏師たちが、運慶の様式をどのように受け継ぎ、展開させていったのかを概観するのが本展覧会である。なお、運慶門流は一般に「慶派仏師」あるいは「七条仏師」などと呼ばれて来たが、本展覧会で新たに「運慶流」と命名した。

この十数年ほどの間に、鎌倉・南北朝時代の仏教美術研究は、飛躍的に進歩し、運慶研究も大きく進展した。運慶作品については、新発見が相次いで世間の関心を集めている。鎌倉・南北朝期の運慶流仏師についても、これまで一人とみなされていた康俊という仏師が二人いたことや、運慶流仏師に跡目争いが起こったことなど、新たな知見が出てきている。こうした研究の進展や、運慶に対する研究者や世間一般の関心度の高さからみても、本展覧会は、タイムリーな企画だったと言えるだろう。

また、運慶流仏師の各世代と、活躍した時代との関係を提示することで、「西日本に所在する運慶流仏像」という地方的問題から「運慶様式とは何か」という全国的問題にまで、幅広いテーマを提示することが出来た。

近年、大都市圏で開催されている名品仏像展のような、派手さのない展覧会であったが、入館者数36,120人と好評を博すことができた。こうした地方発信の展覧会が、好評を博したことの意味は大きい。

(2) 会場構成



- ① 蒙古襲来と運慶流 (四代湛康) 22,9,10
- ② 運慶と運慶之一流 (三代康円、二代湛慶、初代運慶) 4～8
- ③ 運慶と運慶之一流 (康慶) 2,3
- ④ 蒙古襲来と運慶流 (四代湛康の門流) 11～20
- ⑤ 蒙古襲来から南北朝の内乱へ (五代康誉) 21,23
- ⑥ 蒙古襲来から南北朝の内乱へ (五代南都大仏師康俊) 24～26
- ⑦ 蒙古襲来から南北朝の内乱へ (六代東寺大仏師康俊) 27～33

(3) カタログ

編集 佐賀県立美術館・山口県立美術館

発行 特別展「運慶流」佐賀実行委員会／特別展「運慶流」山口実行委員会

内容

ごあいさつ

目次

運慶のひみつ序説 山本勉

図版

第一章 運慶と運慶之一流

コラム「二〇〇七年の運慶」「ほとけの内と外」「伝説の仏師＝運慶」

第二章 蒙古襲来と運慶流－湛康門流の活躍

コラム「蒙古襲来と中世美術」「戦とほとけ－蒙古襲来と運慶流」

第三章 蒙古襲来から南北朝の内乱へ－康誉と康俊－

コラム「運慶五代－康誉をめぐって」「康俊が二人になるまで」

論文

「運慶流小伝」 竹下正博

「蒙古襲来の時代」 本多美穂

作品解説

運慶流年表

運慶流文献目録

出品目録

謝辞 写真提供・撮影

奥付

List of Works

* A4判変形 126ページ



カタログ

(4) 出品目録

第一章 運慶と運慶之一流

目録番号	指定	名称	作者	員数	時代	所蔵
2	◎	地藏菩薩像	康慶	一軀	平安時代 治承元年 (1177)	静岡・瑞林寺
3	◎	伎楽面・治道	康慶	一面	鎌倉時代 建久七年 (1196)	奈良・東大寺
4	◎	大日如来像	〈運慶〉	一軀	鎌倉時代 (十二世紀)	栃木・光得寺
5	◎	獅子・狛犬	〈湛慶〉	三対	鎌倉時代 嘉禄元年 (1225)	京都・高山寺
6	◎	釈迦如来像	—	一軀	鎌倉時代 (十三世紀)	佐賀・東妙寺
7	◇	薬師如来像	—	一軀	鎌倉時代 (十三世紀)	京都・妙光寺
8	◎	愛染明王像	康円	一軀	鎌倉時代 文永十二年 (1275)	京都・神護寺

第二章 蒙古襲来と運慶流－湛康門流の活躍

目録番号	指定	名称	作者	員数	時代	所蔵
9	◇	薬師・大日・十一面観音像	〈湛康〉	三軀	鎌倉時代 永仁二年 (1294)	佐賀・三岳寺
10	◇	持国天・多聞天像	湛康	二軀	鎌倉時代 永仁二年 (1294)	佐賀・円通寺
11		聖徳太子像 (南無仏太子)	—	一軀	鎌倉時代 徳治二年	奈良・法隆寺
12	◎	聖徳太子像 (南無仏太子)	湛康・湛賀	一軀	鎌倉時代 (十四世紀)	兵庫・善福寺
15	○	釈迦如来像	湛誉・湛真	一軀	鎌倉時代 正和三年 (1314)	福岡・善導寺
16		十一面観音像	湛誉・湛真	一軀	鎌倉時代 正和四年 (1315)	佐賀・東妙寺
17		多聞天像	—	一軀	鎌倉時代 (十四世紀)	佐賀・東妙寺
20	◇	十一面観音像	〈円慶〉	一軀	鎌倉時代 永仁六年 (1298)	佐賀・福泉寺

第三章 蒙古襲来から南北朝の内乱へ－康誉と康俊－

目録番号	指定	名称	作者	員数	時代	所蔵
21	◇	如意輪観音像	康誉	一軀	南北朝時代 暦応三年 (1340)	福岡・大興善寺
22	◇	金剛力士像	—	二軀	鎌倉時代 (十三世紀)	福岡・大興善寺
23	○	釈迦三尊像	康誉	一軀	南北朝時代 康永二年 (1343)	大分・岳林寺
24	◎	四天王像	康俊 (南都大仏師)	四軀	南北朝時代 元亨元～二年 (1321～22)	大分・永興寺
25	◎	普賢延命菩薩像	康俊 (南都大仏師)	一軀	南北朝時代 正中三年 (1326)	佐賀・龍田寺
26	◇	聖徳太子像 (南無仏太子)	康成	一軀	南北朝時代 貞和三年 (1347)	大分・法尊寺
27	◇	文殊・普賢菩薩像 (釈迦三尊脇侍)	〈康俊 (東寺大仏師)〉	二軀	南北朝時代 貞和三年 (1347) 頃	大分・実際寺
28	◎	文殊五尊像	康俊 (東寺大仏師)	五軀	南北朝時代 貞和四年 (1348)	宮崎・大光寺

29	◇	地藏菩薩像	〈康俊（東寺大仏師）	一躯	南北朝時代（十四世紀）	宮崎・大光寺
30	◇	金剛薩埵像	康俊（東寺大仏師）	一躯	南北朝時代 延文四年（1359）	兵庫・圓教寺
31		釈迦三尊像	〈康俊（東寺大仏師）	一躯	南北朝時代 貞治四年（1365）頃	兵庫・慧日寺
32		文殊菩薩像	〈康俊（東寺大仏師）	一躯	南北朝時代 貞治四年（1365）頃	兵庫・慧日寺
33	◇	覚安尼像	〈康俊（東寺大仏師）	一躯	南北朝時代（十四世紀）	兵庫・寶林寺

(◎=重要文化財、◇=県・府指定文化財、○=市指定文化財)

番号は展示キャプションに付された図録の作品番号で、展示順とは一致しない。

番号1,13,14,18,19の作品は所蔵者の都合により、佐賀県立美術館のみの展示となった。

番号3のみ、12/14までの展示。ほかは全会期展示。

作者名に〈〉を付けたものは、銘文等がなく、作風や史料等から比定した作者。

(5) 講演会等

■記念講演会

「鎌倉・南北朝時代の仏像」

講師：岩井共二（当館学芸員）

日時：11月15日（土） 14:00～15:30

会場：美術館講座室

定員：80人（※入場者 約80人）

料金：無料

「運慶にであう」

講師：山本勉（清泉女子大学教授）

日時：11月24日（月・祝） 14:00～15:30

会場：山口県立図書館 レクチャールーム

定員：200人（※入場者 約200人）

料金：無料

■ワークショップ

ワークショップ「ほとけさまのファッション」

講師：岩井共二（当館学芸員）、水谷由美子（山口県立大学教授）

日時：11月15日（土）、12月6日（土） 10:00～11:30

会場：美術館講座室

対象：小学生（4年生以上 親子での参加歓迎）

定員：各回とも10組（※参加者、11/5=10組、12/6=2組）

協力：山口県立大学国際文化学部文化創造学科、衣造形研究室

■学芸員によるギャラリートーク

11月22日（土）、29日（土）、12月13日（土）、20日（土） 10:00～11:00

参加者 約20～40人

◎夜間特別開館日 11月21日（金）、22日（土）、23日（日） 18:00～19:00

参加者 約40人

■美術館ボランティアによるこどものためのギャラリー・トーク

「みんなでみよう」

会期中毎週土曜日 11:00～

■託児サービス「ちびっこルーム」

日時：会期中毎週木曜日 10:00～13:00

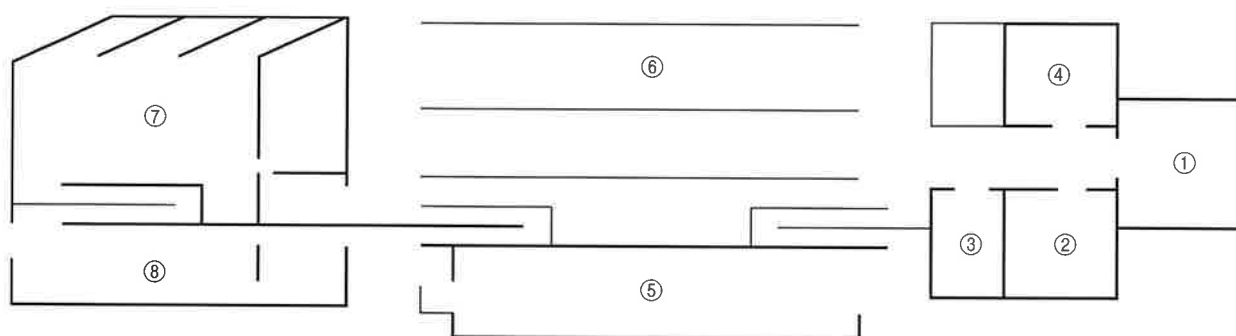
利用者：のべ7人

(2) 常設展

館蔵品（借用品を含む場合もある）の常時公開の場として常設展示室を設け、テーマを設定した館蔵品の紹介を行っている。平成20年度からはコレクション展と名称を変更した。常設展示エリアは5室からなっており、その4室（①～④）が1階フロアに、残る1室（⑤）が2階フロアに設置されている。このうち2室（②・③）は壁を取り払って1室としての使用が可能である。2006年の「雪舟への旅」展で設置した展示ケースを活かし、②、③を繋げた広い部屋として2007・2008年度は使用している。1階フロアの4室を常設展示室Ⅰ、2階フロアを常設展示室Ⅱと呼んでいる。

常設展示室Ⅰの4室は開館当初は展示内容を特定して使用していた。絵画展示室Ⅰ（①）に香月泰男の「シベリア・シリーズ」、絵画展示室Ⅱ（②）が小林和作の作品、資料展示室（③）に素描、画稿等の2次資料、郷土工芸室（④）には萩焼や赤間硯などの山口県の伝統工芸品をそれぞれ展示してきた。しかし、近年ではコレクションの充実と多様化にともない、この原則に必ずしもこだわらない展示が試みられている。常設展示室Ⅱ（⑤）は、館蔵品から選ばれた作品紹介の場として使用してきた。ほかに戸外に野外展示場（⑥）を設け、館内展示が不可能な立体造形の紹介、展観の場として現代彫刻等の作品数点を設置しているが、このスペースは鑑賞の合間の休憩の場としても利用されている。

なお、館内案内と美術館ニュース「天花」での展示室表記は、平成20年度より常設展示室Ⅰを展示室A、常設展示室Ⅱを展示室B、企画展示室Ⅱを展示室C、企画展示室Ⅰを展示室Dとしている。



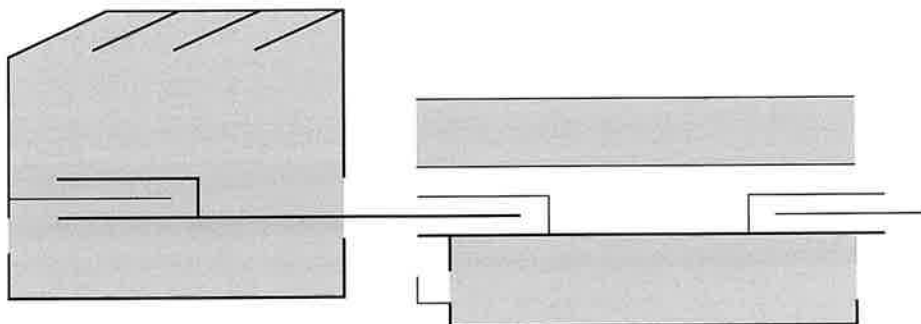
常設展示室Ⅰ	（①～④）	462.309㎡
常設展示室Ⅱ	（⑤）	471.825㎡
野外展示場	（⑥）	1370.000㎡
企画展示室Ⅰ	（⑦）	583.298㎡
企画展示室Ⅱ	（⑧）	304.695㎡

* 凡例

以下の常設展示記録は各展示室に即して整理し、名称・会期・出品作品リストの順で編集した。

平成20年度は企画展示室Ⅰ・Ⅱも使用した常設特別展示を行ったのでこれも本項に掲載した。

企画展示室 I・II



常設展特別企画 「殿敷侃～赤と黒の記憶」 2008(平成20)年6月21日(土)～7月13日(日) 月曜日休館

(1) 趣旨

広島県出身の殿敷侃(1942～1992)は、山口県長門市にアトリエを構え、当初は画家、ついで版画家、ドローイング作家、さらには環境芸術家として活躍した。しかし世界への進出を目前にした1992年、広島での原爆二次被爆に起因する肝臓ガンのため50歳という若さでこの世を去っている。

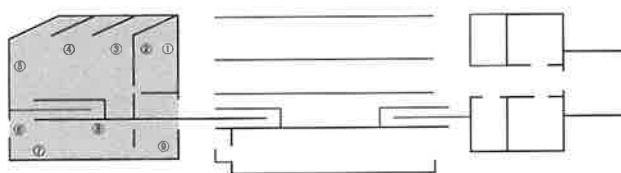
この展覧会は、彼が逝って17年忌にあたるのを機に、志なかばで早世を余儀なくされたこの作家の仕事を、以下のような章立てであらためて検証することによって、その芸術がもつ今日的意義をさぐることを意図して企画した。

- I 闘病生活で油絵を知る～表現者の誕生～
- II 自己沈潜～内省への指向～
- III 転回への兆し～社会意識の覚醒～その1
- IV 転回への兆し～社会意識の覚醒～その2
- V 平面作品の総括～ひたすら埋める、ドローイング～
- VI 転回～「ゴミ」をアートする環境芸術家の誕生～
- VII ボクは夜明けを信じた～生き急いだ晩年～

なお本展にあわせ、殿敷が制作の拠点とした山口県長門市では、ルネッサながとで「殿敷侃 長門市での20年～その足跡をたどる～」と題して、彼の芸術の発想にとって重要な原点ともなった長門市での20年間の彼の足跡をたどり、あわせて美術家としての殿敷が長門に何を遺(のこ)したのかを検証する展覧会を開催した。

(2) 会場構成

- ①第I章 闘病生活で油絵を知る～表現者の誕生～
- ②第II章 自己沈潜～内省への指向～
- ③第III章 転回への兆し～社会意識の覚醒～その1
- ④第IV章 転回への兆し～社会意識の覚醒～その2
- ⑤第V章 平面作品の総括～ひたすら埋める、ドローイング～
- ⑥第VI章 転回～「ゴミ」をアートする環境芸術家の誕生～
- ⑦第VII章 ボクは夜明けを信じた～生き急いだ晩年～
- ⑧映像コーナー1 ビデオブース
- ⑨映像コーナー2 スクリーン映写



(3) カタログ

作成せず

(4) 出品目録

番号	作品名	制作年	素材・技法	寸法 (cm)	所蔵
I 闘病生活で油絵を知る～表現者の誕生～					
01	川岸	1965 (昭和40)	油彩、合板	35.5×52.0	個人
02	叫び	1966 (昭和41)	油彩、合板	42.2×23.0	下関市立美術館
03	自画像のある風景	1969 (昭和44)	油彩、画布	53.0×41.0	個人
04	は1	1970 (昭和45)	油彩、画布	130.5×162.0	個人

05	タイトル不詳	1970 (昭和45) 頃	油彩、画布	114.0×53.0	個人
II 自己沈潜～内省への指向～					
06	釋寛量信士 (鉄かぶと)	1977	油彩、画布	53.0×41.0	個人
07	釋寛量信士 (父のつめ)	1978	油彩、画布	24.0×33.5	個人
08	釋寛量信士 (封筒)	1978	油彩、画布	7.7×22.0	個人
09	あの取っ手	1980	油彩、画布	16.0×23.0	個人
10	釋妙昭信女 (だておび)	1978	油彩、画布	33.2×45.5	長門市
11	釋妙昭信女 (母のたび)	1978	油彩、画布	31.8×41.0	長門市
12	釋妙昭信女 A (じゅばん)	1978	油彩、画布	80.0×117.0	個人
13	釋寛量信士 (シャツ)	1979	油彩、画布	91.0×116.8	個人
14	ゆび Finger	1972	ペン、紙		個人
15	きのご雲ほか	1972-76 頃か	ペン、紙	42.0×53.0 (額)	個人
16	鳥居ほか	1972-76 頃か	ペン、紙	9.0×14.5	個人
17	ドームのレンガ	1977	エッチング、紙	45.1×63.5	下関市立美術館
18	ドームのレンガ	1977	エッチング、紙	23.2×32.3	個人
19	トンボ	1977-78	エッチング、紙	14.5×19.3	個人
20	雪の下	1977-78	エッチング、紙	27.0×19.0	個人
21	カニ	1977-78	エッチング、紙	12.2×16.0	個人
22	ノコ	1977	エッチング、紙	32.9×43.0	個人
23	ノコ	不詳	エッチング、紙	12.7×20.7	下関市立美術館
24	彼岸花	不詳	エッチング、紙	15.0×9.0	個人
25	クギ	不詳	エッチング、紙	5.5×8.0	個人
26	米粒	不明	エッチング、紙	13.5×23.0	個人
27	クシ	不詳	エッチング、紙	16.2×19.8	下関市立美術館
28	取手	1980	エッチング、紙	14.5×19.5	下関市立美術館
29	数珠	不詳	エッチング、紙	37.5×45.0 (額)	個人
30	彼岸花	不詳	ミクストメディア、紙	19.0×13.7	個人
31	彼岸花	不詳	ミクストメディア、紙	8.5×16.0	個人
32	彼岸花	不詳	ミクストメディア、紙	8.5×16.0	個人
33	ドームのレンガ	不詳	水彩、紙	33.0×42.0	個人
III 転回への兆し～社会意識の覚醒～その1					
34	カブト	不詳	シルクスクリーン、紙	39.5×56.3	個人
35	クシ	1981 頃	シルクスクリーン、紙	40.0×57.0	下関市立美術館
36	ハクサイ	1981 頃	シルクスクリーン、紙	40.0×57.0	下関市立美術館
37	霊地	1980 頃	シルクスクリーン、紙	53.0×39.0	個人
38	霊地	1980 頃	シルクスクリーン、紙	45.0×36.0	個人
39	霊地	1980 頃	シルクスクリーン、紙	37.5×54.0	個人
40	霊地	1980 頃	シルクスクリーン、紙	56.5×74.5 (額)	個人
41	作品 (5)	1981	シルクスクリーン、ポスター	104.0×147.5	下関市立美術館
42	作品 (新聞)	1981	シルクスクリーン、新聞紙	182.0×81.0	下関市立美術館
43	作品 (新聞)	1981	シルクスクリーン、新聞紙	182.0×81.0	下関市立美術館
44	作品 (新聞)	1981	シルクスクリーン、新聞紙	182.0×81.0	下関市立美術館
45	作品1	1981	シルクスクリーン、新聞紙	163.0×81.0	山口県立美術館
46	作品2	1981	シルクスクリーン、新聞紙	163.0×81.0	山口県立美術館
47	作品3	1981	シルクスクリーン、新聞紙	163.0×81.0	山口県立美術館
48	作品4	1981	シルクスクリーン、新聞紙	163.0×81.0	山口県立美術館
49	作品5	1981	シルクスクリーン、紙	163.0×81.0	山口県立美術館
50	作品 (新聞)	1981	シルクスクリーン、新聞紙	182.0×81.0	下関市立美術館
IV 転回への兆し～社会意識の覚醒～その2					
51	ケロイド (背中)	1981	シルクスクリーン、紙	79.2×109.7	下関市立美術館
52	HYDROGEN BOMB	1981	シルクスクリーン、紙	79.0×109.7	下関市立美術館
53	ケロイド	1981	シルクスクリーン、キャンバス	185.0×215.0	個人
V 平面作品の総括～ひたすら埋める、ドローイング～					
54	線の集積 (黒)	1982	ボールペン、紙	136.0×100.0	下関市立美術館
55	線の集積 (赤)	1983	ボールペン、紙	136.0×100.0	下関市立美術館
56	線の集積	1982 頃	ボールペン、紙	200.0×112.4	下関市立美術館
57	線の集積	1984	鉛筆、紙	199.4×108.6	下関市立美術館
58	線の集積	1984	鉛筆、紙	102.8×72.5	山口県立美術館
VI 転回～「ゴミ」をアートする環境芸術家の誕生～					
※以下は写真パネル。すべて下関市立美術館から借用					
番号	作品名	発表年	素材	発表の場所	
01	黒の反逆集団	1983.09	古タイヤなど4トントラック3台分	第37回山口県美展 (優秀賞)	
02	山口ー日本海ー二位ノ浜、お好み焼	1987.03	焼き固めたプラスチック類	長門市二位ノ浜	

VII ボクは夜明けを信じた～生き急いだ晩年～

※以下は写真パネル。すべて下関市立美術館から借用

03	まっ赤にぬられてヒロシマが視えた	1987.07	ビニールシート・赤ペンキ	広島平和記念公園
04	椰子の実のためのバリケード	1987.09	日本海沿岸に漂着した生活廃棄物など	かねこあーとGI
05	流す	1988.07	水性塗料	MICHIKOFINEART (広島市)
06	DREAM FENCE PROJECT 学校の解体が「森」に生まれかわる時	1988.10	廃校になる小学校の木材など	草花舎 (益田市)
07	タイヤの生る木 [Plan.5]	1989.03	古タイヤ	長門市
08	漂流物の生る木	1989.04	漂流物	長門市
09	漂流物の生る木	1989.04	漂流物	長門市
10	検証の旅、バリケード	1989.07	ソウル市内で拾い集めた生活廃棄物	
11	オオトガケ	1989.11	竹250本	ア・カペラホール (山口市)
12	TVバリケード・山口 BARRICADE TELEVISION ←→YAMAGUCHI	1989.11	テレビ60台	ギャラリー・ナカノ (山口市)
13	SAGACHO—TV—BARRICADE サガチョウ・テレビジョン・バリケード	1990.03	廃棄されたテレビ110台、 松くい虫に侵された廃木など	佐賀町エキジビット・スペース (東京)
14	田園交響曲 (包囲された土)	1990.05	テレビ120台	長門市
15	タイヤに侵される木	1990.09	(106×137×107)	西瀬戸現代美術展 (愛媛県立美術館)
16	タイヤの生る木 [Plan6]	1990.11	古タイヤ	観念の刻印 (栃木県立美術館)
17	対峙する墓碑	1991.04	廃車20台、角材、電球	美術とメッセージ展 (水戸芸術館現代美術ギャラリー)
18	森と漂流物が愛し合った時	1991.04	海岸のゴミ約1トン	〈物体〉詩展 (板橋区立美術館)
19	夢装置	1991.05	廃船10隻廃車、流木ほか	夢岬プロジェクト (油谷町川尻岬)
20	タイヤの生る木 [Plan7]	1991.10	古タイヤ800本	第14回現代日本彫刻展 (宇部市)
21	蘇生する木	1991.10	Wave (長門市)	

※以上のほか、会場には以下のようなコーナーを設け、殿敷の人となりを紹介した。

■コーナー

殿敷の記憶に通底するイメージとして「肉体 (皮膚)」、「レンガ」、「彼岸花」のモチーフへのこだわりがある。その意味を考えるコーナーとして以下のコーナーを設けた。

- 01 ペン画のモチーフの意味
- 02 レンガのモチーフの意味
- 03 彼岸花のモチーフの意味

■資料展示

殿敷の制作初期に大きな影響をあたえた人物に画家の池田一憲と美術評論家の久保貞次郎がいる。彼はその交流のあとを記録する写真や書簡などをそれぞれスクラップ帖にまとめていた。そのスクラップ帖を展示紹介した。
また彼の活動を掲載した版画芸術、美術手帖などの雑誌等を紹介した。

■画像・映像コーナー

1980年代になると殿敷は、制作の方法を平面からインスタレーションへとシフトさせていった。したがって、これ以降の制作歴は具体的な作品が残っていない。そのため第VI・VII章は、写真パネルと記録映像の放映で立体的に氏の仕事を追体験できるように試みた。

放映したのは、2種類の記録で、1つは、TYSテレビ山口の協力を得て、「テレビタ刊」で報道された当時のいくつかのニュースを15分程度に再編集したものを、仮設した3個のビデオ・ブースで放映し、写真パネルと併せて鑑賞できるような会場設定を試みた。

2つめは、おなじく会場の最後の一角に仮設したコーナーでビデオプロジェクターを使用し、没後、殿敷の仕事をつりかえるべく編集された「逆流する現実 殿敷侃の仕事—1987～1991年 Reversing Reality～The Works of Tadashi Tonoshiki 1987-1991」を放映した。

両コーナーは映像と写真パネルが同時鑑賞できるように場所的に配慮して設定した。

以上、平面作品58点、インスタレーションの写真パネル21枚、インスタレーションの映像記録2本、その他、スケッチ、雑誌等の資料を展示。

動物いろいろ 2009(平成21)年1月6日—3月1日

番号	作品	作者	制作年	材質	備考
1	瑞鳥 I	三輪休雪 (12代)	1996年	陶	
2	龍呼	三輪休雪 (12代)		陶	
3	若鷹	福田翠光	1944年	絹本着色	
4	羽觸	福田翠光	1933年	絹本着色	
5	寂	福田翠光	1969年	紙本着色	
6	萌芽	福田翠光	1936年	絹本着色	
7	浄晟	福田翠光	1953年	紙本着色	
8	山葡萄	福田翠光	1955年	絹本着色	
9	梅にかささぎ	兼重暗香	1930年	絹本着色	
10	孔雀図	朝倉南陵	1828年	絹本着色	
11	紫陽花孔雀図	大庭学僊	1893年	紙本着色	
12	竹林雀図	雲谷等的	江戸時代	紙本墨画	
13	白鷹図	曾我直庵	桃山時代	紙本着色	
14	双鹿図	森寛斎	江戸～明治時代	紙本墨画淡彩	
15	秋水群雁図	松林桂月	1910年	絹本着色	
16	自適帖		1912年	紙本着色	
17	塞外射獵図	佐々木縮往	1729年	絹本着色	

18	写生図巻（一）	森寛斎	江戸～明治時代	紙本墨画淡彩	
19	舟耕	狩納三楽	1934年	紙本着色	
20	山水人物花鳥図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	一隻づつ展示
21	鯉図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	
22	猿猴図	森周峰	江戸時代後期	紙本着色	
23	初夏	藤田隆治	1925-30年	紙本着色	
24	軍鶏図屏風	藤田隆治	昭和時代	紙本着色	
25	鴨図	高橋由一	1877年	油彩、カンヴァス	
26	福田翠光資料（鴨）	福田翠光	昭和時代	紙本着色	
27	花鳥図	雲谷等哲	江戸時代前期	絹本着色	
28	幼鷺	香月泰男	1948年	油彩、カンヴァス	
29	鷺	松田正平	1978年	油彩、カンヴァス	寄託品
30	虎の威を借りる狐	桂ゆき	1955年	油彩、カンヴァス	
31	森の声	中本達也	1960年	油彩、カンヴァス	
32	懐壁	西野新川	1962年	紙本着色	
33	放鳥	山岡良文	1938年	紙本着色	寄託品
34	闘鶏	下村良之介	1965年	紙粘土・顔料・紙	寄託品
35	花鳥図	雲谷等鶴	江戸時代中期	紙本着色	
36	松鶴図	森寛斎	1873年	紙本着色	
37	四季花鳥図	狩野松栄	室町時代	紙本着色	
38	若隼	福田翠光	1937年	絹本着色	
39	秋塘真趣図	松林桂月	1907年	絹本着色	
40	水呑虎図	森徹山	江戸時代後期	紙本着色	
41	手長猿図	森狙仙	江戸時代後期	絹本着色	
42	熊図	森一鳳	江戸時代後期	絹本着色	
43	いか	藤田隆治		紙本着色	
44	象	香月泰男	1970年	石版、紙	
45	バツファロー	香月泰男	1970年	石版、紙	
46	虎	香月泰男	1970年	石版、紙	
47	針ねずみ	香月泰男	1970年	石版、紙	
48	えび	香月泰男		水彩、鉛筆、紙	
49	ハト	香月泰男	1966年	墨、クレヨン、紙	
50	猫と壺	朝倉撰		紙本着色	
51	野	中本達也	1962年	銅版、紙	
52	海鳥	中本達也	1960年	銅版、紙	
53	さかな	中本達也	1959年	銅版、紙	
54	ハゲコウ	松田正平		グワッシュ・水彩・色鉛筆・鉛筆・紙	
55	ヒラメ	松田正平		グワッシュ・紙	
56	オコゼ	松田正平	1987年	クレヨン・色鉛筆・鉛筆・紙	
57	海の扉	中本達也	1961年	油彩、カンヴァス	
58	湖底の村	西野新川	1974年	紙本着色	
59	月明を翔く（矛）	下村良之介	1988年	紙粘土・紙・顔料	

戦後日本写真入門 2009(平成21)年3月3日～4月5日

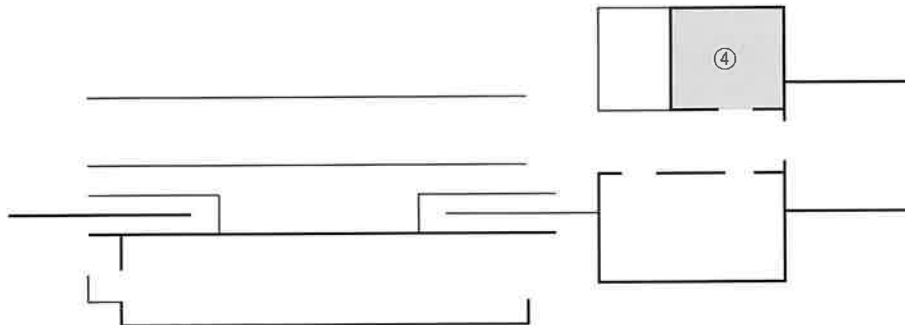
番号	作品	シリーズ名	作者	制作年	
1	引き揚げ 上野駅		林 忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
2	煙草をくゆらす浮浪児・東京		林 忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
3	犬を背負った少年 三宅坂参謀本部跡		林 忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
4	織田作之助		林 忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
5	太宰治		林 忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
6	坂口安吾		林 忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
7	銀座のサンドイッチマン		林 忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
8	倒壊したビルを家に・東京		林 忠彦	1947	ゼラチン・シルヴァープリント
9	ゴミ捨て場のバー・東京		林 忠彦	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
10	托鉢僧とストリップ		林 忠彦	1954	ゼラチン・シルヴァープリント
11	議事堂と傷痕軍人		林 忠彦	1956	ゼラチン・シルヴァープリント
12	占領下の皇居前広場		林 忠彦	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
13	広島カーブ私設応援団		林 忠彦	1957?	ゼラチン・シルヴァープリント
14	入江たか子		福田勝治	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
15	吾妻徳穂		福田勝治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
16	心の小窓（藤田泰子）		福田勝治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
17	佐藤美子		福田勝治	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
18	影		福田勝治	1954?	ゼラチン・シルヴァープリント

19	光りの貝殻		福田勝治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
20	白紙		福田勝治	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
21	太陽光		福田勝治	1952頃	ゼラチン・シルヴァープリント
22	静物		福田勝治	1954頃	ゼラチン・シルヴァープリント
23	犬と静物（影のエチュード）		福田勝治	1954	ゼラチン・シルヴァープリント
24	小狐登場		植田正治	1948	ゼラチン・シルヴァープリント
25	パパとママと子供たち		植田正治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
26	パパとママと子供たち		植田正治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
27	ボクとわたしのお母さん		植田正治	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
28	砂丘にて		植田正治		ゼラチン・シルヴァープリント
29	砂丘にて		植田正治		ゼラチン・シルヴァープリント
30	砂丘人物		植田正治		ゼラチン・シルヴァープリント
31	砂丘人物		植田正治		ゼラチン・シルヴァープリント
32	少女たち		植田正治	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
33	風船を持つ自像		植田正治		ゼラチン・シルヴァープリント
34	浅草にて ピヤホール		金井精一	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
35	浅草にて 青空楽団		金井精一	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
36	浅草にて サーカス		金井精一	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
37	浅草にて ロック座楽屋口		金井精一	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
38	浅草にて ロック座裏		金井精一	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
39	浅草にて 街角		金井精一	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
40	妻の死	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
41	ボラを突く	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
42	8年目の病床	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
43	1956年の春	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1956	ゼラチン・シルヴァープリント
44	働く蓉子	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1956	ゼラチン・シルヴァープリント
45	入学式の朝	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1957	ゼラチン・シルヴァープリント
46	お母さんの墓	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1957	ゼラチン・シルヴァープリント
47	蓉子の青春	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
48	7度目の入院	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
49	絶望の日々	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1960頃	ゼラチン・シルヴァープリント
50	癡作	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
51	狂気の傷跡	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1960頃	ゼラチン・シルヴァープリント
52	中村杉松の死	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1960頃	ゼラチン・シルヴァープリント
53	戦災に焼け残った蔵 東京・中野坂上		大辻清司	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
54	航空機 東京・羽田空港		大辻清司	1957	ゼラチン・シルヴァープリント
55	オブジェ I		大辻清司	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
56	金属のオブジェ		大辻清司	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
57	ショーウィンドウ I		大辻清司	1954	ゼラチン・シルヴァープリント
58	氷紋 II 栃木・赤城山・大沼		大辻清司	1956	ゼラチン・シルヴァープリント
59	新宿・夜 II 東京・新宿駅南口		大辻清司	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
60	新宿・夜 II 東京・新宿駅南口		大辻清司	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
61	無言歌 I 東京・谷原		大辻清司	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
62	無言歌 II 東京・豊洲		大辻清司	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
63	黒板塀 II 埼玉・秩父		大辻清司	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
64	板壁		金井精一	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
65	秋田おばこ 大曲市	「秋田」	木村伊兵衛	1953	ゼラチン・シルヴァープリント
66	秋田市泉	「秋田」	木村伊兵衛	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
67	大曲市内小友	「秋田」	木村伊兵衛	1954	ゼラチン・シルヴァープリント
68	青年 秋田市仁井田	「秋田」	木村伊兵衛	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
69	板塀 秋田市追分	「秋田」	木村伊兵衛	1953	ゼラチン・シルヴァープリント
70	汽車の人	「秋田」	木村伊兵衛	1953	ゼラチン・シルヴァープリント
71	大曲市小貫	「秋田」	木村伊兵衛	1954	ゼラチン・シルヴァープリント
72	休みのひととき	「秋田」	木村伊兵衛	1957	ゼラチン・シルヴァープリント
73	若い人 大曲市内小友	「秋田」	木村伊兵衛	1958	ゼラチン・シルヴァープリント
74	八郎湯 フラフープ	「秋田」	木村伊兵衛	1958	ゼラチン・シルヴァープリント
75	母と子 大曲市 内小友	「秋田」	木村伊兵衛	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
76	歌ってゆく鳥追い 新潟	「雪国」	濱谷 浩	1940	ゼラチン・シルヴァープリント
77	田植女 富山	「裏日本」	濱谷 浩	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
78	山の湯治場 青森	「裏日本」	濱谷 浩	1957	ゼラチン・シルヴァープリント
79	海の親子 山口・三島	「裏日本」	濱谷 浩		ゼラチン・シルヴァープリント
80	海から上がった海女 山口・萩・越ヶ浜	「裏日本」	濱谷 浩		ゼラチン・シルヴァープリント
81	島の墓場 山口・三島	「裏日本」	濱谷 浩		ゼラチン・シルヴァープリント

82	青年宿 山口・萩・玉江浦	「裏日本」	濱谷 浩		ゼラチン・シルヴァープリント
83	娘宿 山口・萩	「裏日本」	濱谷 浩	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
84	武家屋敷の跡 山口・萩	「裏日本」	濱谷 浩		ゼラチン・シルヴァープリント
85	赤子を背負った子 青森	「裏日本」	濱谷 浩	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
86	分教場にて・岩手県		林 忠彦	1957	ゼラチン・シルヴァープリント
87	横浜 若葉町付近	「巷の女」	常磐とよ子	1955頃	ゼラチン・シルヴァープリント
88	横浜 若葉町付近	「巷の女」	常磐とよ子	1955頃	ゼラチン・シルヴァープリント
89	横浜 若葉町付近	「巷の女」	常磐とよ子	1955頃	ゼラチン・シルヴァープリント
90	横浜 真金町遊郭	「赤線地帯」	常磐とよ子	1955頃	ゼラチン・シルヴァープリント
91	横浜 真金町遊郭	「赤線地帯」	常磐とよ子	1955頃	ゼラチン・シルヴァープリント
92	真金町診療所		常磐とよ子	1959-60	ゼラチン・シルヴァープリント
93	真金町診療所		常磐とよ子	1959-60	ゼラチン・シルヴァープリント
94	真金町診療所		常磐とよ子	1959-60	ゼラチン・シルヴァープリント
95	真金町診療所		常磐とよ子	1959-60	ゼラチン・シルヴァープリント
96	爆心地から0.7kmの上野町から掘り出された腕時計	「11:02<NAGASAKI>」	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
97	熱戦とその後の火災で溶解変形したビール瓶	「11:02<NAGASAKI>」	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
98	山口仙二さん	「11:02<NAGASAKI>」	東松照明	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
99	浦川静代さん	「11:02<NAGASAKI>」	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
100		「11:02<NAGASAKI>」	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
101	片岡律代さん	「11:02<NAGASAKI>」	東松照明	1961-63	ゼラチン・シルヴァープリント
102	原爆死 中学生上衣	「地図」	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
103	被爆者の腕	「地図」	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
104	ラッキーストライク	「地図」	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
105	コココーラ	「地図」	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
106	日の丸	「地図」	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
107	原爆ドーム 内部 しみ	「地図」	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
108	原爆ドーム 観光者 落書き	「地図」	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
109	原爆ドーム 天井 しみ	「地図」	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
110	原爆ドーム 内部	「地図」	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
111	原爆ドーム 太陽	「地図」	川田喜久治	1959-60	ゼラチン・シルヴァープリント
112	27歳になった蓉子	『ピカドン：ある被爆者の記録』より	福島菊次郎	1969	ゼラチン・シルヴァープリント
113	裸婦		福田勝治	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
114	裸婦		福田勝治	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
115	無題		福田勝治	1955頃	ゼラチン・シルヴァープリント
116	砂丘ヌード		植田正治	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
117	砂丘ヌード		植田正治	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
118	マルチストロボ・ヌード		本庄光郎	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
119	ヌード立像 B		本庄光郎	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
120	パターン ヒップ		本庄光郎	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
121	工場あとにて		本庄光郎	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
122	ヤング・ヌード		中村正也	1958	ゼラチン・シルヴァープリント
123	裸景		中村正也	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
124	裸貌		中村正也	1964	ゼラチン・シルヴァープリント
125	裸貌		中村正也	1964	ゼラチン・シルヴァープリント
126		「おとこと女」	細江英公	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
127		「おとこと女」	細江英公	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
128		「おとこと女」	細江英公	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
129		「おとこと女」	細江英公	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
130		「おとこと女」	細江英公	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
131		「おとこと女」	細江英公	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
132		「おとこと女」	細江英公	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
133		「女」	佐藤明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
134		「女」	佐藤明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
135		「女」	佐藤明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
136		「サイクロピアン」	佐藤明	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
137		「サイクロピアン」	佐藤明	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
138		「サイクロピアン」	佐藤明	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
139	船橋市 ヘルズセンター 7月17日	「東京人」	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
140	新宿区 新宿駅ビル 東京・ニューヨーク姉妹校絵画展 3月21日	「東京人」	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
141	千代田区 丸の内松竹 ビートルズ映画大会 4月4日	「東京人」	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
142	台東区 浅草寺 8月29日	「東京人」	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
143	新宿区 伊勢丹デパート 10月23日	「東京人」	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
144	杉並区 環状7号線	「東京人」	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント

145	新宿区角筈 ビュフェ・ととや	「東京人」	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
146		「都市の軌跡」	柳沢信	1965-70	ゼラチン・シルヴァープリント
147		「都市の軌跡」	柳沢信	1965-70	ゼラチン・シルヴァープリント
148		「都市の軌跡」	柳沢信	1965-70	ゼラチン・シルヴァープリント
149		「都市の軌跡」	柳沢信	1965-70	ゼラチン・シルヴァープリント
150		「都市の軌跡」	柳沢信	1965-70	ゼラチン・シルヴァープリント
151		「都市の軌跡」	柳沢信	1965-70	ゼラチン・シルヴァープリント
152		「都市の軌跡」	柳沢信	1965-70	ゼラチン・シルヴァープリント
153	暁の1号線 三重県桑名市朝日町		森山大道	1968	ゼラチン・シルヴァープリント
154	空と海の間で	「アクシデント」	森山大道	1969	ゼラチン・シルヴァープリント
155	背のびしてみる海峡を	「何かへの旅」	森山大道	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
156	犬の町 青森県・三沢市にて	「何かへの旅」	森山大道	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
157	犬の町 青森県・三沢市にて	「何かへの旅」	森山大道	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
158	地平線	「何かへの旅」	森山大道	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
159	地平線	「何かへの旅」	森山大道	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
160	五所川原		森山大道	1976	ゼラチン・シルヴァープリント
161	埼玉越生 梅祭 1976年3月14日	「風姿花伝」	須田一政	1976	ゼラチン・シルヴァープリント
162	群馬太田 1975年6月8日	「風姿花伝」	須田一政	1975	ゼラチン・シルヴァープリント
163	秋田西馬音内 盆踊り 1976年8月18日	「風姿花伝」	須田一政	1976	ゼラチン・シルヴァープリント
164	山形銀山温泉 1976年8月28日	「風姿花伝」	須田一政	1976	ゼラチン・シルヴァープリント
165	茨城阿字ヶ浦 1977年8月7日	「風姿花伝」	須田一政	1977	ゼラチン・シルヴァープリント
166	神奈川三浦川崎 1975年6月2日	「風姿花伝」	須田一政	1975	ゼラチン・シルヴァープリント
167	静岡天城湯ヶ野 1971年	「風姿花伝」	須田一政	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
168	富山砺波 1976年9月17日	「風姿花伝」	須田一政	1976	ゼラチン・シルヴァープリント
169	1976年12月16日	「道」	田村彰英	1976	ゼラチン・シルヴァープリント
170	1977年4月25日	「道」	田村彰英	1977	ゼラチン・シルヴァープリント
171	1978年1月3日	「道」	田村彰英	1978	ゼラチン・シルヴァープリント
172	1978年8月25日	「道」	田村彰英	1978	ゼラチン・シルヴァープリント
173	1979年2月13日	「道」	田村彰英	1979	ゼラチン・シルヴァープリント
174	1979年4月23日	「道」	田村彰英	1979	ゼラチン・シルヴァープリント
175	1979年6月10日	「道」	田村彰英	1979	ゼラチン・シルヴァープリント
176	1979年8月19日	「道」	田村彰英	1979	ゼラチン・シルヴァープリント
177	1979年12月23日	「道」	田村彰英	1979	ゼラチン・シルヴァープリント
178	1980年6月28日	「道」	田村彰英	1980	ゼラチン・シルヴァープリント
179	1980年12月31日	「道」	田村彰英	1980	ゼラチン・シルヴァープリント
180	1981年2月17日	「道」	田村彰英	1980	ゼラチン・シルヴァープリント

郷土工芸室



金工と赤間硯 2007(平成19)年4月10日—7月1日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	切嵌象嵌接合せ長皿「翔雅」	山本晃	1993	金、銀、銅及びその合金
2	接合二段箱「草叢」	山本晃	1997	金、銀、銅及びその合金
3	接合箱「紡」	山本晃	1997	金、銀、銅及びその合金
4	切嵌象嵌接合せ鉢「巖」	山本晃	1998	金、銀、銅及びその合金
5	接合せ短冊箱「紡」	山本晃	1999	金、銀、銅及びその合金
6	接合せ箱「麦秋」	山本晃	1999	金・銀・銅及びその合金
7	銀四分一赤銅接合せ箱「青響」	山本晃	2000	金・銀・銅及びその合金
8	赤間硯「蘭花研」	堀尾卓司	1956	石
9	赤間硯「すみすり」	堀尾卓司	1979	石

10	赤間硯「累柿研」	堀尾卓司	1950	石
11	赤間硯「雄蕊（おしべ）」	堀尾卓司	1957	石
12	赤間硯「豊麗」	堀尾卓司	1959	石
13	瓜硯	堀尾信夫	1985	石
14	長方研	堀尾信夫	1998	石

十二代三輪休雪 2007(平成19)年7月3日—10月1日

番号	作品	作者	制作年	材質	備考
1	LOVE (ハイヒール)	三輪休雪(十二代)	1980	陶	
2	オブジェ群	三輪休雪(十二代)	1966-1978	陶	
3	ラブ Love	三輪休雪(十二代)	1969	陶	
4	女	三輪休雪(十二代)	1976	陶	
5	予感	三輪休雪(十二代)	1977	陶	
6	夏子	三輪休雪(十二代)	1977	陶	寄託品
7	花I	三輪休雪(十二代)	1977	陶	
8	花II	三輪休雪(十二代)	1977	陶	

彫る・切る・削る 2007(平成19)年10月2日—12月24日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	マスク	澄川喜一	1977	木
2	おうぎ	澄川喜一	1981	木
3	トルソ	植木茂		木
4	トルソ	植木茂		木
5	仏頭	植木茂	1947	木
6	プレート	P・ヴォーコス	1982	陶
7	アイス・バケット	P・ヴォーコス	1982	陶
8	赤間硯「すみずり」	堀尾卓司	1979	石
9	赤間硯「双体」	堀尾卓司		石
10	赤間硯「ビルディング」	堀尾卓司	1970	石

絵付けされた陶器 2007(平成19)年12月26日—平成20年(2008)4月8日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	由布岳	小林和作		陶
2	富士山	小林和作		陶
3	富士山	小林和作		陶
4	波と燕	小林和作		陶
5	春の花	小林和作		陶
6	富士山	小林和作		陶
7	菖湯ざまし	高島北海		陶
8	薊図絵壺	香月泰男		陶
9	麦図絵皿	香月泰男		陶
10	小石原絵付皿	藤田隆治		陶
11	小石原絵付壺	藤田隆治		陶

植木茂 2008(平成20)年4月8日—6月29日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	トルソ	植木茂	1947	木
2	トルソ	植木茂	1947	木
3	仏頭	植木茂	1947	木
4	ポッカ	植木茂	1943	木
5	トルソ	植木茂		木
6	トルソ	植木茂		木
7	トルソ	植木茂		木
8	トルソ	植木茂	1947	木
9	トルソ	植木茂	1958	木
10	トルソ	植木茂	1963	木
11	体	植木茂	1978	木
12	トルソ	植木茂	1981	木

十二代三輪休雪 2008(平成20)年7月1日—9月21日

番号	作品	作者	制作年	材質	備考
1	愛の為に (ハイヒール)	三輪休雪 (十二代)	1967	陶	寄託品
2	LOVE (ハイヒール)	三輪休雪 (十二代)	1980	陶	
3	鉢「雷童」	三輪休雪 (十二代)	1981	陶	
4	鉢「早春」	三輪休雪 (十二代)	1981	陶	
5	菘水指「初咲」	三輪休雪 (十二代)	1981	陶	寄託品
6	天・地・人・明	三輪休雪 (十二代)	1986	陶	寄託品
7	雪中修	三輪休雪 (十二代)	1986	陶	寄託品
8	卑弥呼	三輪休雪 (十二代)	1988	陶	寄託品
9	卑弥呼の書	三輪休雪 (十二代)	1991	陶	寄託品
10	騎士の休息	三輪休雪 (十二代)	1995	陶	寄託品
11	柔らかい海	三輪休雪 (十二代)	1997	陶	
12	崖下手桶	三輪休雪 (十二代)	1993	陶	寄託品
13	崖下水指	三輪休雪 (十二代)	1993	陶	寄託品
14	菘紫雲龍氣碗	三輪休雪 (十二代)	2000	陶	寄託品
15	シルクロード碗	三輪休雪 (十二代)	2003	陶	寄託品

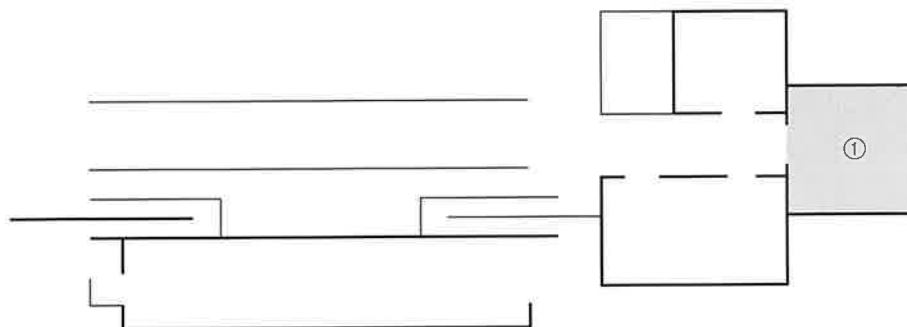
現代の陶芸 2008(平成20)年9月23日—12月21日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	コピー '82	三島喜美代	1982	陶
2	カップを破壊する石	西村陽平	1982	カップ、石
3	燃えない木	西村陽平	1984	木、土
4	KOK85E-2	井上雅之	1985	陶、磁
5	モナリザ	佐藤敏	1976	土
6	砂の聖書	荒木高子	1980	陶
7	スパーク・スパーク・アーム	鯉江良二	1982	陶
8	アイス・バケツ	P. ヴォーコス	1982	陶
9	プレート	P. ヴォーコス	1982	陶

金工と赤間硯 2009(平成21)年1月6日—4月5日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	接合せ二段箱「草叢」	山本晃	1997	石
2	銀四合一赤銅接合せ箱「青響」	山本晃	2000	石
3	切嵌象嵌接合せ鉢「蔽」	山本晃	1998	石
4	切嵌象嵌接合せ長皿「翔雅」	山本晃	1993	石
5	接合せ箱「紡」	山本晃	1997	石
6	接合せ短冊箱「紡」	山本晃		石
7	赤間硯「累柿研」	堀尾卓司	1950	石
8	赤間硯「蘭花研」	堀尾卓司	1956	石
9	赤間硯「雄蕊」	堀尾卓司	1957	石
10	赤間硯「ビルディング」	堀尾卓司	1970	石
11	長方研	堀尾信夫	1998	石
12	瓜硯	堀尾信夫	1995	石

香月泰男室



油彩画のはじまり 2007(平成19)年4月10日—7月1日

番号	作品	作者	制作年	材質	備考
1	鴨図	高橋由一	1877	油彩、カンヴァス	
2	風景(親子)	河北道介		油彩、カンヴァス	
3	絞り	永地秀太	1913	油彩、カンヴァス	
4	更紗の前	永地秀太	1924	油彩、カンヴァス	
5	壁に倚れる女	永地秀太	1925	油彩、カンヴァス	
6	ギリシアの浮彫	永地秀太	1937	油彩、カンヴァス	
7	ホノルル	桑重儀一	1915	油彩、カンヴァス	
8	おどけ役者	桑重儀一	1933	油彩、カンヴァス	
9	無題	桑重儀一		油絵、カンヴァス	寄託品
10	裸婦	桑重儀一		油彩、カンヴァス	寄託品

昭和の香り1 2007(平成19)年7月3日—9月30日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	廃船	小野具定	1961	紙本着色
2	北辺の船	小野具定	1964	紙本着色
3	淀の河州	澤野文臣	1956	紙本着色
4	月夜	松田正平	1956	油彩、カンヴァス
5	銭湯	松田正平	1955	油彩、カンヴァス
6	高萩風景	松田正平	1957	油彩、カンヴァス
7	砧風景	松田正平	1958	油彩、カンヴァス
8	動	田中稔之	1958	油彩、カンヴァス
9	野生	田中稔之	1960	油彩、カンヴァス

近現代の立体 2007(平成19)年10月2日—12月24日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	虚無	戸張孤雁	1950	ブロンズ
2	歩む	伊藤鈞	1962	F.R.P
3	カリアチュード	伊藤鈞	1963	ブロンズ
4	自転車で-A	伊藤鈞	1963	F.R.P
5	立像C	河内山賢祐	1952	ブロンズ
6	裸女立像	中野四郎	1932	木
7	トルソ	植木茂	1970頃	木
8	Body	植木茂	1976	木
9	連	植木茂	1971	木
10	トルソ	植木茂	1981	木
11	トルソ	植木茂	1981	木

山陽小野田市・岩崎寺の仏像 2007(平成19)年12月26日—平成20年2月17日

番号	作品	制作年	材質
1	千手観音菩薩立像	平安時代(9-10世紀)	木
2	釈迦如来座像	平安時代(12世紀)	木
3	阿弥陀如来座像	平安時代(12世紀)	木
4	阿弥陀如来座像	平安時代(12世紀)	木
5	大日如来座像	平安時代(12世紀)	木
6	聖観音菩薩立像	鎌倉時代(12-13世紀)	木

風景画の世界 2008(平成20)年2月19日—4月6日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	山嶺	岩崎鐸	1938	紙本着色
2	風景	錦義一郎		油彩、カンヴァス
3	風景	香月泰男	1936	油彩、カンヴァス
4	山湖	小林和作	1955	油彩、カンヴァス
5	海	小林和作	1964	油彩、カンヴァス
6	山湖の秋	小林和作		油彩、カンヴァス
7	春の海	小林和作	1974	油彩、カンヴァス
8	ランドスケープ	宮崎進	1976	油彩、カンヴァス

9	変貌する山	岩崎巴人	1966	紙本着色
10	荒れる海	岩崎巴人	1967	紙本着色
11	たそがれの畑	長崎莫人	1957	紙本着色

松田正平 2008(平成20)年4月8日—6月29日

番号	作品	作者	制作年	材質	備考
1	上白根風景	松田正平	1943	油彩、カンヴァス	
2	顔を覆う女	松田正平	1953	油彩、カンヴァス	
3	銭湯	松田正平	1955	油彩、カンヴァス	
4	月夜	松田正平	1956	油彩、カンヴァス	
5	高萩風景	松田正平	1957-59	油彩、カンヴァス	
6	四国犬	松田正平	1979	油彩、カンヴァス	寄託品
7	周防灘	松田正平	1980	油彩、カンヴァス	
8	大きな魚	松田正平	1984	油彩、カンヴァス	
9	大威徳明王	松田正平	1975	油彩、カンヴァス	
10	かみきり虫	松田正平	1959	油彩、カンヴァス	寄託品
11	燈台	松田正平	1959	油彩、カンヴァス	寄託品
12	燈台(宇部港湾)	松田正平	1960	油彩、カンヴァス	寄託品
13	立木	松田正平	1969	油彩、カンヴァス	寄託品
14	裸婦	松田正平	1977	油彩、カンヴァス	

香月泰男〈シベリア・シリーズ〉 2008(平成20)年7月1日—9月21日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	雨〈牛〉	香月泰男	1947	油彩、カンヴァス
2	業火	香月泰男	1970	油彩、カンヴァス
3	朕	香月泰男	1970	油彩、カンヴァス
4	奉天〈右〉	香月泰男	1970	油彩、カンヴァス
5	奉天〈左〉	香月泰男	1970	油彩、カンヴァス
6	アムール	香月泰男	1962	油彩、カンヴァス
7	運ぶ人	香月泰男	1960	油彩、カンヴァス
8	涅槃	香月泰男	1960	油彩、カンヴァス
9	列	香月泰男	1961	油彩、カンヴァス
10	デモ	香月泰男	1973	油彩、カンヴァス
11	日本海	香月泰男	1972	油彩、カンヴァス
12	〈私の〉地球	香月泰男	1968	油彩、カンヴァス

ヌード 2008(平成20)年9月23日—12月21日

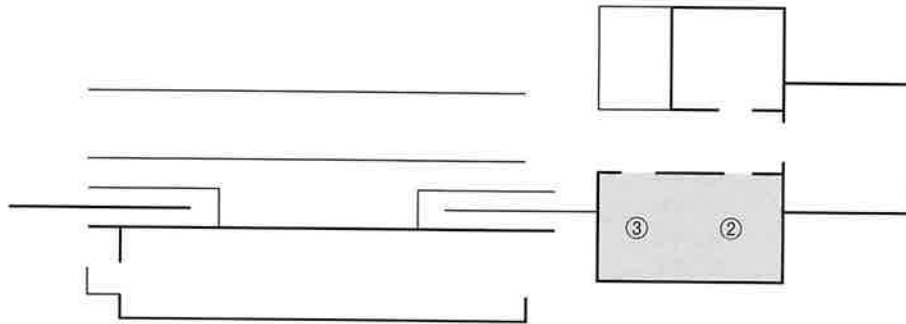
番号	作品	作者	制作年	材質
1	夏子	三輪休雪(十二代)	1977	陶
2	碧空	中村青田	1971	木
3	フルートを吹く少女	伊藤鈞	1970	ブロンズ
4	裸女立像	中野四郎	1932	木
5	ゆあみ	新海竹太郎	1907	ブロンズ
6	沐浴の前	アーサー・ヒル	1881	油彩、カンヴァス
7	裸婦	桑重儀一		油彩、カンヴァス
8	壁に倚れる女	永地秀太	1925	油彩、カンヴァス
9	裸婦	永地秀太	1904	木炭、紙
10	男子裸像	永地秀太	1905	木炭、紙
11	女	里見勝蔵	1931	油彩、カンヴァス
12	裸婦	松田正平	1980	油彩、カンヴァス
13	裸婦 6	香月泰男	1971	石版、紙
14	裸婦 7	香月泰男	1971	石版、紙
15	裸婦 8	香月泰男	1971	石版、紙
16	〈裸婦〉女神の誕生	福田勝治	1956	ゼラチン・シルヴァー・プリント
17	砂丘ヌード	植田正治	1950	ゼラチン・シルヴァー・プリント
18	おとこと女	細江英公	1960	ゼラチン・シルヴァー・プリント
19	センチメンタルな旅	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァー・プリント

宮崎進 2009(平成21)年1月6日—4月5日

番号	作品	作者	制作年	材質	備考
----	----	----	-----	----	----

1	旅芸人	宮崎進		油彩、カンヴァス	
2	小屋	宮崎進	1968	油彩、カンヴァス	
3	夜	宮崎進	1968	油彩、カンヴァス	
4	少年と瀨戸	宮崎進	1983	油彩、カンヴァス	寄託品
5	長門路の春	宮崎進	1983	油彩、カンヴァス	寄託品
6	凍る土	宮崎進	1985-86	油彩、板	
7	黄色い壁	宮崎進	1976	油彩、カンヴァス	
8	ランドスケープ	宮崎進	1976	油彩、カンヴァス	
9	昼	宮崎進	1976	油彩、カンヴァス	
10	ふたつの裸	宮崎進	c.1978	鉛筆・紙	
11	裸	宮崎進	c.1978	鉛筆・紙	
12	顔	宮崎進	c.1978	鉛筆・紙	
13	こしかける	宮崎進	c.1978	鉛筆・紙	
14	よりかかる女	宮崎進	c.1978	鉛筆・紙	
15	ひざまづく裸婦	宮崎進	c.1978	鉛筆・紙	
16	ふたつのコンポジション	宮崎進	c.1978	鉛筆・紙	
17	男と女のコンポジション	宮崎進	c.1978	鉛筆・紙	
18	立つ女	宮崎進	c.1978	鉛筆・紙	

小林和作室



雲谷派1 2007(平成19)年4月10日—5月6日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	樓閣山水図	雲谷等顔	桃山時代末	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	寄託品
2	群馬図	雲谷等顔	桃山時代	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	
3	懶瓊煨芋図	雲谷等顔	江戸時代初期	紙本墨画	掛幅装	一幅	
4	澆墨山水図	雲谷等顔	桃山時代末	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
5	山水図 沢庵宗彭賛	雲谷等顔	江戸時代初期	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
6	澆墨山水図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画	掛幅装	二福	寄託品

雲谷派2 2007(平成19)年5月8日—6月3日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	瀟湘八景図屏風	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	
2	山水図屏風	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	
3	樹下高士山水図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	掛幅装	三幅	
4	達磨図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画	掛幅装	一幅	
5	茄子図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	寄託品
6	梅雀図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	寄託品

雲谷派3 2007(平成19)年6月5日—7月1日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	芦鶴図屏風	雲谷等益	江戸時代初期	紙本着色	六曲屏風	一双	寄託品
2	群鶴図屏風	雲谷等與	江戸時代前期	紙本着色	六曲屏風	一双	
3	達磨図	雲谷等與	江戸時代前期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	
4	布袋図	雲谷等與	江戸時代前期	紙本墨画	掛幅装	一幅	
5	布袋図	雲谷等作	江戸時代前期	紙本墨画	掛幅装	一幅	
6	竹林雀図	雲谷等の	江戸時代前期	紙本墨画	掛幅装	一幅	
7	架鷹図	三谷等宿	江戸時代前期	紙本着色	掛幅装	一幅	
8	鶉図	雲谷等與	江戸時代前期	絹本着色	掛幅装	一幅	

昭和の香り1 2007(平成19)年7月3日—8月19日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数
1	萌芽	福田翠光	1936	絹本着色	額装	一枚
2	群鶴	福田翠光	1959	紙本着色	額装	一枚
3	寂	福田翠光	1969	絹本着色	額装	一枚
4	白雁	福田翠光	1943	絹本着色	掛幅装	一幅
5	鶴雛	福田翠光	1934	絹本着色	二曲屏風	一隻
6	日本1958-2	朝倉摂	1958	紙本着色	六曲屏風	一隻
7	水芭蕉曼荼羅・黄14	佐藤多持	1968	紙本着色	四曲屏風	一隻

昭和の香り2 2007(平成19)年8月21日—9月30日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数
1	凍れるシベリアにて	岩崎巴人	1964	紙本着色	額装	一枚
2	変貌する山	岩崎巴人	1964	紙本着色	額装	一枚
3	三人	長崎真人	1956	紙本着色	額装	一枚
4	山湖	小林和作	1955	油彩、カンヴァス	額装	一枚
5	英彦山中の秋	小林和作		油彩、カンヴァス	額装	一枚
6	海	小林和作	1964	油彩、カンヴァス	額装	一枚
7	秋山	小林和作		油彩、カンヴァス	額装	一枚
8	山湖の秋	小林和作		絹本着色	掛幅装	一幅
9	南画風山水	小林和作		紙本着色	掛幅装	一幅
10	果物	小林和作		紙本着色	掛幅装	一幅
11	白椿	小林和作		紙本着色	掛幅装	一幅
12	檜鳥	小林和作		紙本着色	掛幅装	一幅
13	山茶花と青鳩	小林和作		絹本着色	掛幅装	一幅

香月泰男の夏 2007(平成19)年7月3日—8月19日

番号	作品	作者	制作年	材質	備考
1	貝殻	香月泰男	1973	木版、紙	木版画集「タヒチ」
2	宿の窓から	香月泰男	1973	木版、紙	木版画集「タヒチ」
3	休むカヌー	香月泰男	1973	木版、紙	木版画集「タヒチ」
4	日中の道	香月泰男	1973	木版、紙	木版画集「タヒチ」
5	フラダンス	香月泰男	1973	木版、紙	木版画集「タヒチ」
6	教会	香月泰男	1973	木版、紙	木版画集「タヒチ」
7	広場にて	香月泰男	1973	木版、紙	木版画集「タヒチ」
8	クレタ村	香月泰男	1973	木版、紙	木版画集「タヒチ」
9	ロードス郊外	香月泰男	1972	石版、紙	石版画集「ギリシャ」
10	リンドス	香月泰男	1972	石版、紙	石版画集「ギリシャ」
11	連絡船	香月泰男	1972	石版、紙	石版画集「ギリシャ」
12	ひなげし	香月泰男	1972	石版、紙	石版画集「ギリシャ」
13	オリーブ畑	香月泰男	1972	石版、紙	石版画集「ギリシャ」

香月泰男の動物園 2007(平成19)年8月21日—9月30日

番号	作品	作者	制作年	材質	備考
1	針ねずみ	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 II
2	コンドル	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 II
3	バツファロー	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 II
4	みどりちうはし	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 II
5	ジャガー	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 II
6	虎	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 II
7	ライオン	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 I
8	象	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 I
9	真鶴	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 I
10	エミュ	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 I
11	ペンギン	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 I
12	らくだ	香月泰男	1970	石版、紙	動物シリーズ石版画集 I

雲谷派4 2007(平成19)年10月2日—12月24日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	山水図屏風	雲谷等瑠	江戸時代前期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	
2	西湖金山寺図屏風	雲谷等瑠	江戸時代前期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	
3	芙蓉図	雲谷等瑠	江戸時代前期	紙本着色	掛幅装	一幅	寄託品
4	寒山拾得図	雲谷等爾	江戸時代前期	紙本着色	掛幅装	二幅	
5	雪景山水図	雲谷等爾	江戸時代前期	紙本墨画	掛幅装	一幅	
6	叭々鳥図	雲谷等爾	江戸時代前期	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
7	布袋図	雲谷等作	江戸時代前期	紙本墨画	掛幅装	一幅	

雪舟 2007(平成19)年10月30日—11月25日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	仿高克恭山水図卷	雪舟等楊	1474年	紙本墨画	卷子装	一卷	
2	牧牛図(牧童)	雪舟等楊	室町時代	紙本着色	掛幅装	一幅	
3	牧牛図(渡河)	雪舟等楊	室町時代	紙本着色	掛幅装	一幅	
4	琴高仙人図	雪舟等楊	室町時代	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	寄託品
5	牧童図	雪舟等楊	室町時代	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	寄託品
6	高士觀梅図	雪舟等楊	室町時代	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	寄託品
7	束帯天神図	雪舟等楊	室町時代	紙本着色	掛幅装	一幅	
8	山水長巻模写	山岡山泉	1931年	紙本墨画淡彩	卷子装	一卷	

日本人が見たヨーロッパ 2007(平成19)年11月27日—2008(平成20)年1月14日

番号	作品	作者	制作年	材質	備考
1	雪景山水図	高島北海	1916	絹本着色	掛幅装一幅
2	日本垂伯山雪溪踏破図	高島北海	1916	絹本着色	掛幅装一幅
3	高嶺深谷図	高島北海	1916	絹本着色	掛幅装一幅
4	秋景山水図	高島北海	1917	絹本着色	掛幅装一幅
5	花卉図	高島北海	1926	絹本着色	掛幅装一幅
6	パリの屋根1	香月泰男	1971	石版、紙	石版画集『パリの屋根』
7	パリの屋根2	香月泰男	1971	石版、紙	石版画集『パリの屋根』
8	パリの屋根3	香月泰男	1971	石版、紙	石版画集『パリの屋根』
9	パリの屋根4	香月泰男	1971	石版、紙	石版画集『パリの屋根』
10	パリの屋根5	香月泰男	1971	石版、紙	石版画集『パリの屋根』
11	パリの屋根6	香月泰男	1971	石版、紙	石版画集『パリの屋根』
12	パリの屋根7	香月泰男	1971	石版、紙	石版画集『パリの屋根』
13	パリの屋根8	香月泰男	1971	石版、紙	石版画集『パリの屋根』
14	オレンジのある庭	香月泰男	1974	木版、紙	木版画集『ニース』
15	鳩のいる中庭	香月泰男	1974	木版、紙	木版画集『ニース』
16	海岸にて	香月泰男	1974	木版、紙	木版画集『ニース』
17	オーリーブ	香月泰男	1974	木版、紙	木版画集『ニース』
18	海辺にて	香月泰男	1974	木版、紙	木版画集『ニース』
19	ルノアールの庭	香月泰男	1974	木版、紙	木版画集『ニース』
20	ニース	香月泰男	1974	木版、紙	木版画集『ニース』
21	サンポーロ	香月泰男	1974	木版、紙	木版画集『ニース』
22	ジャン＝ルイ・パロー	川原舜	1954-55	ゼラチン・シルヴァープリント	
23	フランソワーズ・ロゼー	川原舜	1954-55	ゼラチン・シルヴァープリント	
24	ジャン・ルノワールとマリア・フェリックス	川原舜	1954-55	ゼラチン・シルヴァープリント	
25	アンリ・カルティエ＝ブレッソン	川原舜	1954-55	ゼラチン・シルヴァープリント	
26	真夜中の若者たち ノパリ	川原舜	1954-55	ゼラチン・シルヴァープリント	
27	モンマルトル ノパリ	川原舜	1954-55	ゼラチン・シルヴァープリント	
28	モンマルトル ノパリ	川原舜	1954-55	ゼラチン・シルヴァープリント	
29	モンマルトル ノパリ	川原舜	1954-55	ゼラチン・シルヴァープリント	
30	マリーナ・グランデの漁村〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント	
31	カプリ島の居酒屋〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント	
32	船も眠りに〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント	
33	サンタ・クローチェの鐘楼〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント	
34	ポポロ広場の噴水〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント	
35	夜のサン・マルコ聖堂〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955	ゼラチン・シルヴァープリント	

小林和作のコレクション 2008(平成20)年1月16日—2月17日

番号	作品	作者	材質	形状	員数
1	山水図	伝馬麟	絹本墨画	掛幅装	一幅
2	鷺図	伝相阿弥	絹本墨画	掛幅装	一幅
3	扇面山水	伝浦上玉堂	絹本墨画	額装	一枚
4	古希之図	小田海樞	絹本着色	掛幅装	一幅
5	紺糸を干す	小野竹喬	絹本着色	掛幅装	一幅
6	富士	竹内栖鳳	絹本着色	掛幅装	一幅
7	洛北春風	堂本印象	絹本着色	掛幅装	一幅
8	美人図	月岡雪鼎	絹本着色	掛幅装	二幅
9	慶長時代風俗画遊楽之図		紙本着色	掛幅装	一幅
10	寛永時代風俗人物画		紙本着色	掛幅装	一幅
11	立膝美人図	伝奥村政信	絹本着色	掛幅装	一幅
12	涼美人	歌川豊広	絹本着色	掛幅装	一幅
13	歌舞伎絵尽		紙本着色	卷子装	一卷
14	カブリ鳥風景	山脇信徳	油彩、カンヴァス	額装	一枚
15	婦人の顔	青山熊治	油彩、カンヴァス	額装	一枚
16	ノートルダム	林武	水彩紙	額装	一枚
17	女と龍	梅原龍三郎	水彩、紙	額装	一枚
18	椿	中川一政	紙本着色	額装	一枚

雲谷派5 2008(平成20)年2月19日—3月9日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	花鳥図屏風	雲谷等恕	江戸時代中期	紙本着色	六曲屏風	一双	寄託品
2	花鳥図屏風	雲谷等鶴	江戸時代中期	紙本着色	六曲屏風	一双	
3	花鳥図	雲谷等哲	江戸時代中期	絹本着色	掛幅装	二幅	
4	澆墨山水図	雲谷等哲	江戸時代中期	紙本墨画	掛幅装	二幅	
5	布袋図	雲谷等鶴	江戸時代中期	紙本墨画淡彩	額装	一枚	寄託品
6	山水図	雲谷等鶴	江戸時代中期	紙本墨画淡彩	掛幅装	二幅	寄託品

雲谷派6 2008(平成20)年3月11日—4月6日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	西湖図屏風	雲谷等竺	江戸時代後期	紙本墨画金砂子	六曲屏風	一隻	
2	西湖図屏風	永富等運	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一隻	
3	鯉図	雲谷等竺	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	二幅	
4	鶴図	雲谷等竺	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	二幅	寄託品
5	磯上釣魚・崖下双鷺図	雲谷等村	江戸時代後期	紙本墨画	掛幅装	二幅	寄託品
6	唐子遊園屏風	雲谷派	江戸時代前期	紙本金地着色	六曲屏風	一隻	
7	花鳥人物貼交屏風	雲谷派	江戸時代中期	絹本着色	二曲屏風	一隻	
8							

雲谷派1 2008(平成20)年4月8日—5月18日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	懶瓊煨芋図	雲谷等顔	17世紀初	紙本墨画	掛幅装	一幅	
2	臨濟裁松図	雲谷等顔	16世紀末-17世紀初	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
3	澆墨山水図	雲谷等顔	16世紀末-17世紀初	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
4	澆墨山水図	雲谷等顔	16世紀末-17世紀初	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
5	枯木にかわせみ図	雲谷等顔	16世紀末-17世紀初	紙本墨画	掛幅装	一幅	
6	蛭子和尚図	雲谷等顔	16世紀末-17世紀初	紙本墨画	掛幅装	一幅	
7	山水図屏風	雲谷等顔	16世紀末	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	寄託品
8	群馬図屏風	雲谷等顔	16世紀末-17世紀初	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	

森寛齋 2008(平成20)年5月20日—6月29日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数
1	龍虎図屏風	森寛齋	1848	紙本着色	八曲屏風	一双
2	山水図屏風	森寛齋	1868	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双
3	芥川図	森寛齋		絹本着色	掛幅装	一幅
4	京人形図	森寛齋	1885	絹本着色	掛幅装	一幅

5	源義家像	森寛斎	1885	紙本着色	掛幅装	一幅
6	萩羊の図	森寛斎		絹本着色	掛幅装	一幅
7	葡萄と栗鼠	森寛斎		紙本墨画	掛幅装	一幅
8	森寛斎像	鈴木松年		絹本着色	掛幅装	一幅

雪舟—大内氏が育てた画家— 2008(平成20)年7月1日—9月21日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考	展示期間
1	倣高克恭山水図巻	雪舟等楊	1474	紙本墨画	卷子装	一卷		7/29-9/21
2	山水人物図	伝雪舟等楊	室町時代	紙本着色	掛幅装	一幅		7/1-7/27
3	倣李唐牧牛図(牧童)	雪舟等楊	室町時代	紙本着色	掛幅装	一幅		7/1-7/27
4	倣李唐牧牛図(渡河)	雪舟等楊	室町時代	紙本着色	掛幅装	一幅		8/26-9/21
5	琴高仙人図	雪舟等楊	室町時代	紙本着色	掛幅装	一幅	寄託品	7/29-8/10
6	牧童図	雪舟等楊	室町時代	紙本着色	掛幅装	一幅	寄託品	8/12-8/24
7	高土観梅図	雪舟等楊	室町時代	紙本着色	掛幅装	一幅	寄託品	8/26-9/21
8	束帯天神図	雪舟等楊	1496	紙本着色	掛幅装	一幅		7/1-8/10
9	観音図	伝雪舟等楊		紙本着色	掛幅装	一幅	寄託品	7/29-8/24
10	春景山水図	伝雪舟等楊		紙本着色	掛幅装	一幅		8/26-9/21
11	雪舟像	雲谷等與	1639	絹本着色	掛幅装	一幅	寄託品	7/1-8/10
12	達磨図	周徳	室町時代	紙本墨画	掛幅装	一幅		8/12-9/21
13	山水図屏風	伝雪舟等楊		紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双		7/1-8/10
14	山水図屏風	雲谷派	江戸時代	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双		7/1-8/10
15	西湖金山寺図屏風	雲谷等璣	江戸時代	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双		8/12-9/21
16	西湖図屏風	雲谷等竺	江戸時代	紙本墨画金砂子	六曲屏風	一隻		8/12-9/21
17	西湖図屏風	永富等運	江戸時代	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一隻		8/12-9/21

松林桂月 2008(平成20)年9月23日—10月26日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	桃花双鶏図	松林桂月	1895	絹本着色	掛幅装	一幅	寄託品
2	夏景山水図	松林桂月		絹本着色	掛幅装	一幅	寄託品
3	雨後図	松林桂月	1955	絹本着色	掛幅装	一幅	寄託品
4	竹林夜雨図	松林桂月	1962	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
5	長門峡図	松林桂月	1915	絹本着色	額装	一枚	
6	魚類写生図巻	松林桂月		紙本墨画淡彩	卷子装	一卷	

雲谷派2 2008(平成20)年10月28日—11月24日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	瀟湘八景図屏風	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	
2	林和靖・雪景山水図屏風	雲谷等益	江戸時代初期	紙本着色	六曲屏風	一双	
3	梅雀図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
4	茄子図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
5	澆墨山水図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画	掛幅装	二幅	寄託品
6	達磨図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
7	神農図	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画	掛幅装	一幅	

雲谷派3 2008(平成20)年11月26日—12月21日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	群鶴図屏風	雲谷等與	江戸時代前期	紙本着色	六曲屏風	一双	
2	花鳥図屏風	斎藤等室	江戸時代前期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	
3	鶉図	雲谷等與	江戸時代前期	絹本着色	掛幅装	一幅	
4	布袋図	雲谷等與	江戸時代前期	紙本墨画	掛幅装	一幅	
5	雪景山水図	雲谷等爾	江戸時代前期	紙本墨画	掛幅装	一幅	
6	維摩・布袋・杜甫図	雲谷等爾	江戸時代前期	紙本着色	掛幅装	三幅	寄託品
7	山水図	雲谷等爾	江戸時代前期	絹本墨画淡彩	掛幅装	一幅	寄託品

小林和作のコレクション 2009(平成21)年1月6日—2月22日

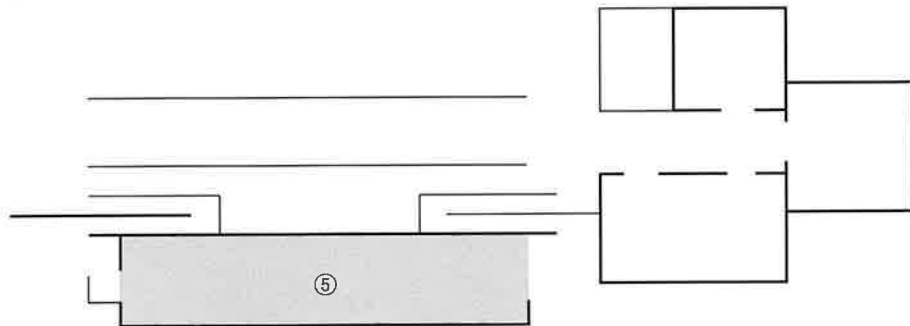
番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数
1	山水図	馬麟?	室町時代?	絹本墨画淡彩	掛幅装	一幅
2	鷺図	相阿弥?	室町時代?	紙本墨画	掛幅装	一幅
3	芥子図	尾形光琳?	江戸時代?	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅

4	扇面山水図	浦上玉堂?	江戸時代?	紙本墨画	掛幅装	一幅
5	蜀棧道図	岡田米山人?	江戸時代?	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅
6	古稀之図	小田海僊	江戸時代	絹本着色	掛幅装	一幅
7	陸羽煎茶図	田能村竹田?	江戸時代?	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅
8	避世漁樵図	富岡鐵斎?	明治年間?	紙本着色	掛幅装	一幅
9	富士図	竹内栖鳳	昭和年間	絹本着色	掛幅装	一幅
10	大和絵人物	松岡映丘?	昭和年間?	絹本着色	掛幅装	一幅
11	紺糸を干す	小野竹喬	明治時代	絹本着色	掛幅装	一幅
12	洛北春風	堂本印象	昭和年間	紙本着色	掛幅装	一幅
13	慶長時代遊楽之図		江戸時代?	紙本着色	掛幅装	一幅
14	寛永時代風俗人物画		江戸時代?	紙本着色	掛幅装	一幅
15	立膝人物図	奥村政信?	江戸時代?	絹本着色	掛幅装	一幅
16	涼美人	歌川豊広?	江戸時代?	絹本着色	掛幅装	一幅
17	美人図	月岡雪鼎	江戸時代	絹本着色	掛幅装	二幅
18	久米仙人図	左楽	江戸時代	絹本着色	掛幅装	一幅
19	カブリ島風景	山脇信徳	昭和年間	油彩、カンヴァス	額装	一枚
20	婦人の顔	青山熊治	大正時代	油彩、カンヴァス	額装	一枚
21	ノートルダム	林武	昭和時代	水彩、紙	額装	一枚
22	女と龍	梅原龍三郎	昭和時代	水彩、紙	額装	一枚
23	椿	中川一政	昭和時代	紙本着色	額装	一枚

雲谷派4 2009(平成21)年2月24日—4月5日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数 備考
1	山水図屏風	雲谷等璠	江戸時代中期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双
2	琴棋書画図屏風	雲谷等璠	江戸時代中期	紙本着色	六曲屏風	一双
3	芙蓉図	雲谷等璠	江戸時代中期	紙本着色	掛幅装	一幅 寄託品
4	山水図	雲谷等鶴	江戸時代中期	紙本墨画淡彩	掛幅装	二幅
5	鯉図	雲谷等竺	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	二幅
6	磯上釣魚・崖下双鷺図	雲谷等村	江戸時代後期	紙本墨画	掛幅装	二幅 寄託品

常設展示室Ⅱ



番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数
1	紅葉二小禽図	玉村方久斗	1928-29			
2	花水木二小禽図	玉村方久斗	1929			
3	黄菊白菊図	玉村方久斗	1929			
4	木瓜図	玉村方久斗	c.1926			
5	老松図	玉村方久斗	1928			
6	鶏翠枯水野図	玉村方久斗	1929			
7	養老図	玉村方久斗	1928			
8	層山曙色図	玉村方久斗	c.1926			
9	出山釈迦図	玉村方久斗	1928			
10	芥川之図	玉村方久斗	1925-27			
11	諸道聴耳世間猿絵巻	玉村方久斗	1928			

狩野芳崖 2007(平成19)年4月10日—5月20日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数 備考
1	八臂弁才天	狩野芳崖	安政4年(1857)頃	絹本着色	掛幅装	一幅
2	月夜山水図	狩野芳崖		紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅
3	公孫樹と啄木鳥	狩野芳崖		絹本墨画着色	掛幅装	一幅

4	牧馬図	狩野芳崖	明治16年(1883)頃	紙本墨画	掛幅装	一幅
5	青砥藤綱滑川拾銭図	狩野芳崖	1870年代前半	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅
6	土農工商図	狩野芳崖		紙本墨画淡彩	掛幅装	四幅
7	羅漢図(右幅)	狩野芳崖		紙本着色	掛幅装	一幅
8	羅漢図(左幅)	狩野芳崖		紙本着色	掛幅装	一幅
9	雪中山水図	狩野芳崖		紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅
10	呂洞賓鉄拐図	狩野芳崖		紙本墨画淡彩	掛幅装	二幅
11	湖畔漁舟図	狩野芳崖		紙本墨画	掛幅装	一幅 寄託品
12	梅月図	狩野芳崖		紙本墨画	掛幅装	一幅
13	五十鈴川神仙図巻	伝狩野芳崖		紙本墨画淡彩	卷子装	一卷
14	狩野芳崖資料 日本画顔料	狩野芳崖		顔料	試験管入り顔料	15本

森寛斎 2007(平成19)年5月22日—7月1日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	龍虎図屏風	森寛斎	明治年間	絹本着色	六曲屏風	一双	
2	牧童図屏風	森周峰	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	四曲屏風	一隻	寄託品
3	手長猿図	森狙仙	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	一幅	
4	月下狸図	森徹山	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	
5	水呑虎図	森徹山	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	
6	雪景山水図	森徹山	江戸時代後期	紙本着色	掛幅装	一幅	
7	紅葉に牧童図	森一鳳	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	
8	松林瀑布図	森寛斎	明治年間	絹本着色	掛幅装	一幅	
9	菽羊の図	森寛斎	明治年間	絹本着色	掛幅装	一幅	
10	葡萄と栗鼠図	森寛斎	明治年間	絹本着色	掛幅装	一幅	
11	芥川図	森寛斎	明治年間	絹本着色	掛幅装	一幅	
12	京人形図	森寛斎	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	一幅	
13	森寛斎像	鈴木松年	明治年間	絹本着色	掛幅装	一幅	
14	森寛斎像	森雄山	明治年間	絹本着色	掛幅装	一幅	
15	風景写生図巻	森寛斎	明治年間	絹本墨画淡彩	卷子装	一卷	

昭和の写真 2007(平成19)年7月3日—9月30日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	少女たち	植田正治	1945	ゼラチン・シルヴァープリント
2	犬を背負った少年 三宅坂参謀本部跡『カストリ時代』より	林忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
3	太宰治『カストリ時代』より	林忠彦	1946	ゼラチン・シルヴァープリント
4	倒壊したビルを家に 江戸川橋『カストリ時代』より	林忠彦	1947	ゼラチン・シルヴァープリント
5	小狐登場	植田正治	1948	ゼラチン・シルヴァープリント
6	心の小窓(藤田泰子)〈女〉	福田勝治	1949	ゼラチン・シルヴァープリント
7	デン助君	金井精一	1950	ゼラチン・シルヴァープリント
8	雪と車『ある日ある所』より	石元泰博	c.1950	ゼラチン・シルヴァープリント
9	ロック座裏『浅草にて』より	金井精一	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
10	妻の死『ピカドン』より	福島菊次郎	1951	ゼラチン・シルヴァープリント
11	静物〈静物〉	福田勝治	1952	ゼラチン・シルヴァープリント
12	大曲『秋田』より	木村伊兵衛	1953	ゼラチン・シルヴァープリント
13	ショーウィンドウI 東京・本郷	大辻清司	1954	ゼラチン・シルヴァープリント
14	フランソワーズ・サガン	川原舜	1954-55	ゼラチン・シルヴァープリント
15	マスカン	岩宮武二	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
16	田植女 富山『裏日本』より	濱谷浩	1955	ゼラチン・シルヴァープリント
17	赤線地帯 横浜 真金町遊廓	常盤とよ子	c.1955	ゼラチン・シルヴァープリント
18	餅つくり 新潟『裏日本』より	濱谷浩	1956	ゼラチン・シルヴァープリント
19	航空機 東京・羽田空港	大辻清司	1957	ゼラチン・シルヴァープリント
20	沈黙の園#3『王国』より	奈良原一高	1958	ゼラチン・シルヴァープリント
21	ロバと王様とわたし	今井寿恵	1958-59	カラープリント
22	家	東松照明	1959	ゼラチン・シルヴァープリント
23	津軽『津軽』	小島一郎	1958-60	ゼラチン・シルヴァープリント
24	冷たいサンセット	佐藤明	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
25	20『おとこと女』より	細江英公	1960	ゼラチン・シルヴァープリント
26	日の丸『地図』より	川田喜久治	1960-65	ゼラチン・シルヴァープリント
27	〈11時02分〉NAGASAKI	東松照明	1961	ゼラチン・シルヴァープリント
28	サイクロピアン	佐藤明	1962	ゼラチン・シルヴァープリント
29	横手『秋田』より	木村伊兵衛	1963	ゼラチン・シルヴァープリント
30	裸貌『若い裸』より	中村正也	1964	ゼラチン・シルヴァープリント

31	『洋子』	深瀬昌久	1964-76	ゼラチン・シルヴァープリント
32	豊島区 西武デパート 4月25日『東京人』より	高梨豊	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
33	『都市の軌跡』	柳沢信	1965	ゼラチン・シルヴァープリント
34	吾妻橋上から見た駒形橋（隅田川）	福田勝治	1966	ゼラチン・シルヴァープリント
35	につぼん劇場『につぼん劇場写真帖』（1968）より	森山大道	1967	ゼラチン・シルヴァープリント
36	家 1968年6月19日	田村彰英	1968	ゼラチン・シルヴァープリント
37	家 1968年6月22日	田村彰英	1968	ゼラチン・シルヴァープリント
38	家 1968年7月6日	田村彰英	1968	ゼラチン・シルヴァープリント
39	家 1968年7月27日	田村彰英	1968	ゼラチン・シルヴァープリント
40	無題	森山大道	1969	ゼラチン・シルヴァープリント
41	パターン ヒップ	本庄光郎	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
42	『婆バケハツ』	内藤正敏	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
43	『来るべき言葉のために』	中平卓馬	1970	ゼラチン・シルヴァープリント
44	『狩人』（1972）	森山大道	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
45	『センチメンタルな旅』	荒木経惟	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
46	宮古島『太陽の鉛筆』より	東松照明	1971	ゼラチン・シルヴァープリント
47	渡嘉敷島『太陽の鉛筆』より	東松照明	1972	ゼラチン・シルヴァープリント
48	伊良部島『太陽の鉛筆』より	東松照明	1973	ゼラチン・シルヴァープリント
49	日本三景その3むつ松島	森山大道	1974	ゼラチン・シルヴァープリント
50	鎌倉明月院 1975年6月21日『風姿花伝』より	須田一政	1975	ゼラチン・シルヴァープリント
51	『SELF AND OTHERS』	牛腸茂雄	-1977	ゼラチン・シルヴァープリント
52	『SELF AND OTHERS』 self-portrait	牛腸茂雄	-1977	ゼラチン・シルヴァープリント

松澤宥 2007(平成19)年12月26日—2008(平成20)年2月17日

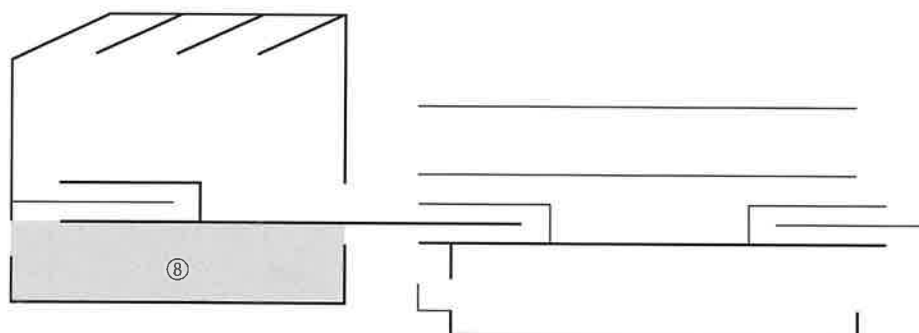
番号	作品	作者	制作年	材質
1	第一次ハガキ絵画発信	松澤宥	1967-68	印刷、紙（ハガキ）
2	量子芸術公案一	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
3	量子芸術公案三	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
4	量子芸術序	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
5	量子芸術破	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
6	量子芸術急	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
7	この色を見よ—無限の数と色	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
8	この不可視のマトリックスを見よ解けよ	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
9	一番乗りのための五つのダイアグラム	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
10	多重宇宙	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
11	浄土論	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
12	アートの果ての原幾何	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
13	量子芸術指示	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
14	再び“湖に見せる”量子芸術展	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
15	四所（スーパーストリングス理論によれば）	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
16	第八想（ツイスター理論によれば）	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
17	万物無化の方法（部分）	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
18	恍惚の雲より—数学の最前線の思考を引用して	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
19	〈宇宙はなぜ在るのか〉にことよせて	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
20	〈宇宙と創る四つの方〉にことよせて	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
21	松澤宥の予想	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
22	エニゲマ	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
23	仮無限—極薄的三幅1として	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙
24	霊域の瞬間—極薄的三幅2として	松澤宥	1994	シルクスクリーン、紙

現代美術入門 I 一色一 2008(平成20)年2月19日—4月6日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	ギリシアの浮彫	永地秀太	1937	油彩、カンヴァス
2	裸婦	永地秀太	大正期	油彩、カンヴァス
3	裸体習作	永地秀太	大正期	油彩、カンヴァス
4	壁に倚れる女	永地秀太	1925	油彩、カンヴァス
5	女	里見勝蔵	1931	油彩、カンヴァス
6	旅芸人	宮崎進		油彩、カンヴァス
7	夜	宮崎進	1968	油彩、カンヴァス
8	誕生	桂ゆき	1985	木、布、紙
9	凍る土	宮崎進	1985-86	油彩、板
10	平面上の形2	椿義則	1971	油彩、カンヴァス

11	黒と白A	椿義則	1983	油彩、カンヴァス
12	A STREET SCENE NO.8	吉村芳生	1978	コンテ、紙
13	コスモス	吉村芳生	2001	色鉛筆、紙
14	絵画：30cmの間隔で規則正しく繰り返される50番の絵筆の痕跡	ニエーレ・トロニー	1992	アクリル、カンヴァス
15	絵画：30cmの間隔で規則正しく繰り返される50番の絵筆の痕跡	ニエーレ・トロニー	1992	アクリル、カンヴァス
16	PEINTURE 絵画	井川惺亮	1978	アクリル、布
17	PEINTURE 絵画	井川惺亮	1981	アクリル、布
18	PEINTURE 絵画	井川惺亮	1981	アクリル、木枠、紐
19	主義と利益はしばしば衝突する	荒瀬景敏	1982	アクリル、カンヴァス
20	無題	長谷川繁	1995	油彩、麻布
21	無題	長谷川繁	1994	油彩、綿布
22	無題	長谷川繁	1995	油彩、綿布

企画展示室II



日本画の流れ1 2007(平成19)年4月10日—5月6日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	山水人物図	雪舟落款	室町時代16世紀	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	
2	江山秋色図	不詳	応永17年(1410)以前	紙本墨画	掛幅装	一幅	
3	山水図	不詳	室町時代15世紀	紙本墨画	掛幅装	一幅	
4	達磨図	周徳	室町時代16世紀	紙本墨画	掛幅装	一幅	
5	蝦蟇鉄拐図	不詳	室町時代15世紀	絹本墨画	掛幅装	二幅	
6	渡唐天神図	不詳	室町時代15世紀	紙本着色	掛幅装	一幅	
7	葡萄図	元賀	室町時代16世紀	紙本墨画	掛幅装	一幅	
8	蓬萊山図	照陽	室町時代16世紀	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	
9	竹林七賢図	狩野秀頼	室町時代16世紀	紙本墨画淡彩	掛幅装	二幅	
10	四季花鳥図	狩野松栄	桃山時代16世紀	紙本着色	六曲屏風	一双	

日本画の流れ2 2007(平成19)年5月8日—5月27日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	山水図屏風	雲谷等益	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	寄託品
2	花鳥図屏風	斎藤等室	江戸時代初期	紙本墨画淡彩	六曲屏風	一双	
3	白鷹図	曾我直庵	桃山時代	紙本着色	掛幅装	一幅	
4	芙蓉図	曾我二直庵	江戸時代初期	紙本着色	掛幅装	一幅	
5	白鷹図	雲谷等與	江戸時代前期	紙本着色	掛幅装	一幅	寄託品
6	瀑布図	狩野常信	江戸時代前期	紙本墨画	掛幅装	一幅	寄託品
7	叡子陵・鄭大尉図	逸然性融	江戸時代前期	紙本着色	掛幅装	二幅	寄託品
8	寒山拾得図	雲谷等爾	江戸時代前期	紙本着色	掛幅装	二幅	
9	塞外狩獵図	佐々木宿往	江戸時代前期	絹本着色	卷子装	一卷	

日本画の流れ3 2007(平成19)年6月26日—7月22日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数	備考
1	花鳥図	朝倉南陵	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	一幅	
2	雪中松鳩・寒中竹雀図	小田海僊	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	二幅	
3	飲中八仙図	小田海僊	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	
4	高士観蓮図	小田海僊	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	一幅	
5	夏山瀑布図	小田海僊	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅	

6	蚊遣火図	小田海僊	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅
7	紫陽花孔雀図	大庭学僊	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	一幅
8	曹操贈袍図	大庭学僊	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	一幅 寄託品
9	群仙図	金子鷗雨	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅
10	花鳥図	菅江嶺	江戸時代後期	絹本着色	掛幅装	一幅 寄託品
11	花鳥図	矢野括山	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅装	一幅
12	谿山結廬図	林百非	江戸時代後期	紙本墨画	掛幅装	一幅 寄託品
13	雪景山水図	狩野晴卓	江戸時代後期	紙本墨画	二曲屏風	一隻 寄託品

日本画の流れ4 2007(平成19)年12月26日—平成20年(2008)2月3日

番号	作品	作者	制作年	材質	形状	員数
1	腰掛ける婦人	森本武雄		絹本着色	額装	一枚
2	童女	森本武雄	1927	絹本着色	額装	一枚
3	麗人の像	森本武雄	1925	絹本着色	額装	一枚
4	愛吾廬	松林桂月	1936	絹本着色	掛幅装	一幅
5	長門峡図	松林桂月	1915	絹本着色	額装	一枚
6	雁来紅朝顔図	松林雪貞	1915	絹本着色	掛幅装	一幅
7	秋の暮れ	石井天風	1905	絹本着色	掛幅装	一幅
8	松林風景	平井樞仙	1911	絹本着色	掛幅装	一幅
9	晩渡	上原古年		絹本着色	掛幅装	一幅
10	人影	野長瀬晩花		絹本着色	掛幅装	一幅
11	盆踊り	北野恒富		絹本着色	掛幅装	一幅
12	山嶺	岩崎鐸	1938	絹本着色	額装	一枚
13	黄初平	樋口富麻呂	1924	絹本着色	額装	一枚
14	石屋	小林源太郎	1915	紙本着色	六曲屏風	一隻

日本画の流れ5 2008(平成20)年2月26日—4月6日

番号	作品	作者	制作年	材質
1	蚊帳	小野具定	1949	紙本着色
2	暮れて帰る家族	のむら清六	1954	紙、カンヴァス、着色
3	働く人	朝倉撰	1952	紙本着色
4	七つの軌跡	下村良之介	1965	ミクストメディア
5	澆澆	野村耕	1959	ミクストメディア
6	WORK	楠田信吾	1963	ミクストメディア
7	詩劇	不動茂弥	1966	ミクストメディア
8	芭蕉の雨	中野弘彦	1977	紙本着色

事業

II. 教育普及事業

(1) HEART

第1回山口総合芸術文化祭 ミュージアム・タウン・ヤマグチ2007 (通称: HERAT2007)

会 期: 2007(平成19)年8月18日(土)~9月9日(日)

会 場: 山口市中心市街地 (山口県立美術館~一の坂川沿い~山口市商店街)

主 催: ミュージアム・タウン・ヤマグチ2007実行委員会 (山口県立美術館、山口市商店街連合会、山口商工会議所、山口県立大学国際文化学部 [文化創造学科]、山口県、山口市)、山口県教育委員会、山口県文化連盟、NPO法人こどもステーション山口

特別協力: エフエム山口



ポスターA



ポスターB



チラシA表



チラシB表



チラシC表



チラシD表



チラシE表



チラシB表



チラシ裏

概要: 美術館や美術家が、街の歴史や、人々の日常の営みと関わって、街を作っていくこと。そのことを通じて、都市の核となる中心市街地の魅力あふれるイメージを形作っていくこと。以上が、本事業の第一の目的であった。また、それにとどまらず、魅力あふれる街作りを通して地域文化を担う人材(美術作家、観客、サポートスタッフ)を育成すること。これが、本事業の第二の目的であった。

事業全体は、創始以来61年の歴史を誇る山口県美術展覧会(県立美術館・県美展参加アーティスト)を核として、美術館、一の坂川、中心商店街へと会場を広げながら、美術館(美術)と街(日常生活)をつなぐために展開されるいくつかのアート・プロジェクトから構成された。(5部門、14プロジェクト)

広範なエリアで、また、さまざまな形で展開されるプロジェクトの基層を流れる基本精神は、「ものづくり」とそれを通じた「コミュニケーション」の楽しさ、大切さを伝えるという点にあった。これこそが、美術館本来の役割であり、街に貢献できる「美術館の思想」であるということが、再認識できる事業となった。

1：第61回山口県美術展覧会（詳細は、別項に記載）

- (1) 開催期間 8月23日(木)～9月9日(日) 18日間(実16日間)
- (2) 総入場者数 10,323人
- (3) ワークショップ
 - ア 自作を語る 入選、入賞者で延べ 11回実施
 - イ もじーる 9月1日(土) 11:00～15:00 参加人員12人
 - ウ あじのひらき 9月2日(日) 14:00～15:30 参加人員 9人

2：アート・マート

山口県美術展覧会出身作家のギャラリー、ミュージアム・グッズ、美術図書や絵本の店を開設し、美術館をアートづくしのマート(市場)に変身させる。また、山口市中心商店街にも、ギャラリーとショップを兼ねたアンテナショップを期間限定で開設する。

(1) アート・マート

[会場PART1] 県美展作家紹介ギャラリー、美術館セレクトショップ

【日 時】8月18日(土)～9月9日(日) 9:00～17:00(入館は16:30まで) 月曜休館

【場 所】山口県立美術館ロビー

【内 容】第50～60回山口県美術展覧会において優秀賞以上を受賞した作家のうち希望者の作品を紹介するほか、ミュージアム・グッズ、美術図書、絵本の販売

[会場PART2] HEART SPOT

【日 時】8月18日(土)～9月9日(日) 10:00～18:00月曜休

【場 所】山口市道場門前商店街(山口市道場門前2-4-5)

【内 容】山口市中心商店街の空き店舗を利用したギャラリー&ショップを期間中開店

【HEART SPOT 来店者数】4,293人(215人/日)

(2) アート・マート・スペシャル

【日 時】8月25日(土)、26日(日) 9:00～16:00

【場 所】山口県立美術館前庭

【出店数】17店舗

【内 容】「アート・マート」の特別企画として、ユニークな創作活動をする作家たちがオリジナルな作品を販売する2日間限定のアート・フリーマーケットを開設

(3) 特別企画 「県美展出身作家4人展」

【日時】8月18日(土)～9月9日(日) 10:00～18:00月曜休

【場所】HEART SPOT(道場門前商店街)

【内容】手嶋大輔、山根秀信、木原千春によるグループ展

【入場者数】4,293人(215人/日)

3：アート・ルートーの坂

山口県立美術館と山口市中心商店街を結ぶルート、一の坂エリアをアートな遊歩道にしようという企画

(1) ROUTE102—豆腐を食べて、小径をつくろう—

【日 時】8月4日(土)、11日(土)、18日(土)、9月1日(土)

9月2日(日) 完成式

【場 所】米屋町商店街/山口銀行とみずほ銀行の間の小径

【対 象】小学生とその保護者

【内 容】豆腐パック1万個を集め、それを使ってモルタルで豆腐ブロックを作り、長さ50m、幅1.2mの小径を豆腐ブロックで舗装

【講 師】山根秀信(美術家)

【制作協力】秋貞勇(美術家)

【参加人員】延べ41人

(2) <一の坂川景観プロジェクト>ブリッジング・ランドスケープ—景観に橋をかける—

【日 時】9月8日(土)、9日(日) 19:00～21:00

【場 所】一の坂川沿い千歳橋付近(無料)

【内 容】山口の文化・歴史をイメージさせる写真、ビデオ、CDを組み合わせた映像を一の坂川上で上演、さらに、街の中で録音した雑踏の音なども織り交ぜ、周辺の環境に溶け込むようなサウンドで環境音を演出

【制 作】向井知子(日本大学芸術学部講師)

【音 楽】ef end es (musician)

【鑑賞者数】約200人

(3) ひもで、せんを、結ぶ ー実物大・一の坂川名所絵図ー

【日 時】8月5日(日) 10:00～13:00 (できあがった作品は、県立美術館の中庭に9月9日まで展示)

【場 所】クリエイティブ・スペース赤れんが外庭～千歳橋

【対 象】小学生とその保護者

【内 容】クリエイティブ・スペース赤れんが前から千歳橋の間の一の坂川を舞台に紐を使ったワークショップ
や一の坂川の探検、宝探しを行い、「紐を結ぶ・つなぐ」という簡単な行為の中にも、意外な美しさや
おもしろさが潜んでいることを発見し、日常の中のアートを体験

【講 師】倉科勇三 (美術家、園田女子短期大学講師)

【参加人員】16人

(4) アグリ・アート・ツーリズム

【日 時】9月9日(日) 10:00～16:00 ※野菜の展示、販売は11:00から

【場 所】山口市米屋町商店街

【内 容】商店街にアートな野菜市場が出現。野菜のオブジェや、山口県立大学デザインによるニュータイプの
農作業着を展示するほか、「朝採れ野菜」も展示販売し、「農」を素材に中心商店街をデザインする (1.8
立方メートルのブースを40個設置)

【総合ディレクター】水谷由美子 (山口県立大学国際文化学部文化創造学科教授)

(5) ワークショップ 羊毛で野菜をつくろう

【日 時】8月11日(土)、8月18日(土) 10:00～12:00

【場 所】HEART SPOT (道場門前商店街の空店舗)

【対 象】各回とも小学4年生以上 (親子での参加歓迎)

【内 容】羊毛でカラフルな野菜のオブジェを作る

【講 師】濱野由美 (フェルト作家)

【参加人員】延べ28人

(6) ワークショップ 布で野菜をつくろう

【日 時】8月25日(土)、9月1日(土) 10:00～12:00

【場 所】HEART SPOT (道場門前商店街の空店舗)

【対 象】各回とも小学生以上 (親子での参加歓迎)

【内 容】布でカラフルな野菜のオブジェを作る

【講 師】片山涼子 (ファッション・デザイナー)

【参加人員】延べ29人

4: カタログ・コレクション

日本全国の美術館と山口市中心商店街の商店のカタログを展示 (商店のカタログ展示はHEART SPOTのみ)

(1) [会場PART1]

【日 時】8月18日(土)～9月9日(日) 9:00～17:00 (入館は16:30まで) 月曜休館

【場 所】山口県立美術館ロビー (入場無料)

【内 容】美術カタログを展示 (閲覧可)

(2) [会場PART2]

【日 時】8月18日(土)～9月9日(日) 10:00～18:00月曜定休

【場 所】HEART SPOT (道場門前商店街の空き店舗)

【内 容】美術カタログと地元商店のカタログを展示

【入店者数】HEARTSPOT同一場所

関連イベント

(1) 絵本の読み聞かせ おはなしテント

【日 時】8月21日(火)、28日(火) 14:30～15:00

【場 所】山口県立美術館ロビー

【内 容】テントの中で楽しい絵本の世界が広がる (絵本の読み聞かせ)

【参加人員】延べ24人

【協 力】こどもと本ジョイントネット21・山口

(2) ワークショップ もじが動物に大へんしん! アルファベット

【日 時】8月31日(金)、9月1日(土) 10:30～12:00

9月8日(金) 10:30～12:00 / 14:00～15:30

【場 所】 HEART SPOT（道場門前商店街の空店舗）
【対 象】 4才～10才のお子さんとその保護者
【内 容】 アルファベットの形をした紙と、はさみを使った造形遊び
【参加人員】 延べ48人

5：『こま撮りえいが こまねこ』上映 監督：合田経郎

【日 時】 8月18日(土)～9月9日(日) 月曜休館
①10:30～11:30 ②13:00～14:00 ③15:00～16:00 (土曜・日曜のみ)

【場 所】 山口県立美術館講座室
【観覧料】 一般 500円、学生 450円、小中高生 250円
【内 容】 「こま撮り」の手法で作られた映画を上映
【鑑賞者数】 1,374人 (69人/日)

関連イベント

(1) アニメーション・ワークショップ

【日 時】 8月31日(金)、9月1日(土) 13:00～16:00
【場 所】 クリエイティブ・スペース赤れんが
【内 容】 こまちゃんのぬいぐるみマスコットを作ってお気に入りの場所で撮影
【参加人員】 延べ62人

(2) こまねこトークイベント

【日 時】 9月2日(日) 10:00～12:00
【場 所】 クリエイティブ・スペース赤れんが
【内 容】 合田監督が『こま撮りえいが こまねこ』のメイキングと「ものづくり」への思いについて話す
【講 師】 合田経郎 (『こま撮りえいが こまねこ』原作・監督・キャラクターデザイン)
【参加人数】 95人

(3) アニメーション・ワークショップ

【日 時】 9月2日(日) 14:00～16:00
【場 所】 クリエイティブ・スペース赤れんが
【内 容】 『こま撮りえいがこまねこ』の制作者と一緒にアニメーションづくりを体験
【講 師】 峰岸裕和 (『こま撮りえいが こまねこ』アニメーター)、合田経郎 (『こま撮りえいが こまねこ』原作・監督・キャラクターデザイン)
【参加人員】 36人

(4) その他

実際に「こま撮りえいが こまねこ」の撮影で使われたセットを美術館ロビーに展示

第2回山口総合芸術文化祭 HEART2008

会期：2008(平成20)年10月9日(土)～10月26日(日)

会場：山口市中心市街地（山口県立美術館～一の坂川沿い～山口市商店街）

主催：HEART2008実行委員会（山口県立美術館、山口県立大学国際文化学部〔文化創造学科〕、山口市中心市街地街づくり推進協議会、山口市商店街連合会、山口商工会議所、山口県、山口市）、山口県教育委員会

特別協力：エフエム山口



ポスター



チラシ表

チラシ裏

1：第62回山口県美術展覧会（詳細は、別項に記載）

(1) 開催期間 10月9日(木)～10月26日(日) 18日間（実16日間）

(2) 総入場者数 6,117人

(3) ワークショップ

ア 自作を語る 入選・入賞者によって 16回実施

イ 隣のアーティスト

ウ 人間たてばんこ 参加者16人

エ むぎゅっと、はぎれ 参加者約20人

(4) 関連企画 「県美展出身作家4人展」

【日時】10月18日(土)～11月3日(月) 10:00～18:00月曜休

【場所】ルネッサながと

【内容】吉村芳生、山根秀信、山科君代、木原千春によるグループ展

2：アート・マート

山口県美術展覧会出身作家のギャラリー、ミュージアム・グッズ、美術図書や絵本の店を開設し、美術館をアートづくしのマート（市場）に変身させる。

(1) 県美展作家紹介ギャラリー、美術館セレクトショップ

【日時】10月9日(木)～10月26日(日) 9:00～17:00（入館は16:30まで）月曜休館

【場所】山口県立美術館ロビー

【内容】第50～61回山口県美術展覧会において優秀賞以上を受賞した作家のうち希望者の作品を紹介するほか、ミュージアム・グッズ、美術図書、絵本の販売

(2) HEART特別企画 吉村芳生版画展

ア：会場PART1

【日時】10月9日(木)～26日(日) 12:00～19:00 水曜日定休

【場所】KO Silver（山口市県道204号沿い 西京橋そば）

【内容】吉村芳生の1970、80年代の版画を展示、販売

イ：会場PART2

【日時】10月9日(木)～26日(日) 9:00～18:00 木曜日定休

【場所】純喫茶コティ（山口市米屋町商店街）

【内容】吉村芳生の1970、80年代の版画を展示、販売

(3) HEART2008・山口井筒屋共同企画 「色鉛筆で描く花の世界 吉村芳生展」

【日 時】 10月8日(水)～21日(火) 10:00～19:00

【場 所】 山口井筒屋5階美術ギャラリー

【内 容】 昨年度大賞作品をはじめ、作家の自宅周辺に咲く花々を色鉛筆で克明に描いた作品を展示・販売

(4) HEART関連企画 「G7ギャラリーナカノ7人展」

【日 時】 10月9日(木)～26日(日) 11:00～18:00 月曜日定休

【場 所】 ギャラリーナカノ (山口市一の坂川沿い千歳橋そば)

【内 容】 県出身アーティストのグループ展

(5) アート・フリーマーケット

【日 時】 10月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日) 9:00～17:00

【場 所】 山口県立美術館前庭

【出店数】 16店舗

【内 容】 「アート・マート」の特別企画として、ユニークな創作活動をする作家たちがオリジナルな作品を販売する4日間限定のアート・フリーマーケットを開設

3:アート・ルートの坂

山口県立美術館と山口市中心商店街を結ぶルート、一の坂エリアをアートな遊歩道にしようという企画

(1) 続・ROUTE102—豆腐道延長計画—

【日 時】 8月4日(土)、11日(土)、18日(土)、9月1日(土)
9月2日(日) 完成式

【場 所】 米屋町商店街／山口銀行とみずほ銀行の間の小径

【対 象】 小学生とその保護者

【内 容】 2007年度にひきつづいて、豆腐パック6000個を集め、それを使ってモルタルで豆腐ブロックを作り、長さ28m、幅1.2mの小径を豆腐ブロックで舗装。一の坂川から商店街まで、全長78mの舗装(豆腐)道路が完成。

【講 師】 山根秀信(美術家)

【参加人員】 延べ20人 完成式30人

(2) ワークショップ じめんのもよう

【日 時】 10月11日(土) 13:30～15:00

【場 所】 美術館前庭～みずほ銀行山口支店前広場

【内 容】 「豆腐道」を軸に、まちの地面に広がっている様々な模様を、木炭と紙を使って採集

【制 作】 山根秀信(美術家)

【参加人数】 9人

(2) 山口県美術展覧会

第1回山口県総合芸術文化祭 第61回山口県美術展覧会

会期 2007年(平成19年)8月23日(木)～9月9日(日)

会場 山口県立美術館

運営委員 (50音順)

石崎泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館 学芸課長)
 臼井裕貴子 (NPO法人こどもステーション山口 事務局長)
 中野良寿 (山口大学教育学部 准教授)
 濱本 聡 (下関市立美術館 館長補佐)
 堀家敬嗣 (山口大学教育学部 准教授)
 松本 弘 (山口県教育委員会 社会教育・文化財課長)
 水谷由美子 (山口県立大学国際文化学部 教授)
 吉野道久 (山口県環境生活部 文化振興課長)
 若林英樹 (シンフォニア岩国 企画事業マネージャー)



パンフレット

(I) 公募部門

1) 審査員 (50音順)

福永 治 (審査委員長) 国立新美術館学芸課長
 中村政人 東京藝術大学絵画科准教授
 南 薫 宏 女子美術大学教授、熊本市現代美術館長

2) 実績

応募総点数 382点
 展示点数 125点

3) 審査結果

出品点数	入選点数	入賞点数	入選・入賞合計点数	展示率 (%)
382	95	30	125	32.7

4) 受賞者

〈大賞〉

徳地に住んで見えてくるもの (色鉛筆で描く…) 吉村芳生 山口市

〈優秀賞〉

After SESSHU 岩崎貴宏 広島県
 個人情報保護法 上野ユリオ 山口市
 杉時雨 大瀬戸照夫 光市
 みのり 2 山科君代 山口市
 静物 (レジ袋) 山根秀信 山口市

〈佳作〉

essentia 浅上香織 宇部市
 丹の森 井岡義朋 山口市
 e.d.c.r 池内麻依子 山口市
 ヒト 石田直子 楊淳婷 福岡県
 無題 うえのけいこ 山口市
 notebook 2 鷗木政幸 下関市
 LOVE RISK - 人類の代償 - 河野文彦・光高校定時制グループ 光市
 花シテマス 河村ゆみ子 萩市
 炭化窯変壺 嶋本葉介 宇部市

faintness con-tact
「※米□・・・」悲鳴から「☆◎≡！」歓声へ
虹のフレーム
AUN (阿吽)
work 2007
「狂詩画」シリーズ (a)
S-1766
ざわめき
刻のかたち (街角の精錬塔)
刻のかたち (住処)
『幸せ人生計画』Part III
誇り
会場 07-1
The Voice
追憶

白木靖子
白木靖子 大晴 杏実
末田浩一
杉尾玄昭
炭村昭美
寺本美昭
中崎博之
中次麻子
西岡康雄
西岡康雄
ミヨシイチロウ
守山幸伸
山下哲郎
山根麻文美
吉谷正行

下松市
下松市
光市
光市
岩国市
宇部市
福岡県
広島県
光市
光市
岩国市
宇部市
周防大島町
田布施町
美祢市

〈特別展示〉

風ニノッテ

手嶋大輔

福岡県

(Ⅱ) ワークショップ部門

「自作を語る」

会期中11回実施

「もじーる。」

日時 9月1日(土)11:00～15:00

会場 山口県立美術館ロビー

講師 倉科勇三 (美術家)

対象 小学生～一般

参加人数 12人

「あじのひらき」

日時 9月2日(日)14:00～15:30

会場 山口県立美術館ロビー

講師 倉科勇三 (美術家)

対象 高校生～一般

参加人数 9人

(Ⅲ) ボランティア部門

「カタチになるまで Part2」

ボランティアスタッフが搬入から展示までの経過を入选作品数点について追跡し、写真でレポートした。

第2回山口県総合芸術文化祭 第62回山口県美術展覧会

会期 2008年(平成20年)10月9日(木)～26日(日)

会場 山口県立美術館

運営委員 (50音順)

浅野晃臣 (山口県環境生活部 文化振興課長)
 石崎泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館 学芸課長)
 白井裕貴子 (NPO法人こどもステーション山口 事務局長)
 中野良寿 (山口大学教育学部 准教授)
 濱本 聡 (下関市立美術館 館長補佐)
 堀家敬嗣 (山口大学教育学部 准教授)
 水谷由美子 (山口県立大学国際文化学部 教授)
 守田正史 (山口県教育委員会 社会教育・文化財課長)
 若林英樹 (シンフォニア岩国 企画事業マネージャー)



パンフレット

(I) 公募部門

1) 審査員 (50音順)

岡部あおみ (審査委員長) 武蔵野美術大学教授
 高嶺格 美術作家
 南 薫 宏 女子美術大学教授

2) 実績

応募総点数 479点
 展示点数 168件 (176点)

3) 審査結果

出品点数	入選点数	入賞点数	入選・入賞合計点数	展示率 (%)
479	148	28	176	36.7

4) 受賞者

<大賞>

Landscape 1～6 范叔如 広島県

<優秀賞>

イノチミジカシコイセヨオトメ 石井みつこ 岡山県
 そのゆくさきは 2 石井みつこ 岡山県
 Part of Mine 岡田隆志 山口市
 ビーム 岡本よしろう 山口市
 ぺっこん ぼっこん 実川久美子 山口市
 腐った心の棘 永田恭章 長門市

<佳作>

メダカに忍びよる猫の手 有福照美 山口市
 古備前桃山 井上雪人 岩国市
 「覆悲」 大田忠興 光市
 祝島 岡キクエ 光市
 レスキュー 岡本よしろう 山口市
 刺しゅう ペンジュラム 小川基博 防府市
 おまちあそばせ♡ ミスターグッドバイ 國本ゆうじ 萩市
 静寂 佐々木啓子 山陽小野田市

詩の生まれる庭	末田浩一	光市
unknown	竹内直子	山口市
高く叫ぶ	手嶋大輔	福岡県
六月の秘め事	中島しま子	萩市
潮騒	中西正	周南市
In my room	難波瑞穂	福岡県
夢の中の物語	早川基寛	防府市
カストルとポルックス	林康雄	山口市
いきぐるしい	原田晋佑	山陽小野田市
霧の中	福田武	宇部市
葉っぱズル	保手濱拓	山口市
顔に当たったものを記録する	三宅航太郎	岡山県
HOURUMON 2008	ミヨシイチロウ	岩国市
バラ色の人生	山根秀信	山口市
〈特別展示〉		
2008年ケシと自画像を描き続けた日々	吉村芳生	山口市

(Ⅱ) ワークショップ部門

「自作を語る」

会期中17回実施

「人間たてばんこ」

日時 平成20年10月12日(日)13:30～15:30

講師 倉科勇三(美術作家)

参加者 16人

会場 山口県立美術館玄関前広場

「むぎゅっと、はぎれ。」

日時 平成20年10月13日(月・祝)13:30～15:30

講師 倉科勇三(美術作家)

参加者 約20人

会場 山口県立美術館玄関前広場

(Ⅲ) ボランティア部門

「隣のアーティスト」(写真+アンケートの展示)

展示作品の作家へのインタビューと作家と作品の写真を掲示。

(3) 美術館ニュース「天花」

「天花」のタイトルは、大内時代、雪舟が山口市天花（てんげ）に雲谷庵をいとなんだという故事にちなんで命名されたもの。第1～60号まではB5判、第61～79号まではA4判であったが、80号から現行のA5判となっており、年間スケジュール、展覧会や各種活動の紹介、所蔵品紹介を行っている。

第105号（平成19年7月10日）

- 常設展
- 第61回山口県美術展覧会
- 年間スケジュール



第106号（平成19年9月1日）

- 田中米吉—“ドッキング”からの視線
- 常設展
- 第61回山口県美術展覧会
- HEART2007
- 年間スケジュール



第107号（平成19年11月1日）

- モデイリアーニと妻ジャンヌの物語展
- 常設展
- 年間スケジュール



第108号（平成20年3月31日）

- コレクション展
- 平成20年度特別展・コレクション展予告
- 年間スケジュール



第109号（平成20年6月30日）

- コレクション展
- 美がむすぶ絆 ベルリン国立アジア美術館所蔵日本美術名品展
- Collection Talk
- 年間スケジュール



第110号（平成20年10月8日）

- コレクション展
- 第62回山口県美術展覧会
- HEART2008
- 年間スケジュール



第111号（平成20年11月11日）

- コレクション展
- 運慶流
- 年間スケジュール



第112号（平成21年3月31日）

- コレクション展
- 特別展予告
- コレクション展年間シリーズ企画 雪舟と雲谷派
- 美術館からのお知らせ
- 年間スケジュール



(4) 博物館実習

(1) 平成19年度

■実習生学校別内訳

1	成安造形大学（造形学部）	1名
2	山口県立大学（国際文化学部、生活科学部）	8名
3	都留文科大学（文学部）	1名
4	東京学芸大学（芸術文化課程美術専攻）	1名
5	女子美術大学（芸術学部）	1名
6	八洲学園大学（生涯学習部）	1名
7	山口大学（人文学部）	16名
		7大学、29名

■実習内容

8月2日（木）	9:00～12:10	オリエンテーション
	13:00～16:10	美術館と作家顕彰
8月3日（金）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
8月4日（土）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
8月5日（日）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
8月6日（月）	9:00～12:10	古美術品の取り扱い
	13:00～16:10	写真の撮影/美術品の梱包
8月7日（火）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
8月8日（水）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	展覧会企画について

(2) 平成20年度

■実習生学校別内訳

1	立命館大学（文学部）	1名
2	尾道大学（芸術文化学部）	1名
3	山口県立大学（国際文化学部、生活科学部）	8名
4	山口大学（人文学部）	4名
5	聖心女子大学（文学部）	1名
		5大学、15名

■実習内容

9月25日（木）	9:00～12:10	オリエンテーション
	13:00～16:10	美術館と作家顕彰
9月26日（金）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
9月27日（土）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
9月28日（日）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
9月29日（月）	9:00～12:10	古美術品の取り扱い
	13:00～16:10	写真の撮影/美術品の梱包
9月30日（火）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
10月1日（水）	9:00～12:10	実際の作品の取り扱い（県美展作業）
	13:00～16:10	展覧会企画について

(5) 美術館ボランティア

趣旨

美術館活動をサポートする組織としてボランティア制度を設け、ボランティアの知識や経験を活かした活動を通じて、県民の美術館活動への理解を広めるとともに、その活動が県民にとって美術により深く接する場となることをねらいとする。

平成19年度

1・2・3期生による活動を行った。それぞれグループに分かれて、展覧会等に併せた企画をたてて実施した。

グループ別活動内容

教育普及班

常設展 油彩画のはじまり

- ・こどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」 トーク+作品の背景を描く
毎週土曜日11:00～ 12回実施 参加者のべ16人

常設展 香月泰男の夏

- ・こどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」 トーク+フロッタージュ・スタンプ
毎週土曜日11:00～ 5回実施 参加者のべ15人

田中米吉展

- ・こどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」 トーク
毎週土曜日11:00～ 5回実施 参加者のべ35人

モディリアアーニと妻ジャンヌの物語展

- ・こどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」 トーク+鏡を見て自画像を描く
毎週土曜日11:00～ 7回実施 参加者のべ25人

常設展 現代美術入門 一色一

- ・こどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」 トーク+貼り絵
毎週土曜日11:00～ 6回実施 参加者のべ15人

広報班

cafe101 発行

自己紹介誌製作

常設トーク班

常設展でのギャラリートーク 毎週土曜日 13:30～

展覧会サポート班

県美展

- ・カタチになるまで Part II (出品作品ができあがる過程の写真を展示)

HEART2007

- ・ボラ缶 アートマートスペシャルに出店。缶バッチ作成のイベントを実施

田中米吉展

- ・県内にある田中米吉の作品探訪報告を掲示
- ・県内にある田中米吉作品マップを配布

モディリアアーニ展

- ・モディリアアーニ豆知識 リーフレットを制作し配布
- ・人物画と写真あてクイズを掲示

美術館周辺と山口駅周辺のランチマップ作成

その他

県美展搬入、審査会参加

平成20年度

1・2・3期生

それぞれグループに分かれて、展覧会等に併せた企画をたてて実施した。人数が減ったため、常設トーク班は本年度をもって一時活動休止した。

グループ別活動内容

教育普及班

いわさきちひろ展

- ・こどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」 トーク+アートカード

毎週土曜日 11:00～ 7回実施 参加者のべ76人

美がむすぶ絆展

- ・こどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」

毎週土曜日 11:00～ 参加者のべ25人

運慶流展

- ・こどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」

毎週土曜日 11:00～ 参加者のべ70人

広報班

cafe101 発行

自己紹介誌製作

常設トーク班

常設展でのギャラリートーク 毎週土曜日 13:00～

展覧会サポート班

いわさきちひろ展

- ・パレットちひろ ちひろの絵にチャレンジ！ 4月26日・5月10日 14:00～15:30 美術館前庭

美がむすぶ絆展

- ・飛び出す Japanese Art (展示作品を使ったポップアップカードづくり)

8月3日・30日 14:00～15:30 美術館ロビー

- ・作品の部分を思い出すクイズを掲示

県美展

- ・隣のアーティスト (アーティストに焦点をあてたインタビューと写真を掲示)

常設展示「動物いろいろ」

- ・動物いろいろ動物図鑑(作品のモデルになった動物の写真、生態、特徴などをまとめたカードを展示室に設置)

その他

県美展搬入、審査会参加

9月13日 愛媛県立美術館ボランティアとの交流会

10月11日 運慶流展レクチャー (学芸員 岩井共二)

12月13日 動物いろいろ レクチャー (学芸課長 斎藤郁夫)

1月10日 動物いろいろ ギャラリートーク (学芸課長 斎藤郁夫)

3月14日 フラワーズ レクチャー (学芸員 前田淳子)

4期生

4期生の募集を行い、養成講座を実施した。応募者は4名。内訳と講座内容は以下のとおり。

年代別人数

30代	3名
40代	1名

地域別人数

山口市	2名
周南市	1名
宇部市	1名

養成講座

6月14日	開講式 ボランティアの活動について
6月21日	山口県立美術館の沿革（学芸課長 斎藤郁夫）
6月28日	美術館の役割（普及課長 河野通孝）
7月6日	雪舟をみよう（学芸員 荻開津通彦） 「美術館の教育普及活動」（宮城県立美術館教育普及部長 齋正弘）
7月12日	主要所蔵作品について1 香月泰男（副館長 安井雄一郎）
7月19日	雪舟と山口（館長 松原清）
7月26日	主要所蔵作品について2 写真（普及課長 河野通孝）
8月2日	「美がむずぶ絆」展について（学芸員 杉野愛） 狩野芳崖をみる（下関市立美術館長 井土誠） 狩野芳崖《羅漢図》をみる（下関市立美術館長 井土誠）
8月23日	「飛び出す Japanese Art」レクチャー（ボランティア 展覧会サポート班）
8月30日	展覧会サポート班企画「飛び出す Japanese Art」に参加
9月6日	対話型トーク練習
9月13日	対話型トーク練習
9月20日	対話型トーク練習
9月27日	県美展搬入見学
10月5日	「狩野芳崖展」見学（下関市立美術館）
10月11日	「運慶流」展について（学芸員 岩井共二）
10月18日	対話型トーク練習
10月25日	対話型トーク練習
11月1日	主要所蔵作品について3 雪舟と雲谷派（学芸員 荻開津通彦）
11月8日	「運慶流」展展示作業見学
11月15日	教育普及班「運慶流」展こどもむけギャラリートーク見学
11月24日	「運慶流」展講演会聴講
11月30日	雪舟研究会シンポジウム聴講
12月6日	教育普及班「運慶流」展こどもむけギャラリートーク見学
12月13日	「動物いろいろ」について（学芸課長 斎藤郁夫）
1月10日	「動物いろいろ」ギャラリートーク（学芸課長 斎藤郁夫）
1月17日	ギャラリートーク準備
1月24日	ギャラリートーク準備
1月31日	ギャラリートーク準備
2月7日	教育普及のためのツールについて（学芸員 前田淳子）
2月14日	ワークシート制作
2月21日	ワークシート制作
2月28日	ワークシート制作
3月7日	ギャラリートーク準備
3月14日	「動物いろいろ」ギャラリートーク実施
3月21日	「動物いろいろ」ギャラリートーク実施
3月28日	「動物いろいろ」ギャラリートーク実施

(6) 美術館学校地域連携推進事業

児童生徒、教員が芸術文化にふれあい、ともに学ぶ場としての美術館の普及のため、平成16年度より新規に開始、平成18年度をもって3ヶ年施策が完了。平成19年度より「美術館学校地域連携推進事業」へ発展。

(1) 児童生徒向けプログラム

【学校見学】

学校単位での来館に対し解説、他来館者との調整などをおこなう。

(1) 平成19年度

累計：児童生徒・教員1355名

(2) 平成20年度

累計：児童生徒・教員1960名

【出前授業】

多彩な授業を目指す学校や、学校単位での来館が困難な遠隔地の学校へ学芸員を派遣し、担任とともに授業を行う。

(1) 平成19年度

■日時 平成19年6月1日(金)

対象 山口市立渦上中学校

担当 荏開津通彦

授業名 「水墨画と掛け軸」をテーマに、日本絵画の鑑賞について説明

■日時 平成19年6月8日(金)

対象 防府市立大道中学校

担当 杉野愛

授業名 修学旅行事前学習「琉球の美術」

■日時 平成19年10月10日(水)

対象 下松市立末武中学校

担当 杉野愛

授業名 「高橋由一「鴨図」について」

■日時 平成19年10月12日(金)

対象 山陽小野田市立厚狭中学校

担当 前田淳子

授業名 「印象派の色遣いに学ぶ」

■日時 平成19年10月12日(金)

対象 山陽小野田市立厚狭中学校

担当 前田淳子

授業名 「印象派の色遣いに学ぶ」

■日時 平成19年10月25日(木)

対象 周南市立德山小学校

担当 前田淳子

授業名 「日本のアート『水の表現』を鑑賞しよう」

■日時 平成19年11月14日(水)

対象 阿武町立阿武中学校

担当 杉野愛

授業名 「彩色学習「名画に挑戦」より、美術史を学ぼう」

■日時 平成19年11月14日(水)

対象 阿武町立阿武中学校

担当 杉野愛

授業名 鑑賞講座「モディリアーニ」

■日時 平成19年11月20日(火)

対象 萩市立明木中学校

- 担 当 劔持あずさ
 授業名 「モディリアーニ展について、美術館での鑑賞の仕方」
 ■日 時 平成19年11月21日(火)
 対 象 下松市立下松中学校
 担 当 前田淳子
 授業名 「高橋由一～近代洋画の開拓者」
 ■日 時 平成19年11月22日(木)
 対 象 山口県立萩商工高等学校
 担 当 河野通孝
 授業名 「モディリアーニ展、現代写真」
 ■日 時 平成19年11月28日(水)
 対 象 下松市立下松中学校
 担 当 前田淳子
 授業名 「鴨図を鑑賞しよう」
 ■日 時 平成19年12月13日(木)
 対 象 山口市立大内南小学校
 担 当 前田淳子
 授業名 「由一と若冲を比べてみよう」

(2) 平成20年度

- 日 時 平成20年5月16日(金)
 対 象 防府市立大道中学校
 担 当 杉野愛
 授業名 琉球の美しさに触れる鑑賞学習
 ■日 時 平成20年7月14日(月)
 対 象 山口市立湯上中学校
 担 当 荏開津通彦
 授業名 「山水長巻」の世界
 ■日 時 平成20年12月3日(水)
 対 象 下松市立下松小学校
 担 当 瀬谷愛
 授業名 仏像のひみつをさぐろう
 ■日 時 平成20年12月3日(木)
 対 象 山口市立大内南小学校
 担 当 前田淳子
 授業名 「「羅漢図」のおもしろさを伝え合おう」
 ■日 時 平成20年12月4日(木)
 対 象 周南市立周陽中学校
 担 当 劔持あずさ
 授業名 「羅漢図(左幅)の鑑賞」
 ■日 時 平成20年12月12日(金)
 対 象 光市立東荷小学校
 担 当 劔持あずさ
 授業名 「絵の中に入ってお話ししよう～狩野芳崖「羅漢図」の鑑賞を通して」

【**展覧会ガイド**】

子ども向けにわかりやすく解説した展覧会ガイドを小中学校へ配布し、美術館を普及する。

(1) 平成19年度

- ガイド名 「田中米吉ミニギャラリー」
 配布先 県内国公私立小中学校
 ■ガイド名 「モディ・マップ」
 配布先 県内国公私立小中学校

(2) 平成20年度

- ガイド名 「こどもニュース 天稚彦の袖」
- 配布先 県内国公立小中学校

【職場体験学習】

平成20年度

- 日 時 平成20年11月11日(火)～13日(木)
- 対 象 湯田中学校
- 担 当 剣持あずさ

【県美資料等を活用した授業】

平成20年度

- コレクション展に関するビデオ資料を用いた授業
- 日 時 平成21年1月22日(木)
- 場 所 山口大学教育学部附属光中学校
- 資料名 コレクション展「殿敷侃」のtysニュース画像ビデオ
- 内 容 3年生の道徳の授業における当該資料の使用



展覧会ガイド H20
田中米吉ミニギャラリー



展覧会ガイド H19
モディ・マップ

(2) 教員向けプログラム

【教員向け講座】

教員を対象に意欲知識指導力の向上を目指し、美術館と美術教育の普及を行う。

(1) 平成19年度

累計：参加教員139名

- 日 時 平成19年5月19日(土)
- 場 所 山口県立美術館、田中米吉アトリエ
- 講 師 斎藤郁夫、荏開津通彦、田中米吉(美術家)
- 主 題 「春のけんぴ」県立美術館施設・コレクション紹介、田中米吉アトリエ見学
- 参加者 11名
- 日 時 平成19年5月19日(土)
- 場 所 山口県立美術館、田中米吉アトリエ
- 講 師 斎藤郁夫、荏開津通彦、田中米吉(美術家)
- 主 題 「春のけんぴ」県立美術館施設・コレクション紹介、田中米吉アトリエ見学
- 参加者 22名
- 日 時 平成19年9月29日(土)
- 場 所 山口県立美術館
- 講 師 田中米吉(美術家)、前田淳子、河田明久(早稲田大学非常勤講師)
- 主 題 「秋のけんぴ」田中米吉展見学、鴨図レクチャー
- 参加者 28名
- 日 時 平成19年11月11日(日)
- 場 所 山口県立美術館
- 講 師 荏開津通彦、杉野愛、剣持あずさ
- 主 題 「晩秋のけんぴ」雪舟鑑賞、雪舟の授業を考える、モディリアーニ展見学
- 参加者 36名
- 日 時 平成19年11月18日(日)
- 場 所 山口県立山口図書館レクチャールーム
- 講 師 鷺田清一(大阪大学総長)
- 主 題 顔をみる／かく／かんがえる
- 参加者 42名



展覧会ガイド H20
天稚彦の袖

(2) 平成20年度

累計：参加教員 151名

■日時 平成20年7月6日(日)

場所 山口県立美術館

講師 河野通孝、荏開津通彦、齊正弘(宮城県美術館学芸員)

主題 「夏のけんびⅠ～ようこそ美術館へ」けんびについて、雪舟をみよう、美術と鑑賞について

参加者 27名

■日時 平成20年8月2日(土)

場所 山口県立美術館

講師 瀬谷愛、井土誠(下関市立美術館館長)

主題 「夏のけんびⅡ～ベルリン展と芳崖」「美がむすぶ絆展」鑑賞、狩野芳崖をしる、狩野芳崖《羅漢図》をみる

参加者 36名

■日時 平成20年10月5日(日)

場所 下関市立美術館

講師 井土誠(下関市立美術館館長)

主題 「けんびティーチャーズデー 狩野芳崖展in下関」「狩野芳崖 悲母観音への軌跡」展鑑賞、下関市立美術館のコレクション紹介

参加者 32名

■日時 平成20年11月24日(月・祝)

場所 山口県立美術館、山口県立山口図書館レクチャールーム

講師 岩井共二、山本勉(清泉女子大学教授)

主題 「秋のティーチャーズデー 運慶流」「運慶流」展鑑賞、講演会「運慶にであう」

参加者 40名

■日時 平成20年1月31日(土)

場所 山口県立美術館

講師 斎藤郁夫、前田淳子

主題 「2009年ティーチャーズデーことはじめ」コレクション展鑑賞、情報意見交換会

参加者 16名

【教材開発】

平成19年度

■所蔵品ガイド『みる・しる・しらべるコレクション 高橋由一《鴨図》』

平成20年3月15日発行

山口県内全幼稚園～高等学校と希望する教員に配布。

美術館と所蔵作品、鑑賞教育を普及する。

【教員校外研修】

平成20年度

■日時 平成20年7月28日(月)～30日(水)

場所 山口県立美術館

訪問教員 蒲里果(山口県立宇部中央高等学校 教諭)

主題 学芸員の仕事について

【山口県造形教育研究会等との連携】

【学芸員の派遣】

(1) 平成19年度

■日時 平成19年6月7日(木)

対象 山口県造形教育研究会支部長研修会

場所 山口大学附属山口小学校

主題 「美術館と連携した鑑賞授業について」

- 講師 杉野愛
- 日時 平成19年10月10日(水)
- 対象 第54回下松市教育研究大会
- 主題 美術「鑑賞活動を通して美術を理解し、愛好する心情を育む授業の工夫」
- 講師 杉野愛
- 日時 平成19年10月12日(金)
- 対象 山陽小野田市教育研究会美術部会研修会参観授業
- 場所 山陽小野田市立厚狭中学校
- 主題 美術「印象派の色遣いに学ぶ」
- 講師 前田淳子
- 日時 平成19年10月25日(木)
- 対象 周南市小学校図画工作部半日研修会参観授業
- 場所 周南市立德山小学校
- 主題 周南市小学校研修会「鑑賞について」講話
- 講師 前田淳子
- 日時 平成19年11月15日(木)
- 対象 山口県中学校教育研究会美術部会事務局研修会
- 主題 講話・鑑賞「モディリアーニと妻ジャンヌの物語展」について
- 講師 剣持あずさ
- 日時 平成19年11月19日(月)
- 対象 教育研修所主催研修
- 場所 山口県立美術館
- 主題 「中学校、高等学校 主体的な鑑賞能力を高める美術科・芸術科 研修講座」
- 講師 足立直之（義務教育課）、前田淳子、杉野愛

(2) 平成20年度

- 日時 平成20年7月1日(火)
- 対象 山口県造形教育研究会 萩・阿武支部研修会
- 場所 萩市立椿西小学校
- 主題 「学校と美術館との連携について」
- 講師 剣持あずさ
- 日時 平成20年10月9日(木)
- 対象 下松市教育委員会主催研究大会
- 場所 下松市立久保中学校
- 主題 「狩野芳崖の作品を通して日本の美術を鑑賞しよう！」
- 講師 山本真理子（下松市立久保中学校）、剣持あずさ（指導助言者）
- 日時 平成20年11月6日(木)
- 対象 山口大学教育学部主催研修
- 場所 山口大学教育学部附属光小・中学校
- 主題 中学校第三学年社会科「狩野芳崖の軌跡」ほか
- 講師 吉岡智昭（山口大学教育学部附属光中学校）、剣持あずさ（指導助言者）

【情報センター】

県内の教員・学芸員の日常的な連携（情報交換）をサポートするため、メーリングリストを運営する。

(1) 平成19年度

累計：参加教員・学芸員84名

(2) 平成20年度

累計：参加教員・学芸員93名

(7) その他の事業

シンフォニア岩国(山口県民文化ホールいわくに)との共催で館蔵品展を開催した。

山口県立美術館所蔵品展 来て、観て、なるほど美術展

会期：2008年11月20日(木)～27日(木)

会場：シンフォニア岩国 企画展示ホール

主催：シンフォニア岩国指定管理者サントリーパブリシティサービス(株)、山口県立美術館

後援：山口県、岩国市、山口県教育委員会、岩国市教育委員会、岩国市文化協会、財団法人岩国の文化を育てる会

(1) 趣旨

作品をどのように鑑賞すべきかわからないという問題から、美術作品にあまり慣れていない鑑賞者は、美術全般の受け入れに対して消極的になってしまう傾向がある。そこで、作品解説を受けながら美術作品を鑑賞することで、自分なりの鑑賞方法(味わい方)を見つけ、美術作品の深みと楽しさ知ってもらうための展覧会を企画した。山口県立美術館の所蔵品をシンフォニア岩国に移動展示し、鑑賞者が作品世界に入っていく手助けとなるために、美術館学芸員による「色」を切り口とした作品解説を行った。また、青少年を中心に本展覧会の概要を広く広報し、多くの鑑賞者を迎えることで、美術をもっと身近に感じ、美術鑑賞により一層の関心を深めてもらう契機となった。

(2) 出品作品

山口県立美術館所蔵作品31点

出品作家：荒瀬景敏、井川惺亮、桂ゆき、香月泰男、小林和作、椿義則、永地秀太、長谷川繁、松田正平、宮崎進、吉村芳生、ニエーレ・トローニ

(3) 会期中のイベント等

山口県立美術館学芸員によるギャラリー・トーク

日時：11月22日(土) 10:30～、13:30～

(4) 入場者数

1,066人



チラシ

事業

Ⅲ. 調査研究事業

雪舟研究会

平成19年度

■研究委員会

第1回

日時 平成20年3月13日(木) 10:00～12:00

場所 山口県立美術館会議室

出席 松原 清(山口県立美術館館長)

会長

影山 純夫(神戸大学国際文化学部教授)	研究委員長
井土 誠(下関市立美術館館長)	研究委員
伊藤 幸司(山口県立大学国際文化学部准教授)	研究委員
菊屋 吉生(山口大学教育学部教授)	研究委員
古賀 信幸(山口市総合政策部文化政策課市史編さん室長)	研究委員
福島 恒徳(花園大学文学部教授)	研究委員
真木 隆行(山口大学人文学部准教授)	研究委員
山本 英男(京都国立博物館保存修理室長)	研究委員
吉積 久年(山口県文書館副館長)	研究委員
和田 秀作(山口県文書館専門研究員)	研究委員
綿田 稔(東京文化財研究所企画情報部主任研究員)	研究委員
荏開津通彦(山口県立美術館学芸課主任)	研究委員
杉野 愛(山口県立美術館学芸員)	研究委員

藤井 一六(山口県立美術館副館長)	事務局長
山本 一夫(山口県立美術館総務課長)	事務局員
斎藤 郁夫(山口県立美術館学芸課長)	事務局員
河野 通孝(山口県立美術館普及課長)	事務局員

■研究報告

日時 平成20年3月13日(木) 10:20～11:00

場所 山口県立美術館会議室

報告者 福島 恒徳(研究委員)

題目 「雪舟改名に関する新資料をめぐる」 報告者：福島 恒徳(研究委員)

平成20年度

■研究委員会

第1回

日時 平成20年6月20日(木) 14:00～16:00

場所 山口県立美術館会議室

出席 松原 清(山口県立美術館館長)

会長

影山 純夫(神戸大学国際文化学部教授)	研究委員長
井土 誠(下関市立美術館館長)	研究委員
伊藤 幸司(山口県立大学国際文化学部准教授)	研究委員
菊屋 吉生(山口大学教育学部教授)	研究委員
古賀 信幸(山口市総合政策部文化政策課市史編さん室長)	研究委員
真木 隆行(山口大学人文学部准教授)	研究委員
山本 英男(京都国立博物館保存修理室長)	研究委員
吉積 久年(山口県文書館副館長)	研究委員
和田 秀作(山口県文書館専門研究員)	研究委員
綿田 稔(東京文化財研究所企画情報部主任研究員)	研究委員
荏開津通彦(山口県立美術館学芸課主任)	研究委員
杉野 愛(山口県立美術館学芸員)	研究委員

杉原 敏雄 (山口県立美術館副館長)	事務局長
山本 一夫 (山口県立美術館総務課長)	事務局員
斎藤 郁夫 (山口県立美術館学芸課長)	事務局員
河野 通孝 (山口県立美術館普及課長)	事務局員

第2回

日時 平成20年11月30日(日) 16:00～17:00
 場所 山口県立美術館会議室
 出席 松原 清 (山口県立美術館館長)

会長

影山 純夫 (神戸大学国際文化学部教授)	研究委員長
井土 誠 (下関市立美術館館長)	研究委員
伊藤 幸司 (山口県立大学国際文化学部准教授)	研究委員
菊屋 吉生 (山口大学教育学部教授)	研究委員
古賀 信幸 (山口市総合政策部文化政策課市史編さん室長)	研究委員
真木 隆行 (山口大学人文学部准教授)	研究委員
山本 英男 (京都国立博物館保存修理室長)	研究委員
吉積 久年 (山口県文書館副館長)	研究委員
和田 秀作 (山口県文書館専門研究員)	研究委員
綿田 稔 (東京文化財研究所企画情報部主任研究員)	研究委員
荏開津通彦 (山口県立美術館学芸課主任)	研究委員
瀬谷 愛 (山口県立美術館学芸員)	研究委員

杉原 敏雄 (山口県立美術館副館長)	事務局長
山本 一夫 (山口県立美術館総務課長)	事務局員
斎藤 郁夫 (山口県立美術館学芸課長)	事務局員
河野 通孝 (山口県立美術館普及課長)	事務局員

■公開講座

日時 平成20年11月30日(日) 13:30～16:00
 場所 山口県立美術館講座室
 題目 雪舟改名の新資料と今後の課題

基調講演

演題：雪舟改名に関する新資料をめぐって
 講師：福島 恒徳 (花園大学教授・研究委員)

シンポジウム

テーマ：1460年頃の山口と雪舟
 パネリスト：島尾 新 (多摩美術大学教授)
 伊藤 幸司 (山口県立大学准教授・研究委員)
 福島 恒徳 (花園大学教授・研究委員)
 コーディネーター：菊屋 吉男 (山口大学教授・研究委員)

■研究誌『天開圖畫』第7号の刊行(平成21年3月31日発行)

新出の長祿元年「雪舟二字説」について
 雪舟と岳翁—「周文」の記憶—
 もう一つの天橋立図—ギメ美術館蔵本について
 『高隠漁唱』に読む桂庵玄樹の動向と雪舟(後編)

福島 恒徳
 城市真理子
 島尾 新
 渡邊 雄二

事業

IV. 収集事業

(1) 館蔵品貸出利用状況

作品	作者	貸出期間	貸出先	展覧会名等	備考
猿猴図	森周峰	2007/02/28—2007/05/16	府中市美術館	動物絵画の100年	
熊図	森一鳳	〃	〃	〃	
孔雀図	朝倉南陵	〃	〃	〃	
雲谷等的系統の印(23顆)		2007/04/05—2008/06/28	萩博物館	萩藩雲谷派の世界	寄託品
春の海	小林和作	2007/05/22—2007/10/05	兵庫県立美術館、松本市美術館、富山県水墨美術館	「絶筆」展	
サーカスの写真(全20作品)	丹野章	2007/06/15—2007/12/12	損保ジャパン東郷青児美術館、MOA美術館	解き放たれたイメージ—サーカス展	
観音図	伝雪舟	2007/07/09—2008/03/02	東京国立博物館、九州国立博物館	京都五山 禪の文化	寄託品
ゆあみ	新海竹太郎	2007/07/12—2008/05/27	国立新美術館、宮城県美術館、広島県立美術館、富山県立近代美術館	日展100年	
春宵賀之図	樋口富麻呂	2007/08/19—2008/01/06	笹岡市立竹喬美術館、稲沢市萩須記念美術館、高崎市タワー美術館	三都の女—東京・京都・大阪における女性表現の諸相—	
梳る女	梶本武雄	〃	〃	〃	
化粧	〃	〃	〃	〃	
原始太陽	藤田隆治	2007/08/30—2007/10/23	下関市立美術館	生誕100年・藤田隆治展	
三眠	〃	〃	〃	〃	
動的な群像	〃	〃	〃	〃	
海老と魚	〃	〃	〃	〃	
鳥と魚	〃	〃	〃	〃	
鷺のいる風景	〃	〃	〃	〃	
魚のいる風景	〃	〃	〃	〃	
有明海	〃	〃	〃	〃	
格子魚	〃	〃	〃	〃	
初夏	〃	〃	〃	〃	
海底のアラベスク	〃	〃	〃	〃	
群鶴図	〃	〃	〃	〃	
軍鶏図	〃	〃	〃	〃	
自画像	〃	〃	〃	〃	
くらげ	〃	〃	〃	〃	
裸婦	〃	〃	〃	〃	
写生手帖(13冊)	〃	〃	〃	〃	
下絵・ドローイング(50点)	〃	〃	〃	〃	
ベルリンオリンピック芸術競技銅メダル	〃	〃	〃	〃	
支那風景	〃	〃	〃	〃	
黄色い花	〃	〃	〃	〃	
河内貯水池遠望	〃	〃	〃	〃	
風景	香月泰男	2007/09/04—2007/12/01	蘭島閣美術館	香月泰男 生命をみつめる	
幼鷺	〃	〃	〃	〃	
施療	〃	〃	〃	〃	寄託品
太陽と自転車	〃	〃	〃	〃	寄託品
洗濯	〃	〃	〃	〃	寄託品
帰り道	桂ゆき	2007/09/27—2007/11/30	一宮市三岸節子記念美術館	桂ゆき展〜コラージュとユーモアの女性画家〜	寄託品
作品	〃	〃	〃	〃	寄託品
作品	〃	〃	〃	〃	
猫になった女	〃	〃	〃	〃	
虎の威を借りた狐	〃	〃	〃	〃	
ラストスパート	〃	〃	〃	〃	寄託品
欲張り婆さん	〃	〃	〃	〃	
アダムとイヴ	〃	〃	〃	〃	
笑う人	〃	〃	〃	〃	
つぶされた	〃	〃	〃	〃	
誕生	〃	〃	〃	〃	
出山釈迦図	玉村方久斗	2007/10/25—2008/02/21	神奈川県立近代美術館鎌倉、京都国立近代美術館	玉村方久斗展	
鶏翠枯水野図	〃	〃	〃	〃	
芥川之図	〃	〃	〃	〃	

作品	作者	貸出期間	貸出先	展覧会名等	備考
黄菊白菊図	玉村方久斗	2007/10/25—2008/02/21	神奈川県立近代美術館 鎌倉、京都国立近代美術館	玉村方久斗展	
養老図	〃	〃	〃	〃	
松下白鶴図	〃	〃	〃	〃	
双鶏図	〃	〃	〃	〃	
花水木二小禽図	〃	〃	〃	〃	
菊花白禽図	〃	〃	〃	〃	
紅葉二白禽図	〃	〃	〃	〃	
藤花遊禽図	〃	〃	〃	〃	
葡萄図	〃	〃	〃	〃	
老松図	〃	〃	〃	〃	
寒林双鶏図	〃	〃	〃	〃	
木瓜図	〃	〃	〃	〃	
層山曙色図	〃	〃	〃	〃	
草花帖	〃	〃	〃	〃	
諸道聴耳世間猿図巻	〃	〃	〃	〃	
竹取物語絵巻	〃	〃	〃	〃	
煙草をくゆらす浮浪児 上野	林忠彦	2007/11/01—2007/12/20	砺波市美術館	山口県立美術館コレクション写真展 写真にみる戦後日本	
引き揚げ 上野	〃	〃	〃	〃	
銀座のサンドイッチマン	〃	〃	〃	〃	
托鉢僧とストリップ 浅草	〃	〃	〃	〃	
分教場にて 岩手県	〃	〃	〃	〃	
占領下の皇居前広場	〃	〃	〃	〃	
浅草にて おもちゃ屋	金井精一	〃	〃	〃	
浅草にて 青空楽団	〃	〃	〃	〃	
浅草にて 街角	〃	〃	〃	〃	
浅草にて ロック座楽屋口	〃	〃	〃	〃	
浅草にて ビヤホール	〃	〃	〃	〃	
浅草にて サーカス	〃	〃	〃	〃	
妻の死	福島菊次郎	〃	〃	〃	
8年目の病床	〃	〃	〃	〃	
1956年の春	〃	〃	〃	〃	
働く蓉子	〃	〃	〃	〃	
入学式の朝	〃	〃	〃	〃	
蓉子の青春	〃	〃	〃	〃	
蓉子の悲しみ	〃	〃	〃	〃	
悶絶した父親	〃	〃	〃	〃	
原爆症に蝕まれて	〃	〃	〃	〃	
27歳になった蓉子	〃	〃	〃	〃	
山の湯治場 青森	濱谷浩	〃	〃	〃	
嫁入り 石川	〃	〃	〃	〃	
寒い日の海女 福井	〃	〃	〃	〃	
田植女 富山	〃	〃	〃	〃	
海の親子 山口・見島	〃	〃	〃	〃	
島の墓場 山口・見島	〃	〃	〃	〃	
大曲・おばこ	木村伊兵衛	〃	〃	〃	
横手 梵天	〃	〃	〃	〃	
大曲市内小友	〃	〃	〃	〃	
大曲市内小貫	〃	〃	〃	〃	
大曲市内小友	〃	〃	〃	〃	
大曲市大曲西根	〃	〃	〃	〃	
沈黙の園#3	奈良原一高	〃	〃	〃	
沈黙の園#25	〃	〃	〃	〃	
沈黙の園#52	〃	〃	〃	〃	
沈黙の園#1	〃	〃	〃	〃	
沈黙の園#11	〃	〃	〃	〃	
沈黙の園#29	〃	〃	〃	〃	
高射砲陣地後	川田喜久治	〃	〃	〃	
トーチカ内部 落書き	〃	〃	〃	〃	
原爆死 中学生上衣	〃	〃	〃	〃	
日の丸	〃	〃	〃	〃	

作品	作者	貸出期間	貸出先	展覧会名等	備考
被爆者の腕	川田喜久治	2007/11/01—2007/12/20	砺波市美術館	山口県立美術館コレクション写真展 写真にみる戦後日本	
原爆ドーム 観光者 落書き	〃	〃	〃	〃	
原爆ドーム 太陽	〃	〃	〃	〃	
原爆ドーム内部	〃	〃	〃	〃	
おとこと女 #8	細江英公	〃	〃	〃	
おとこと女 #17	〃	〃	〃	〃	
おとこと女 #19	〃	〃	〃	〃	
おとこと女 #24	〃	〃	〃	〃	
おとこと女 #32	〃	〃	〃	〃	
おとこと女 #36	〃	〃	〃	〃	
<11時02分>NAGASAKI	東松照明	〃	〃	〃	
<11時02分>NAGASAKI	〃	〃	〃	〃	
<11時02分>NAGASAKI	〃	〃	〃	〃	
<11時02分>NAGASAKI	〃	〃	〃	〃	
<11時02分>NAGASAKI	〃	〃	〃	〃	
アスファルト	〃	〃	〃	〃	
太陽の鉛筆 大神島	〃	〃	〃	〃	
太陽の鉛筆 波照間島	〃	〃	〃	〃	
太陽の鉛筆 波照間島	〃	〃	〃	〃	
太陽の鉛筆 野甫島	〃	〃	〃	〃	
太陽の鉛筆 渡嘉敷島	〃	〃	〃	〃	
太陽の鉛筆 伊良部島	〃	〃	〃	〃	
新宿区 新宿駅西口広場 3月31日	高梨豊	〃	〃	〃	
千代田区 丸の内松竹 4月4日	〃	〃	〃	〃	
ビートルズ映画大会	〃	〃	〃	〃	
新宿区 新宿駅ビル 3月21日	〃	〃	〃	〃	
東京・ニューヨーク姉妹校絵画展	〃	〃	〃	〃	
千代田区 日比谷公園 4月26日	〃	〃	〃	〃	
ベトナム戦争反対国民総決起大会	〃	〃	〃	〃	
文京区 東大 5月23日 五月祭	〃	〃	〃	〃	
杉並区 環状七号線	〃	〃	〃	〃	
新宿区 新宿 4月5日	〃	〃	〃	〃	
足立区 竹ノ塚第2団地 5月9日	〃	〃	〃	〃	
文京区 後楽園野球場 4月10日	〃	〃	〃	〃	
新宿区 新宿駅 2月12日	〃	〃	〃	〃	
都市の軌跡	柳沢信	〃	〃	〃	
都市の軌跡	〃	〃	〃	〃	
都市の軌跡	〃	〃	〃	〃	
都市の軌跡	〃	〃	〃	〃	
都市の軌跡	〃	〃	〃	〃	
都市の軌跡	〃	〃	〃	〃	
につぼん劇場写真帖	森山大道	〃	〃	〃	
狩人	〃	〃	〃	〃	
狩人	〃	〃	〃	〃	
狩人	〃	〃	〃	〃	
狩人	〃	〃	〃	〃	
狩人	〃	〃	〃	〃	
婆バクハツ	内藤正敏	〃	〃	〃	
婆バクハツ	〃	〃	〃	〃	
婆バクハツ	〃	〃	〃	〃	
婆バクハツ	〃	〃	〃	〃	
婆バクハツ	〃	〃	〃	〃	
婆バクハツ	〃	〃	〃	〃	
群馬安中 1976年	須田一政	〃	〃	〃	
横浜山下公園 港祭 1976年5月	〃	〃	〃	〃	
山形尾花沢 花笠祭 1976年8月27日	〃	〃	〃	〃	
埼玉秩父 夜祭り 1975年13月3日	〃	〃	〃	〃	
岐阜郡上八幡 1975年8月13日	〃	〃	〃	〃	
埼玉県秩父鹿野 鉄砲祭 1976年12月5日	〃	〃	〃	〃	
秋田西馬音内 盆踊り 1976年8月18日	〃	〃	〃	〃	
神奈川県三浦三崎 1975年6月2日	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	牛腸茂雄	〃	〃	〃	

作品	作者	貸出期間	貸出先	展覧会名等	備考
SELF AND OTHERS	牛腸茂雄	2007/11/01—2007/12/20	砺波市美術館	山口県立美術館コレクション写真展 写真にみる戦後日本	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
SELF AND OTHERS	〃	〃	〃	〃	
家族写真(6才の時)	〃	〃	〃	〃	
Self-portrait	〃	〃	〃	〃	
道 1976年12月16日	田村彰英	〃	〃	〃	
道 1977年4月25日	〃	〃	〃	〃	
道 1978年1月3日	〃	〃	〃	〃	
道 1978年8月25日	〃	〃	〃	〃	
道 1979年2月13日	〃	〃	〃	〃	
道 1979年4月23日	〃	〃	〃	〃	
道 1979年6月10日	〃	〃	〃	〃	
道 1979年8月19日	〃	〃	〃	〃	
道 1979年12月23日	〃	〃	〃	〃	
道 1980年6月28日	〃	〃	〃	〃	
道 1980年12月31日	〃	〃	〃	〃	
道 1981年2月17日	〃	〃	〃	〃	
傲高克恭山水図巻	雪舟	2007/12/14—2008/03/02	九州国立博物館	京都五山 禅の文化	
傲李唐牧牛図	〃	〃	〃	〃	
喫茶室	田口壮	2008/02/16—2008/04/10	島根県立石見美術館	モダンガールズあらわる。昭和初期の美人画展	寄託品
山湖	小林和作	2008/07/16—2008/10/03	尾道市立美術館	生誕120年 小林和作の画業『天地豊麗』展	
海	〃	〃	〃	〃	
海	〃	〃	〃	〃	
婦人像	〃	〃	〃	〃	
春の海	〃	〃	〃	〃	
潮流	〃	〃	〃	〃	寄託品
白い椅子と枯れた花	尾崎正章	2008/07/18—2008/9/18	周南市美術博物館	尾崎正章展	
薄雪	〃	〃	〃	〃	
山水図	狩野芳崖	2008/08/19—2008/11/07	東京藝術大学大学美術館、下関市立美術館	狩野芳崖 悲母観音への軌跡—東京藝術大学所蔵品を中心に	
八臂弁財天図	〃	〃	〃	〃	
羅漢図	〃	〃	〃	〃	
呂洞賓鉄拐図	〃	〃	〃	〃	
懸涯飛沫図	〃	〃	〃	〃	
東帯天神像	雪舟	2008/09/09—2008/12/04	九州国立博物館	国宝 天神さま—菅原道真の時代と天満宮の至宝—	
人影	野長瀬晩花	2008/10/02—2008/12/12	熊野古道なかへち美術館、田辺市立美術館	野長瀬晩花展	
葡萄図	元賀	2008/10/22—2009/07/14	栃木県立美術館、静岡県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館	朝鮮王国の絵画と日本 宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美	
紫雲龍気盤	十二代三輪休雪	2008/12/20—2009/9/30	ナリ三越エトワール	十二代 三輪休雪展	寄託品
崖花水指	〃	〃	〃	〃	寄託品
崖花手桶	〃	〃	〃	〃	寄託品
花の調べ 花入	〃	〃	〃	〃	寄託品
黛変白萩花入	〃	〃	〃	〃	寄託品
白雲現龍氣	〃	〃	〃	〃	
雪中修	〃	〃	〃	〃	寄託品
明	〃	〃	〃	〃	寄託品
古代の人(王墓)	〃	〃	〃	〃	
古代の人(王妃墓)	〃	〃	〃	〃	

作品	作者	貸出期間	貸出先	展覧会名等	備考
流沙の人	十二代三輪休雪	2008/12/20—2009/9/30	パリ三越エトワール	十二代 三輪休雪展	
寂・若女	〃	〃	〃	〃	
寂・般若	〃	〃	〃	〃	
予感	〃	〃	〃	〃	
春雷(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
ラブソディ(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
女	〃	〃	〃	〃	
花I	〃	〃	〃	〃	
花IV(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
女帝(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
黒の風景	〃	〃	〃	〃	
祭器(蓋物)	〃	〃	〃	〃	寄託品
Love	〃	〃	〃	〃	寄託品
騎士の休息	〃	〃	〃	〃	寄託品
Aiko 2	〃	〃	〃	〃	寄託品
摩利耶	〃	〃	〃	〃	寄託品
やわらかい海-1	〃	〃	〃	〃	
やわらかい海-2	〃	〃	〃	〃	
やわらかい海-6	〃	〃	〃	〃	寄託品
叫び	〃	〃	〃	〃	
被疑者	〃	〃	〃	〃	
第3の使者	〃	〃	〃	〃	
悪夢	〃	〃	〃	〃	
火焰	〃	〃	〃	〃	
早春	〃	〃	〃	〃	
王妃の悲劇	〃	〃	〃	〃	
銃殺	〃	〃	〃	〃	
M嬢	〃	〃	〃	〃	
花	〃	〃	〃	〃	
サムライ	〃	〃	〃	〃	
叫び(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
被疑者(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
第3の使者(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
悪夢(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
火焰(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
早春(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
王妃の悲劇(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
銃殺(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
M嬢(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
花(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
サムライ(「オブジェ群」から)	〃	〃	〃	〃	
騎士の休息	〃	〃	〃	〃	寄託品
白のハイヒール	〃	〃	〃	〃	寄託品
金のハイヒール(「愛のために」から5点)	〃	〃	〃	〃	
樓閣山水図屏風	雲谷等顔	2008/12/21—2009/02/11	福岡市美術館	福岡と雲谷派	
風景	香月泰男	2009/02/02—2009/03/30	下関市立美術館	香月泰男と1940-50年代の絵画	
幼鷺	〃	〃	〃	〃	
施療	〃	〃	〃	〃	寄託品
涅槃	香月泰男	2009/03/17—2009/07/22	東京都美術館	日本の美術館名品展	

(2) コレクション

※凡例

以下の目録は、2007（平成19）年4月から2009（平成21）年3月までに収蔵された館蔵品を網羅したものである。作品の整理方針および個々のデータの記録法は『山口県立美術館蔵品目録1979』にほぼ準じている。すなわち、作品は日本画（J）・洋画（O）・水彩画（W）・素描（D）・版画（P）・写真（Ph）・彫刻（S）・工芸（C）・書（Ca）・資料（R）の順で編集し、また個々のデータについては、整理番号・作者・生没年・タイトル・素材技法・寸法（cm）・制作年・収蔵年度とその経緯の順で記した。整理番号は、『山口県立美術館年報 平成17～18』に続く通し番号である。



J-258

雲谷等爾

UNKOKU, Toji

1615～1671

陳搏・布袋・杜甫図

Zhen-tuan, Pu-tai, Du-bu

江戸時代17世紀

絹本墨画淡彩（陳搏）、絹本墨画（布袋・杜甫）・掛幅装三幅対

各113.6×38.6

平成20年度 寄贈

鈴木陽子氏 寄贈



O-206

永地秀太

NAGATOCHI, Hideta

1873～1942

静物

Still Life

1930以前

油絵、カンヴァス

50.2×72.8

平成20年度 保管転換

山口県農業試験場より保管転換



O-207

香月泰男

KAZUKI, Yasuo

1911～1974

無題

Untitled

1932

油彩、カンヴァス

60.8×72.8

平成20年度 寄贈



O-208

殿敷侃

TONOSHIKI, Tadashi

1942～1992

釋寛量信士（シャツ）

Saku-kanryo-shinshi (Shirt)

1979

油彩、カンヴァス

91.0×116.8

平成20年度 寄贈

萩原光子氏 寄贈



W-376

河上大二

KAWAKAMI, Daiji

1893～1949

アトリエ

A telier

1928

水彩、紙

55.3×74.2

平成20年度 寄贈

河上陽一氏 寄贈



W-377

河上大二

KAWAKAMI, Daiji

1893～1949

映写会

Open Theater

1932

水彩、紙

56.0×75.8

平成20年度 寄贈

河上陽一氏 寄贈



W-378

河上大二

KAWAKAMI, Daiji

1893～1949

夜桜

Night Flower-viewing

水彩、紙

56.4×78.5

平成20年度 寄贈

河上陽一氏 寄贈



W-379
河上大二
KAWAKAMI, Daiji
1893～1949
戸外風景
Landscape
1933
水彩、紙
57.5 × 77.5
平成20年度 寄贈
河上陽一氏 寄贈



W-380
河上大二
KAWAKAMI, Daiji
1893～1949
戸外風景
Landscape
1936
水彩、紙
59.5 × 75.6
平成20年度 寄贈
河上陽一氏 寄贈



W-381
河上左京
KAWAKAMI, Sakyo
1889～1971
静物（水筒）
Still Life
1919
水彩、紙
39.5 × 57.3
平成20年度 寄贈
河上莊吾氏 寄贈



W-382
河上左京
KAWAKAMI, Sakyo
1889～1971
静物
Still Life
1921
水彩、紙
52.3 × 69.1
平成20年度 寄贈
河上莊吾氏 寄贈



P-187
集団蜘蛛
Shudan-Kumo(Group Spiders)
活動期間：1968～1973
集団蜘蛛ポートレート
森山安英（青）
Portrait of Shudan-Kumo:
MORIYAMA, Yasuhide (Blue)
1969
リトグラフ、紙
219.4 × 109.8
平成20年度 寄贈
森山安英氏 寄贈



P-188
集団蜘蛛
Shudan-Kumo(Group Spiders)
活動期間：1968～1973
集団蜘蛛ポートレート
加藤勲（ピンク）
Portrait of Shudan-Kumo:
KATO, Isao (Pink)
1969
リトグラフ、紙
219.4 × 109.8
平成20年度 寄贈
森山安英氏 寄贈



P-189
集団蜘蛛
Shudan-Kumo(Group Spiders)
活動期間：1968～1973
集団蜘蛛ポートレート
春元茂人（オレンジ）
Portrait of Shudan-Kumo:
HARUMOTO, Shigeto (Orange)
1969
リトグラフ、紙
219.4 × 109.8
平成20年度 寄贈
森山安英氏 寄贈



P-190
集団蜘蛛
Shudan-Kumo(Group Spiders)
活動期間：1968～1973
集団蜘蛛ポートレート
森山安英（黒）
Portrait of Shudan-Kumo:
MORIYAMA, Yasuhide (Black)
1969
リトグラフ、紙
219.4 × 109.8
平成20年度 寄贈
森山安英氏 寄贈



P-191

集団蜘蛛

Shudan-Kumo(Group Spiders)

活動期間：1968～1973

集団蜘蛛ポर्टレート

加藤勲(黒)

Portrait of Shudan-Kumo:

KATO,Isao (Black)

1969

リトグラフ、紙

219.4 × 109.8

平成20年度 寄贈

森山安英氏 寄贈



P-192

集団蜘蛛

Shudan-Kumo(Group Spiders)

活動期間：1968～1973

集団蜘蛛ポर्टレート

春元茂人(黒)

Portrait of Shudan-Kumo:

HARUMOTO, Shigeto (Black)

1969

リトグラフ、紙

219.4 × 109.8

平成20年度 寄贈

森山安英氏 寄贈



P-193

集団蜘蛛

Shudan-Kumo(Group Spiders)

活動期間：1968～1973

菊畑茂久馬原版に基づく盗作版画「菊畑

茂久馬アルバム集」より (THE BRIDE

AND BRIDEGROOM 借居にかつがれて

階段をのぼる新郎新婦を新婦とその家族)

Plagiarised Print from "THE

BRIDE AND BRIDEGROOM"

by KIKUHATA, Mokuma

1969

リトグラフ、紙

42.4 × 31.9

平成20年度 寄贈

森山安英氏 寄贈



P-194

集団蜘蛛

Shudan-Kumo(Group Spiders)

活動期間：1968～1973

菊畑茂久馬原版に基づく盗作版画「菊畑

茂久馬アルバム集」より (THE BRIDE

AND BRIDEGROOM 教会で交合する

新郎新婦に背をむけて漁網を繕う祖父)

Plagiarised Print from "THE

BRIDE AND BRIDEGROOM"

by KIKUHATA, Mokuma

1969

リトグラフ、紙

42.4 × 31.9

平成20年度 寄贈

森山安英氏 寄贈



P-195

集団蜘蛛

Shudan-Kumo(Group Spiders)

活動期間：1968～1973

菊畑茂久馬原版に基づく盗作版画

「菊畑茂久馬アルバム集」より (THE

BRIDE AND BRIDEGROOM 新

郎新婦が旅先のホテルに入る時突

然駅での別れのことを想う)

Plagiarised Print from "THE

BRIDE AND BRIDEGROOM"

by KIKUHATA, Mokuma

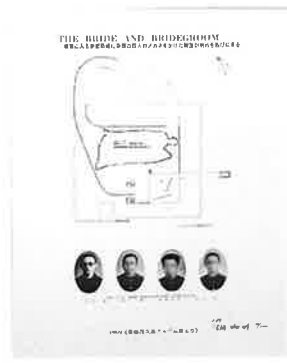
1969

リトグラフ、紙

42.4 × 31.9

平成20年度 寄贈

森山安英氏 寄贈



P-196

集団蜘蛛

Shudan-Kumo(Group Spiders)

活動期間：1968～1973

菊畑茂久馬原版に基づく盗作版画「菊畑

茂久馬アルバム集」より (THE

BRIDE AND BRIDEGROOM 寢室

に入る新郎新婦に新郎の四人のメガ

ネをかけた親友が別れを告げに来る)

Plagiarised Print from "THE

BRIDE AND BRIDEGROOM"

by KIKUHATA, Mokuma

1969

リトグラフ、紙

42.4 × 31.9

平成20年度 寄贈

森山安英氏 寄贈



C-224

山本晃

YAMAMOTO, Akira

1944～

接合せ箱「山背」

Box

2004

金・銀・銅及びその合金

20.0 × 22.0 × 8.5

平成20年度 寄贈

神田 栄子氏 寄贈

神田 栄子氏

(3) 山口県立萩美術館・浦上記念館 陶芸展示施設整備に伴う陶芸作品の移管

山口県では、山口県の誇る陶芸文化の継承・発展を図り、広く全国に向けた情報発信を行い、県境を越えた文化の発信拠点とすることを目的に、萩焼発祥の地に、新たな萩焼展示施設を整備することとなった。平成20年から、山口県立萩美術館・浦上記念館に、萩焼や関連陶芸作品の常設展示施設建設に着手し、平成22年秋の開館を目指して準備を進めている。

この陶芸展示施設の整備に伴い、山口県立美術館が昭和54年の開館以来収蔵・展示を行ってきた陶芸作品は、萩美術館・浦上記念館に移管することになった。これに先だって、平成19年度には、下記の陶芸作品資料（主に前衛陶芸作品を除く陶芸作品(C)・資料(R)）が、萩美術館・浦上記念館に移管された。

	作品名記号	作者名	作品名	寸法	制作年代	収集年度	取得方法
1	C-001	坂高麗左衛門 (11代)	萩茶碗	口径15.2、底径5.3、高8.5	1975	昭和54年度	保管転換 (贈)
2	C-002	坂高麗左衛門 (11代)	萩水指	口径17.3、底径7.4、高15.2	1975	昭和54年度	保管転換 (贈)
3	C-003	坂高麗左衛門 (11代)	萩魚文壺	口径13.7、胴径29.7、底径11.3、高23.6	1975	昭和54年度	寄贈
4	C-004	坂高麗左衛門 (11代)	萩ちりめん釉花入	口径6.9、胴径8.7×9.0、底径7.6×8.0、高21.0	1979	昭和54年度	寄贈
5	C-005	坂倉新兵衛 (12代)	萩茶碗	口径13.9、底径7.3、高9.1		昭和54年度	保管転換 (贈)
6	C-006	坂倉新兵衛 (12代)	萩刷毛目茶碗	口径14.9、底径5.7、高8.4		昭和54年度	保管転換 (贈)
7	C-007	坂倉新兵衛 (12代)	萩水指	口径17.5、胴径23.0、底径15.2、高11.1	1978	昭和54年度	保管転換 (贈)
8	C-008	坂倉新兵衛 (14代)	萩御本手茶碗	口径13.9、底径6.0、高8.7	1974	昭和54年度	保管転換 (贈)
9	C-009	坂倉新兵衛 (14代)	萩茶入	口径3.1、胴径6.6、底径4.0、高8.0	1974	昭和54年度	保管転換 (贈)
10	C-010	坂倉新兵衛 (14代)	萩茶碗「初霜」	口径14.3、底径5.7、高7.9	1974	昭和54年度	保管転換 (贈)
11	C-011	坂倉新兵衛 (14代)	萩茶碗「山路」	口径14.7、底径5.5、高8.3	1974	昭和54年度	保管転換 (贈)
12	C-012	坂倉新兵衛 (14代)	萩平水指	口径30.5、胴径29.7、底径17.4、高11.0	1974	昭和54年度	保管転換 (贈)
13	C-013	坂倉新兵衛 (14代)	萩喰籠	23.7×22.0×11.2	1974	昭和54年度	保管転換 (贈)
14	C-014	坂倉新兵衛 (14代)	萩灰被耳付花入	口径10.3、胴径12.0、底径10.5、高24.3	1974	昭和54年度	保管転換 (贈)
15	C-015	坂倉新兵衛 (14代)	萩トジメ水指	口径17.8×19.5、底径16.6×16.8、高14.4		昭和54年度	保管転換 (購)
16	C-016	坂田泥華 (坂田泥珠)	萩茶碗	口径15.4、底径5.8、高9.0	1977	昭和54年度	保管転換 (贈)
17	C-017	坂田泥華 (坂田泥珠)	萩焼メ燿変水指	口径17.0×17.6、胴径17.0、底径15.3、高16.2	1978	昭和54年度	保管転換 (贈)
18	C-018	坂田泥華 (坂田泥珠)	萩茶碗	口径14.0、底径5.8、高8.1	1979	昭和54年度	寄贈
19	C-019	坂田泥華 (坂田泥珠)	萩小井戸茶碗	口径15.0、底径5.6、高6.0	1979	昭和54年度	寄贈
20	C-020	田原陶兵衛 (12代)	萩茶碗	口径15.0、底径5.8、高8.9	1978	昭和54年度	保管転換 (贈)
21	C-021	田原陶兵衛 (12代)	萩灰被水指	口径19.0×19.4、底径17.0、高16.5	1978	昭和54年度	保管転換 (贈)
22	C-022	田原陶兵衛 (12代)	萩割高台茶碗	口径13.9、底径6.3、高9.0	1979	昭和54年度	寄贈
23	C-023	田原陶兵衛 (12代)	萩灰被耳付花入	口径9.3、胴径11.8、底径10.1、高26.4、幅15.0	1979	昭和54年度	保管転換 (贈)
24	C-029	三輪休雪 (11代) (三輪壽雪)	萩茶碗	口径13.1、底径7.0、高9.8、	1978	昭和54年度	寄贈
25	C-030	三輪休雪 (11代) (三輪壽雪)	萩茶碗	口径13.2、底径6.0、高さ9.0	1978	昭和54年度	寄贈
26	C-031	三輪休雪 (11代) (三輪壽雪)	萩茶碗	口径12.5、底径5.9、高9.7	1979	昭和54年度	寄贈
27	C-032	三輪休雪 (11代) (三輪壽雪)	萩茶碗	口径10.7×13.9、底径5.2×6.3、高8.3	1979	昭和54年度	寄贈
28	C-033	三輪休和	萩編笠水指	口径26.5×20.3、胴径21.0、底径13.9、高12.2	1973	昭和54年度	保管転換 (贈)
29	C-034	三輪休和	萩茶碗	口径13.5、底径6.1、高9.2	1975	昭和54年度	保管転換 (贈)
30	C-035	三輪休和	萩筆洗切茶碗	口径12.9、底径6.5、高9.7、	1975	昭和54年度	保管転換 (贈)
31	C-036	三輪休和	萩茶碗	口径12.7、底径5.6、高9.0	1976	昭和54年度	保管転換 (贈)
32	C-041	吉賀大眉	萩象嵌花瓶	口径8.0、胴径13.7×13.8、底径10.1、高35.2	1943	昭和54年度	保管転換 (贈)
33	C-042	吉賀大眉	麦文壺	口径17.4、胴径33.0、底径16.8、高さ27.2	1946	昭和54年度	保管転換 (贈)
34	C-043	吉賀大眉	花器「暁雲」	口径21.2、胴径39.0、底径10.5、高40.0	1973	昭和54年度	寄贈
35	C-044	吉賀大眉	萩小井戸茶碗	口径14.7、底径5.7、高9.6		昭和54年度	寄贈
36	C-045	坂高麗左衛門 (11代)	萩茶碗	口径15.1、底径6.0、高8.5	1970	昭和55年度	寄贈
37	C-049	吉賀大眉	白釉壺 (花器) (雪層)	口径14.3、胴径45.7、底径12.4、高44.2	1962	昭和55年度	寄贈

38	C-050	吉賀大眉	斗々屋写茶碗	口径15.3、底径5.5、高6.5	1974	昭和55年度	寄贈
39	C-055	坂高麗左衛門 (11代)	萩茶碗	口径14.9、底径5.0、高8.6	1979	昭和56年度	購入
40	C-056	坂高麗左衛門 (11代)	萩茶碗	口径15.2、底径5.1、高8.7	1980	昭和56年度	購入
41	C-057	坂高麗左衛門 (11代)	萩茶入	口径3.3、胴径6.1、底径3.1、高8.4	1980	昭和56年度	購入
42	C-063	三輪休雪 (11代) (三輪壽雪)	萩水指	幅21.5、底径19.0、高17.3	1981	昭和56年度	購入
43	C-068	不詳	萩花文割俵形鉢	口径17.0×19.5、底径6.3×8.2、 高10.5	江戸時代前期	昭和56年度	購入
44	C-069	不詳	萩檜垣文筆洗形割高台茶碗	口径15.3、底径5.9、高8.2	江戸時代前期	昭和56年度	購入
45	C-070	不詳	上野割山椒向付	口径11.5、底径5.8、高8.0	江戸時代前期	昭和56年度	購入
46	C-071	不詳	萩茶碗	口径11.3、底径6.5、高8.7	江戸時代前期~中期	昭和57年度	購入
47	C-072	不詳	萩馬上杯形茶碗	口径12.0、底径4.9、高10.6	江戸時代前期~後期	昭和57年度	購入
48	C-084	不詳	萩茶碗	口径13.6、底径6.4、高8.7	江戸時代中期	昭和58年度	購入
49	C-085	三輪喜楽 (6代)	萩牡丹唐草文手洗	口径15.5、胴径29.0、底径19.0、 高36.3	文政七年(1824)	昭和58年度	購入
50	C-086	三輪喜楽 (6代)	萩飛獅子置物	18.8×22.2×36.6	江戸時代後期	昭和58年度	購入
51	C-087	三輪休和	萩壺	口径15.8、胴径33.0、底径17.0、 高27.8	1955	昭和58年度	購入
52	C-101	不詳	萩井戸形茶碗	口径16.1、底径5.6、高8.3	江戸時代前期	昭和60年度	購入
53	C-102	不詳	萩茶碗	口径13.5×12.3、底径6.5、高9.1	江戸時代中期	昭和60年度	購入
54	C-103	加藤重美	金線文陶筥	32.5×28.8×12.9	1986	昭和61年度	購入
55	C-104	加藤重美	金線文角皿	47.0×47.0×5.8	1986	昭和61年度	購入
56	C-105	大和保男	萩炎箔文陶筥	25.1×18.6×12.6	1979	昭和61年度	購入
57	C-106	三輪休雪 (11代) (三輪壽雪)	萩茶碗	口径14.0×15.5、底径9.0×9.3、 高9.7	1987	昭和62年度	購入
58	C-109	不詳	萩茶碗	口径12.3、底径5.9、高8.4	江戸時代	平成2年度	購入
59	C-110	不詳	萩鉄拐仙人置物	20.9×17.4×24.3	江戸時代	平成元年度	購入
60	C-111	三輪休和	萩三島白釉鉢	口径28.0、底径16.0、高5.8	C1962	平成元年度	購入
61	C-112	新庄貞嗣	萩灰被陶筥	32.9×15.7×17.8	1988	平成元年度	購入
62	C-113	兼田昌尚	白萩鉄土線文壺	口径9.9、胴径43.5、底径23.6、 高36.6	1985	平成2年度	購入
63	C-114	岡田裕	萩白釉窯変壺	口径17.1、胴径35.8、底径17.6、 高36.2	1988	平成2年度	購入
64	C-115	後迫奉文	黒陶窯変壺	口径17.7、胴径43.4、底径7.0、 高35.4	1981	平成2年度	購入
65	C-118	三輪休和	萩長寿樂置物	26.3×28.8×44.0	1933	平成2年度	購入
66	C-119	大和保男	萩鉢	口径44.0、底径44.6、高5.5	1988	平成2年度	寄贈
67	C-120	大和保男	萩茶碗	口径12.8、底径7.0、高9.5	1988	平成2年度	寄贈
68	C-121	大和保男	萩練上水指	口径18.2×19.9、底径17.1×17.5、 高16.0	1990	平成2年度	寄贈
69	C-122	大和保男	萩炎箔文陶筥	31.3×31.3×8.0	1988	平成2年度	寄贈
70	C-123	大和保男	萩炎彩扁壺	奥行15.0、高41.2	1991	平成5年度	寄贈
71	C-124	三輪休和	萩耳付花入	口径12.3、胴径14.0、底径12.0、 高22.3	1971	平成4年度	寄贈
72	C-125	加藤重美	堆瓷点文壺	口径28.5、胴径28.5、底径11.3、 高49.4	1981	平成5年度	購入
73	C-126	坂田慶造 (15代泥華)	萩剥離窯変花器	口径35.9、胴径37.2、底径14.0、 高31.0	1990	平成5年度	購入
74	C-128	大和保男	萩炎彩扁壺	48.0×23.1×37.8	1992	平成5年度	購入
75	C-129	坂倉新兵衛 (15代)	萩菊花文食籠	22.0×22.0×12.5	1993	平成6年度	寄贈
76	C-130	大和努	萩粉引箔彩六面花器	口径33.6、胴径43.8、底径10.0、 高36.7	1993	平成6年度	寄贈
77	C-131	加藤重美	金銀線文皿	52.0×32.0×7.5	1993	平成6年度	購入
78	C-132	不詳	萩割高台茶碗	口径11.4×11.9、底径6.9、高8.6	江戸時代	平成6年度	購入
79	C-133	不詳	萩茶碗	口径17.2、底径5.7、高8.7	江戸時代	平成7年度	購入
80	C-134	不詳	古萩獅子置物	20.6×12.2×12.0	江戸時代後期	平成7年度	購入
81	C-135	三輪休雪 (11代) (三輪壽雪)	萩角水指	19.3×19.6×17.2	1977	平成7年度	保管転換(県庁)
82	C-136	野坂康起	萩伊羅保茶碗	口径15.5、底径5.0、高7.2	1992	平成7年度	購入
83	C-137	不詳	萩割俵形茶碗	口径13.0×13.8、底径6.6、高7.2	江戸時代前期	平成8年度	購入
84	C-139	不詳	萩井戸形茶碗	口径17.0、底径5.6、高8.5	江戸時代中期	平成8年度	購入
85	C-140	兼田昌尚	萩灰被割貫茶碗	口径:11.7×12.6、胴径:13.8×12.8、 底径5.8、高11.8	1995	平成8年度	寄贈
86	C-141	兼田昌尚	萩白釉窯変割貫茶碗	12.8×12.6×11.7	1995	平成8年度	購入
87	C-142	兼田昌尚	萩粉引割貫花入	67.6×34.8×60.7	1995	平成8年度	購入
88	C-143	三輪休和	萩茶碗「蒼穹」	口径12.8、底径6.1、高8.6	c.1965	平成9年度	購入

89	C-144	大野瑞峰	萩布袋唐子置物	340×270×273	c.1957	平成9年度	購入
90	C-145	野坂康起	萩鉄灰被線文鉢	口径46.9、底径36.9、高14.2	1989	平成9年度	寄贈
91	C-146	玉村登陽	萩茶碗	口径15.0、底径6.0、高9.0	1997	平成9年度	寄贈
92	C-152	坂倉新兵衛 (15代)	萩灰被朝顔文皿	40.4×38.3×6.1	1991	平成9年度	寄贈
93	C-153	新庄貞嗣	萩台鉢	48.5×33.5×31.0、底径15.1	1996	平成9年度	購入
94	C-154	田原陶兵衛 (13代)	萩灰被茶碗	口径13.1×14.2、底径5.6、高7.8	1996	平成9年度	購入
95	C-155	兼田昌尚	萩灰被割貫茶碗	口径11.3、胴径12.4×13.0、底径6.4×6.0、高さ9.2	1995	平成9年度	購入
96	C-156	兼田昌尚	萩白釉窯変割貫水指	口径21.4、底径23.5、高22.0		平成9年度	購入
97	C-157	三輪休和	萩茶碗「巖松」	口径12.5、底径5.2、高9.2	1967	平成10年度	購入
98	C-159	三輪休和	萩割高台茶碗	口径15.4、底径5.2、高9.1	c.1967	平成10年度	寄贈
99	C-160	三輪休和	萩割高台茶碗	口径13.7×12.7、底径6.0、高9.2	1974	平成10年度	寄贈
100	C-161	三輪休和	萩茶碗	口径12.2、底径6.0、高9.8	c.1974	平成10年度	寄贈
101	C-162	三輪休和	萩茶碗「岩松」	口径14.1、底径6.0、高9.0	c.1971	平成10年度	寄贈
102	C-163	三輪休和	萩茶碗	口径15.2、底径5.0、高8.0	c.1975	平成10年度	寄贈
103	C-164	三輪休和	萩茶碗	口径14.3、底径5.0、高8.1	1976	平成10年度	寄贈
104	C-165	三輪休和	萩茶碗	口径14.3×13.4、底径5.4、高8.0	1976	平成10年度	寄贈
105	C-166	三輪休和	萩大海茶入	口径5.8、底径4.2、高6.4	c.1968	平成10年度	寄贈
106	C-167	三輪休和	萩灰被花入	口径4.8、胴径15.5、底径12.0、高16.2	1959	平成10年度	寄贈
107	C-168	三輪休和	萩花入	口径7.0、胴径11.8、底径6.8、高12.8	1975	平成10年度	寄贈
108	C-169	三輪休和	萩德利	口径4.3、胴径8.8、底径5.0、高12.8	1967	平成10年度	寄贈
109	C-170	三輪休和	萩德利	口径4.2、胴径9.5、底径5.7、高13.6	1968	平成10年度	寄贈
110	C-171	三輪休和	萩丸香合	口径6.4、底径6.9、高5.3	1969	平成10年度	寄贈
111	C-172	三輪休和	萩松笠香合	口径4.9、底径8.7、高4.1	1971	平成10年度	寄贈
112	C-173	三輪休和	萩四方香合	6.7×5.2×4.7		平成10年度	寄贈
113	C-174	三輪休和	萩はじき香合	5.3×5.3×5.0	1975	平成10年度	寄贈
114	C-175	坂田泥華 (坂田泥珠)	萩茶碗	口径16.6、底径5.6、高6.7	1979	平成10年度	寄贈
115	C-176	新庄貞嗣	萩灰被盒	35.3×20.1×28.5	1996	平成10年度	寄贈
116	C-180	加藤重美	彩箱	40.8×14.0×13.5	1998	平成11年度	寄贈
117	C-181	三輪榮造	黒地金銀彩水指	17.1×17.0×17.6	1998	平成11年度	寄贈
118	C-182	三輪榮造	萩掛分茶碗	口径11.8、底径5.5、高8.3	1999	平成11年度	寄贈
119	C-183	三輪榮造	萩茶碗	口径13.0、底径6.0、高9.4	1999	平成11年度	寄贈
120	C-184	三輪榮造	萩茶碗	口径12.5、底径5.5、高9.7	1999	平成11年度	寄贈
121	C-185	三輪榮造	萩茶碗	口径12.5、底径5.4、高8.0		平成11年度	寄贈
122	C-186	三輪榮造	萩灰被水指	16.4×16.5×17.5		平成11年度	寄贈
123	C-187	三輪榮造	萩面取花入	15.4×15.3×27.3	1992	平成11年度	寄贈
124	C-188	三輪榮造	萩壺	口径14.0×18.0、胴径26.2×25.0、底径13.7、高30.2	1998	平成11年度	寄贈
125	C-189	三輪休雪 (初代)	萩赤楽茶碗	口径10.5、底径4.8、高7.6	1703	平成12年度	寄贈
126	C-190	三輪喜楽 (6代)	赤楽大黒天置物	30.0×21.7×25.2	江戸時代後期	平成12年度	寄贈
127	C-191	三輪勘七	萩赤楽茶碗	口径11.0、底径5.3、高8.9	江戸時代中期～後期	平成12年度	寄贈
128	C-192	三輪喜楽 (6代)	萩飛獅子置物	20.3×20.3×32.0	江戸時代後期	平成12年度	寄贈
129	C-193	三輪喜楽 (6代)	萩牡丹唐獅子香炉	21.7×16.0×23.5		平成12年度	寄贈
130	C-194	三輪喜楽 (6代)	萩鉄拐仙人置物	23.5×17.8×26.8	江戸時代後期	平成12年度	寄贈
131	C-195	三輪喜楽 (6代)	萩西行置物	19.5×16.0×20.0	江戸時代後期	平成12年度	寄贈
132	C-196	三輪喜楽 (6代)	萩郭子儀置物	23.1×18.5×30.0	江戸時代後期	平成12年度	寄贈
133	C-197	三輪喜楽 (6代)	萩郭子儀置物	20.0×17.0×30.8		平成12年度	寄贈
134	C-198	三輪休雪 (7代)	萩立獅子置物	22.0×29.0×36.5	江戸時代後期	平成12年度	寄贈
135	C-199	三輪休雪 (7代)	萩蝦蟇仙人置物	31.8×33.8×40.3	江戸時代後期	平成12年度	寄贈
136	C-200	三輪雪山 (8代)	萩編笠水指	口径25.2、底径9.8、高12.5	江戸時代後期	平成12年度	寄贈
137	C-202	三輪休雪 (11代) (三輪壽雪)	白萩手桶花入	口径:9.5×11.0、底径:19.0×21.0、高33.2	1965	平成13年度	寄贈
138	C-203	不詳	萩割高台茶碗	口径14.9、底径6.8、高9.3	江戸時代前期	平成13年度	寄贈
139	C-204	不詳	萩三鳥写茶碗「椎葉」	口径14.1、底径5.4、高8.9	1684	平成13年度	寄贈
140	C-205	三輪休和	萩三ツ葉蓋置	6.8×4.9	1963	平成14年度	寄贈
141	C-206	三輪休和	萩甫屋蓋置	7.1×4.5×8.5	1963	平成14年度	寄贈
142	C-207	三輪休和	萩一閑人蓋置	6.8×5.5×6.5	1965	平成14年度	寄贈
143	C-208	三輪休和	萩つくね蓋置	5.3×5.3×5.7	1969	平成14年度	寄贈
144	C-209	三輪休和	萩千切蓋置	5.1×5.1×5.2	1969	平成14年度	寄贈
145	C-210	三輪休和	萩割高台茶碗「軒の松」	口径14.5、底径6.1、高8.4	1970	平成14年度	寄贈

146	C-211	三輪休和	萩丸香合	6.0×6.0×3.7	1973	平成14年度	寄贈
147	C-212	三輪休和	萩茶入	口径4.0、胴径7.0、高9.6	1975	平成14年度	寄贈
148	C-213	林半六(6代:泥平)	萩富士図割高台茶碗	口径13.2、底径5.4、高6.5	江戸時代後期	平成14年度	寄贈
149	C-214	波多野善蔵	萩窯変壺	口径22.7、胴径40.3、高28.2	1977	平成14年度	寄贈
150	C-215	大和吉孝	萩井戸形茶碗	口径15.0、底径5.5、高8.9	1999	平成14年度	寄贈
151	C-216	大和祐二	萩窯変掛分皿	口径53.8、底径39.2、高さ8.7	1999	平成14年度	寄贈
152	R-008	三輪休和	ぐいのみ	口径6.0、胴径6.6、底径4.5、高5.5		昭和54年度	保管転換(贈)
153	R-016	三輪休和	萩井戸形茶碗	口径:15.3、底径:5.9、高さ:9.5		昭和57年度	寄贈
154	R-040	不詳	萩井戸形茶碗	口径15.9、底径4.8、高さ7.5	江戸時代後期	平成4年度	寄贈
155	R-041	坂高麗左衛門(9代)	萩曆手筒茶碗	口径9.7、底径4.4、高さ7.1		平成4年度	寄贈
156	R-042	山縣麗秀	萩茶碗	口径12.2、底径4.7、高さ7.2		平成4年度	寄贈
157	R-085	三輪休和	萩瓶掛	口径38.3、胴径42.0、底径30.0、高26.0	昭和初期	平成16年度	寄贈

(4) 美術図書

平成19年度

図書	340冊
カタログ	435冊
逐次刊行物	542冊

平成20年度

図書	69冊
カタログ	303冊
逐次刊行物	511冊

入館者数一覧

平成19年度 (2007)

展覧会名	開催期間	有 料											小計
		個 人						団 体					
		一般		学生		計	一般		学生		計		
		料金	人数	料金	人数	人数	料金	人数	料金	人数	人数		
常設展	19.4.1～ 3.31 (314)	190	6,102	120	227	6,329	160	369	100	63	432	6,761	
第30回 伝統工芸新作展	美 19.6.1～ 6.10 (9)	300	475	300	4	479		0		0	0	479	
第46回 日本現代工芸美術展	美 19.6.15～ 6.24 (9)	600	2,991	300	40	3,031	500	23		0	23	3,054	
第25回 山口県書道連盟展	美 19.7.24～ 7.29 (6)			0		0	0				0	0	
第61回 山口県美術展覧会	自 19.8.23～ 9.9 (16)	250	5,832	200	130	5,962	200	1		0	1	5,963	
田中米吉展	共 19.9.28～ 10.28 (27)	700	1,996	500	72	2,068	500	47	300	0	47	2,115	
モディリアーニと 妻ジャンヌの物語展	共 19.11.10～ 12.16 (32)	1,300	16,283	1,100	655	16,938	1,100	443		0	443	17,381	
県大卒業制作展	美 20.2.6～ 2.10 (5)					0					0	0	
芸短卒業制作展	美 20.2.14～ 2.17 (4)					0					0	0	
山大卒業制作展	美 20.2.21～ 2.24 (4)					0					0	0	
光展	美 20.3.5～ 3.9 (5)					0					0	0	
合計			33,679		1,128	34,807		883		63	946	35,753	

平成20年度 (2008)

展覧会名	開催期間	有 料											小計
		個 人						団 体					
		一般		学生		計	一般		学生		計		
		料金	人数	料金	人数	人数	料金	人数	料金	人数	人数		
常設展	20.4.1～ 3.31 (302)	190	7,929	120	240	8,169	160	3,407	100	255	3,662	11,831	
いわさきちひろ展	共 20.4.17～ 5.25 (39)	1,000	19,327	800	320	19,647	800	28	600	0	28	19,675	
第31回 伝統工芸新作展	美 20.5.30～ 6.8 (9)	300	381	300	1	382		0		0	0	382	
ベルリン展	共 20.7.30～ 9.21 (47)	1,200	8,152	1,000	367	8,519	1,000	217	800	2	219	8,738	
第62回 山口県美術展覧会	自 20.10.9～ 10.26 (16)	250	3,403	200	58	3,461	200	53	150		53	3,514	
運慶流展	共 20.11.11～ 12.21 (36)	1,000	14,469	800	185	14,654	800	4,423	600	256	4,679	19,333	
県大卒業制作展	美 21.2.4～ 2.8 (5)					0					0	0	
芸短卒業制作展	美 21.2.12～ 2.15 (4)					0					0	0	
山大卒業制作展	美 20.2.19～ 2.22 (4)					0					0	0	
合計			53,661		1,171	54,832		8,128		513	8,641	63,473	

無 料											合 計
小・中生	高校生	18才以下 のその他	招待券 ポスター	案内状	老人 (70以上)	身障	教育・文化週間 及び無料展覧会		その他	小計	
							一般	学生			
1,208	350	102	7	7	2,071	279	146	0	677	4,847	11,608
53	1	9	435	120	282	18			49	967	1,446
117			1,289	361		200	182	5	381	2,535	5,589
39	11	6			37	5	1,271	192	5	1,566	1,566
665	82	2	392	64	1,343	249			1,563	4,360	10,323
954	45	4	577	352	843	105			689	3,569	5,684
1,763	525	33	8,075	240	3,866	557			1,811	16,870	34,251
							327	178		505	505
20	6	15			15		458	126		640	640
6	2	11			1	1	285	73		379	379
8	17	8			113	1	442	32		621	621
4,833	1,039	190	10,775	1,144	8,571	1,415	3,111	606	5,175	36,859	72,612

無 料											合 計
小・中生	高校生	18才以下 のその他	招待券 ポスター	案内状	老人 (70以上)	身障	教育・文化週間 及び無料展覧会		その他	小計	
							一般	学生			
896	448	224	3,329	19	5,292	569			791	11,568	23,399
4,427	761	46	8,647	237	6,206	1,000			3,366	24,690	44,365
145	4		335	197	201	19			64	965	1,347
830	180	19	4,902	167	2,971	400			1,019	10,488	19,226
270	51	1	437	62	1,212	103			467	2,603	6,117
1,118	570	11	4,346	232	8,337	901			1,272	16,787	36,120
5	1				19		209	133		367	367
18	6	1			39	1	415	91	2	573	573
5	2	19			4	9	352	133	15	539	539
7,714	2,023	321	21,996	914	24,281	3,002	976	357	6,996	68,580	132,053

組織等

美術品収集審査委員

浦上 敏朗	山口県立萩美術館・浦上記念館名誉館長
奥平 俊六	大阪大学文学部教授
奥津 聖	山口大学人文学部教授（19年度） 山口大学名誉教授（20年度）
菊屋 吉生	山口大学教育学部教授
森川 紘一郎	周南市美術博物館館長 （以上19・20年度）

美術館職員構成

館長	松原 清
副館長（事）	藤井 一六
副館長（事）	安井雄一郎

総務課

課長（事）	山本 一夫
主任（事）	三好 潤一
（事）主事	西野真由美

学芸課

課長（事）	斎藤 郁夫
主任（事）	荏開津通彦
主任（事）	岩井 共二
（事）学芸員	劔持あずさ

普及課

課長（事）	河野 通孝
主任（事）	前田 淳子
（事）学芸員	杉野 愛

（以上19年度）

館長	松原 清
副館長（事）	杉原 敏雄
副館長（事）	安井雄一郎

総務課

課長（事）	山本 一夫
主任（事）	内 宏文
（事）主事	西野真由美

学芸課

課長（事）	斎藤 郁夫
主任（事）	荏開津通彦
主任（事）	岩井 共二
（事）学芸員	瀬谷 愛

普及課

課長（事）	河野 通孝
主任（事）	前田 淳子
専門学芸員（事）	劔持あずさ

（以上20年度）

職員の動静

19.4

総務課長 長尾勉、国際課主幹に転出
教育研修所 主査 山本一夫、総務課長に転入
専門学芸員 岩井共二、学芸課主任に昇任
普及課学芸員 杉野愛、ドイツ連邦共和国に出張（4.22～4.27）

20.3

副館長 藤井一六、山口県を定年退職

20.4

監理課調整監 杉原敏雄、副館長に転入
総務課主任 三好潤一、企業局電気工水課主任に転出
周南県税事務所主任 内宏文、総務課主任に転入
学芸課学芸員 剣持あずさ、普及課専門学芸員に転入昇任
普及課学芸員 杉野愛、学芸課学芸員に転入

20.7

学芸課学芸員 杉野愛、瀬谷愛に改姓

20.8

普及課専門学芸員 剣持あずさ、フィンランド共和国に出張（8.31～9.6）

21.2

普及課長 河野通孝、フィンランド共和国に出張（2.6～2.11）

21.3

専門学芸員 剣持あずさ、山口県を退職（近畿大学文芸学部専任講師に転職）
学芸員 瀬谷愛、山口県を退職（東京国立博物館研究員に転職）

発行 山口県立美術館
山口市亀山町3-1
Tel 083-925-7788 (代表)
Fax 083-925-7790 (総務課)
Fax 083-925-7784 (学芸・普及課)

発行日 平成22年3月31日

印刷 大村印刷株式会社
Tel 0835-22-2555

